

**大府市ヤングケアラー支援アンケート調査
調査結果報告書**

令和5年3月

大府市

目次

1	調査の概要	1
1-1	調査の目的	1
1-2	調査設計	1
1-3	回収結果	1
1-4	報告書の見方	1
2	調査結果の概要	2
2-1	教職員向けアンケート結果	2
2-2	小学生・中学生向けアンケート結果	4
3	調査結果	7
3-1	教職員向けアンケート結果	7
1	基本属性	7
2	勤務状況について	8
3	子どもの権利について	10
4	ヤングケアラーのイメージ・影響について	15
5	ヤングケアラーと思われる子どもについて	17
6	ヤングケアラーへの対応・支援について	21
7	今後のヤングケアラーの支援に必要なことについて	23
3-2	小学生向けアンケート結果	30
1	基本属性	30
2	ふだんの生活について	32
3	家族のお世話について	43
4	お世話をするこゝのつらさ・悩み	48
5	ヤングケアラーについて	52
3-3	中学生向けアンケート結果	56
1	基本属性	56
2	ふだんの生活について	58
3	家族のお世話について	67
4	お世話をするこゝのつらさ・悩み	72
5	ヤングケアラーについて	76
4	調査結果の考察、課題	82

1 調査の概要

1-1 調査の目的

本調査は、市内の小学生および中学生、また学校教職員を対象にヤングケアラーの認識およびヤングケアラーについて現状を把握し、今後の支援策策定の基礎資料とすること、またヤングケアラーに関する認識を高めることを目的として実施しました。

1-2 調査設計

この調査は、下記の設計で実施した。

調査対象	・大府市内公立小中学校に在籍する児童生徒（小学5年生および中学2年生） ・大府市内公立小中学校および市内県立高等学校に勤務する教職員（管理職を除く）
調査方法	Web 回答方式
調査期間	令和4年12月13日～12月23日

1-3 回収結果

	小学5年生	中学2年生	教職員
対象者数（人） ※令和4年12月1日時点	924	865	664
回答件数	254	445	228
回収率	27.5%	51.4%	34.3%

1-4 報告書の見方

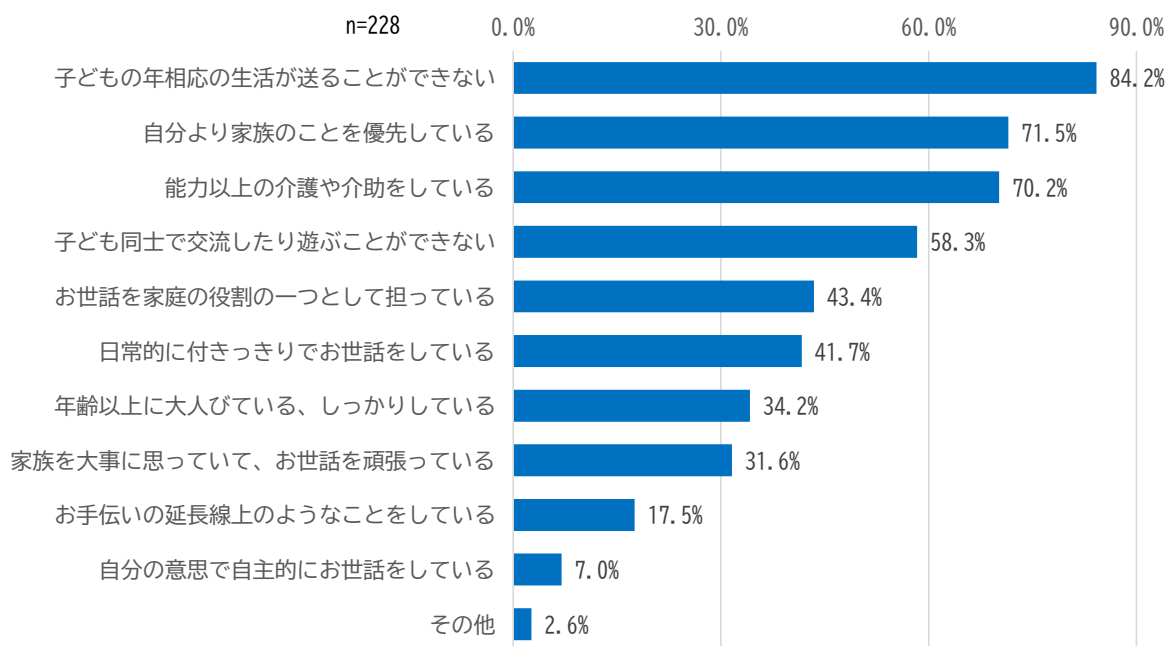
- (1) 比率を求める際の基数となるべき実数は、件数（=n）として掲載した。したがって比率は、nを100%として算出しています。
- (2) 比率はすべて%で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- (3) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、全体のうち何%なのかという見方をしている。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超えます。
- (4) 本報告書中の表、グラフおよび文章における回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に一部を省略して掲載している場合があります。

2 調査結果全体の概要

2-1 教職員向けアンケート結果

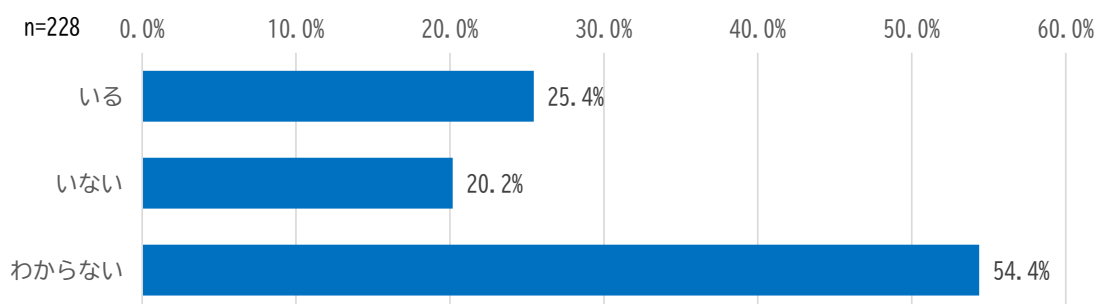
<ヤングケアラーについて>

ヤングケアラーについてのイメージで該当するものは、「子どもの年相応の生活が送ることができない」が84.2%で最も高く、次いで「自分より家族のことを優先している」(71.5%)、「能力以上の介護や介助をしている」(70.2%)の順となっています。

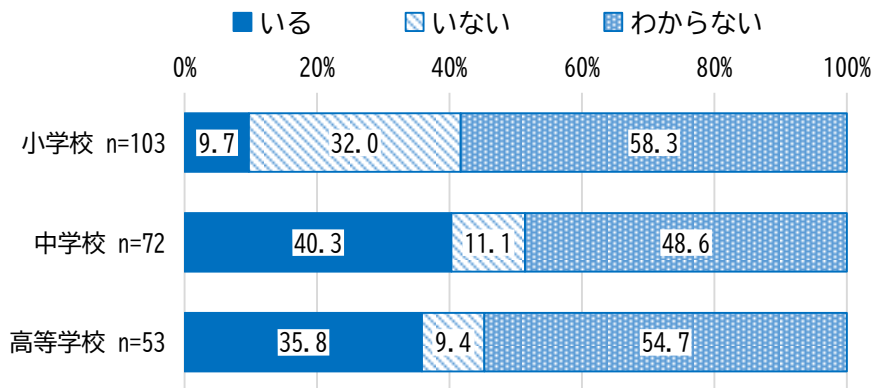


<ヤングケアラーと思われる子どもについて>

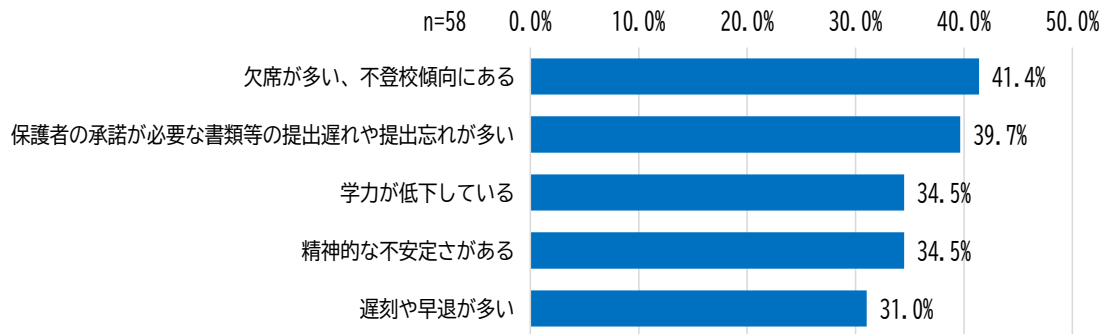
勤務校でヤングケアラーではないかを感じる子どもの有無は、「いる」が25.4%、「いない」が20.2%となっています。また「わからない」が54.4%で最も高くなっています。



学校別にみると、中学校、高等学校で「いる」がそれぞれ40.3%、35.8%となっており、「いない」は11.1%、9.4%となっています。小学校では「いる」が9.7%で、「いない」が32.0%となっています。

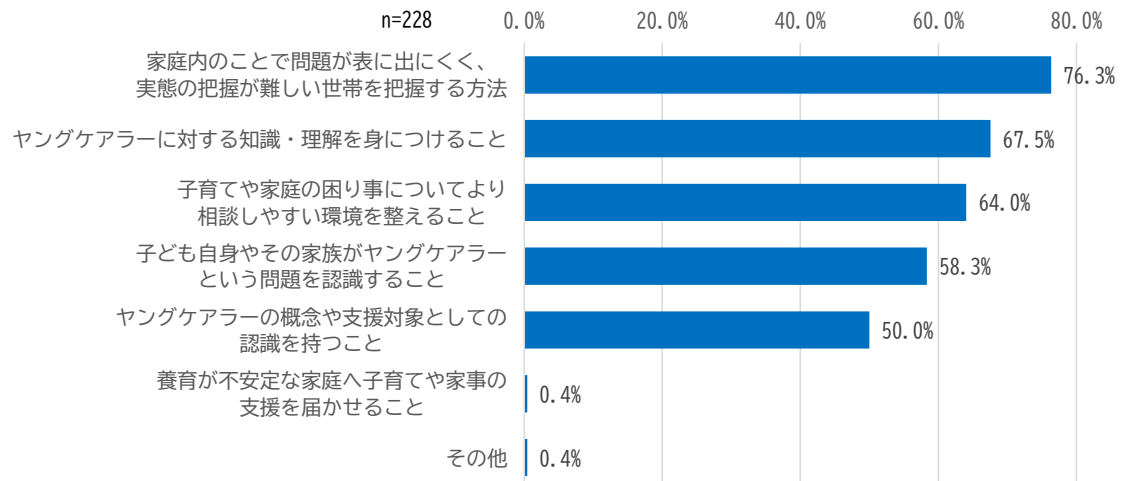


ヤングケアラーではないかと感じる子どもの該当する状況の上位項目は、「欠席が多い、不登校傾向にある」が41.4%で最も高く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(39.7%)、「学力が低下している」「精神的な不安定さがある」(ともに34.5%)、「遅刻や早退が多い」(31.0%)の順となっています。



<ヤングケアラーの子どもへの対応について>

ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が76.3%で最も高く、次いで「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」(67.5%)、「子育てや家庭の困り事についてより相談しやすい環境を整えること」(64.0%)の順となっています。

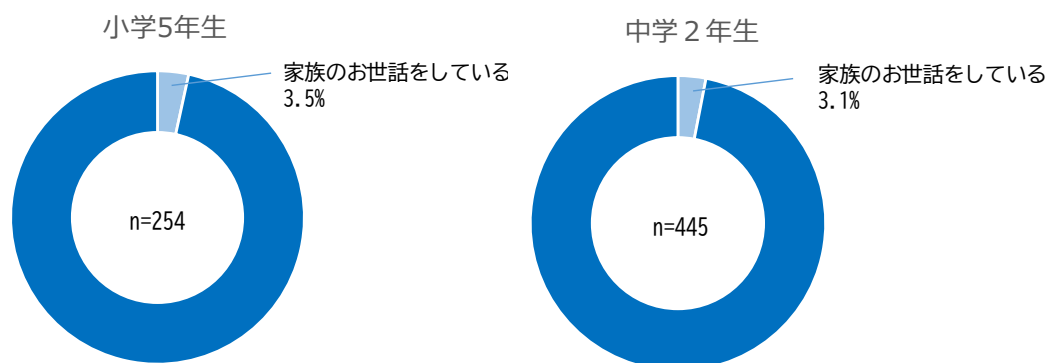


2-2 小学生・中学生向けアンケート結果

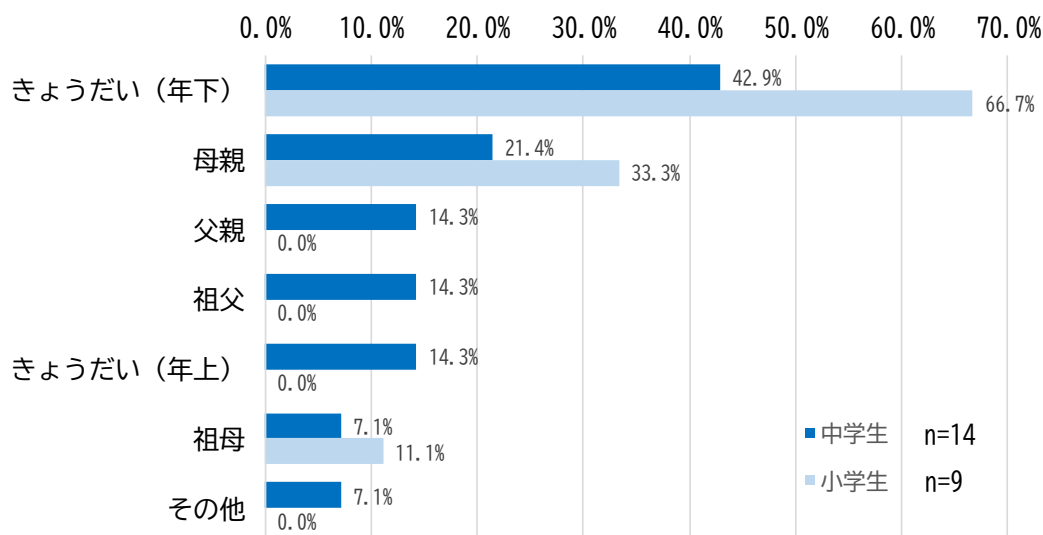
<家族のお世話について>

家族にお世話が必要な人がいるかについては、小学生では「いる」が7.1%（18件）、中学生では4.7%（21件）となっています。そのうち自分がお世話をしている人は、小学生では50.0%（9件）で、中学生では66.7%（14件）となっています。

家族のお世話をしている子どもは、小学生全体では3.5%、中学生全体では3.1%となっています。

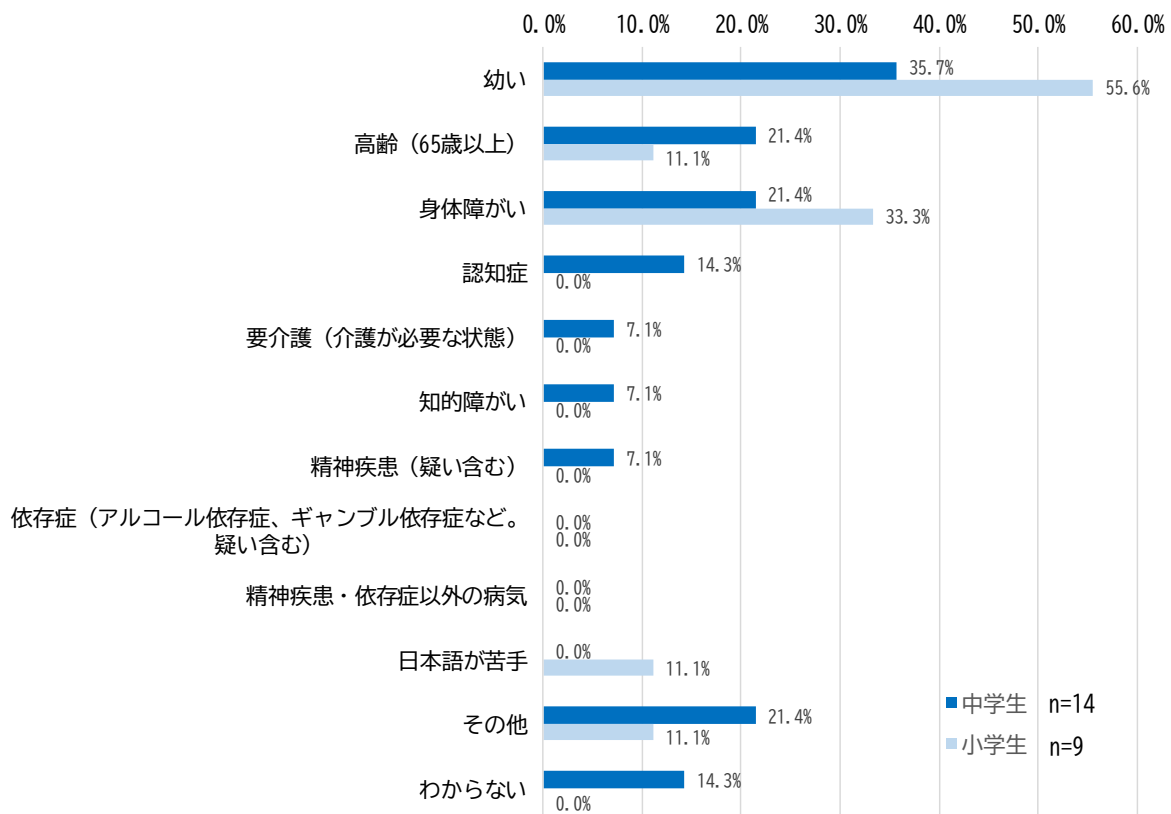


誰にお世話をしているかについては、「きょうだい（年下）」が小中学生とも最も高く、小学生は66.7%、中学生は42.9%となっています。次いで「母親」が高くなっており、小学生では33.3%、中学生では21.4%となっています。中学生ではきょうだい（年下）と母親の他に「父親」、「祖父」、「きょうだい（年上）」「その他」が回答されています。

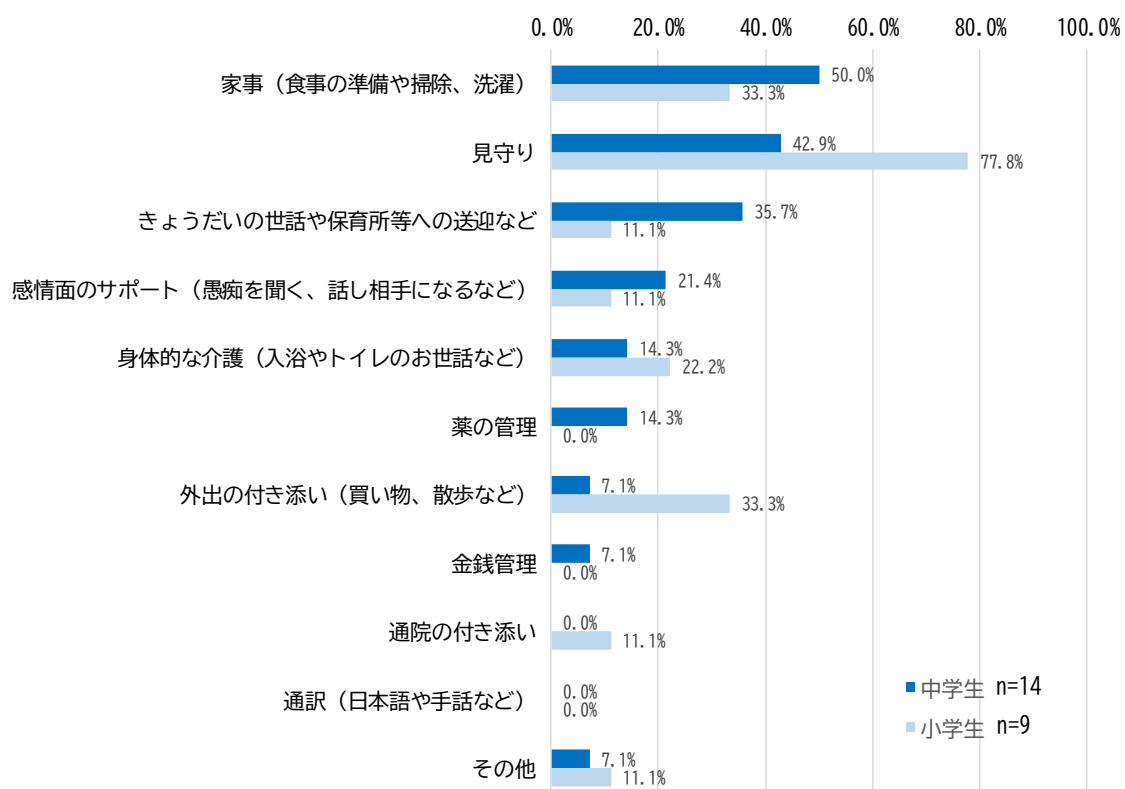


お世話をしている人の状況は、「若い」が小中学生とも最も高く、小学生は55.6%、中学生は35.7%となっています。中学生は「若い」に次いで「高齢（65歳以上）」「身体障がい」「その他」がともに21.4%となっています。

小学生は「若い」に次いで「身体障がい」が33.3%、「高齢（65歳以上）」「日本語が苦手」「その他」がともに11.1%となっています。

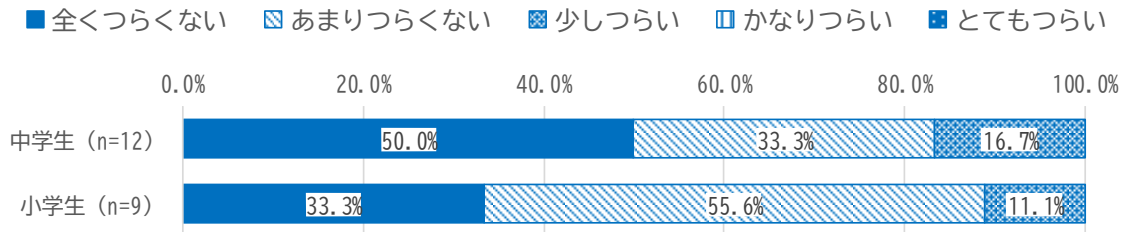


お世話の種別は、中学生では「家事」が50.0%で最も高く、次いで「見守り」が42.9%となっています。小学生では「見守り」が77.8%で最も高く、次いで「家事」「外出の付き添い（買い物、散歩など）」がともに33.3%となっています。

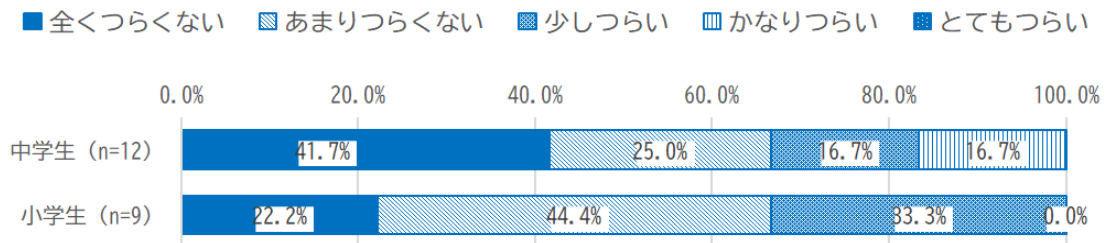


<お世話のつらさ・悩みについて>

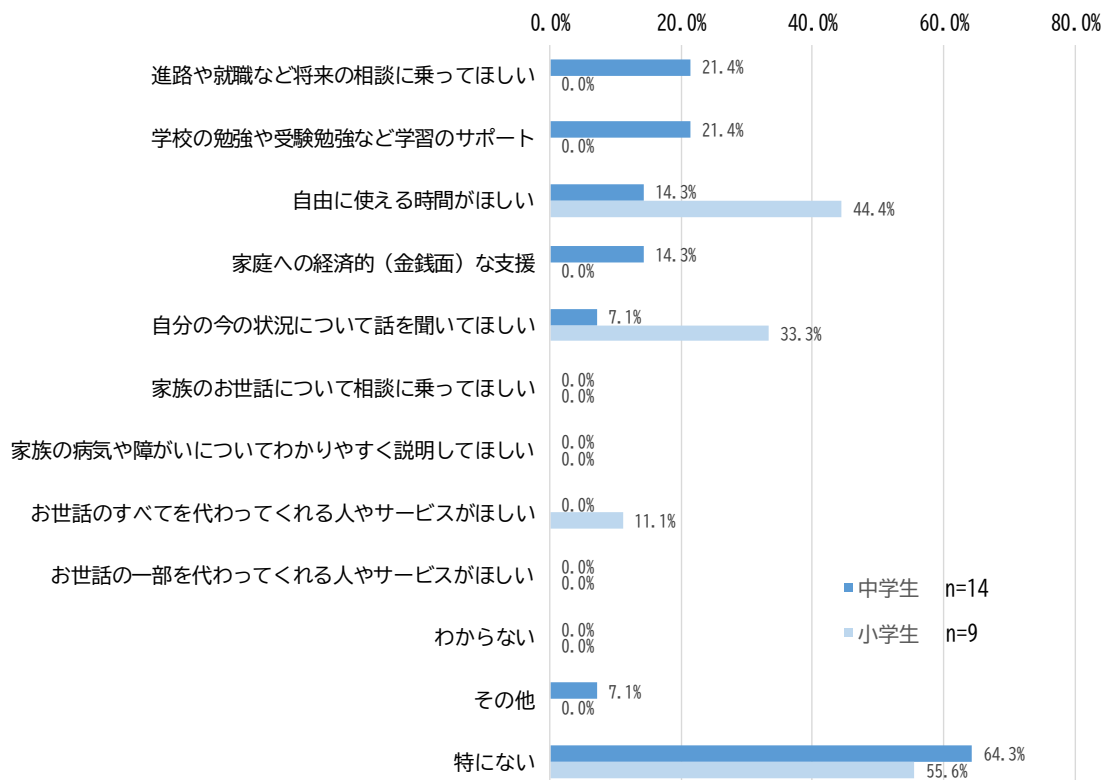
お世話をするることについての体力面のつらさは、中学生では「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 83.3%となっています。小学生では「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 88.9%となっています。



気持ちの面のつらさは、中学生では「少しつらい」と「かなりつらい」をあわせた“つらい”が 33.4%となっています。小学生では「少しつらい」が 33.3%となっています。



学校や周りの大人にしてもらいたいことは、小学生は「自由に使える時間がほしい」が 44.4%で最も高くなっており、中学生では「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」がともに 21.4%で最も高くなっています。

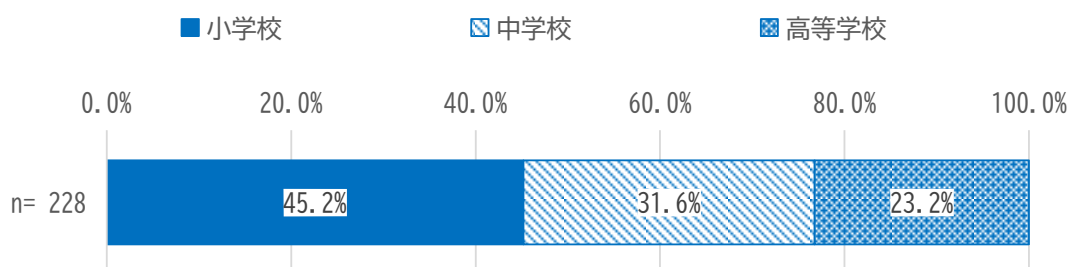


3 調査結果

3-1 教職員向けアンケート結果

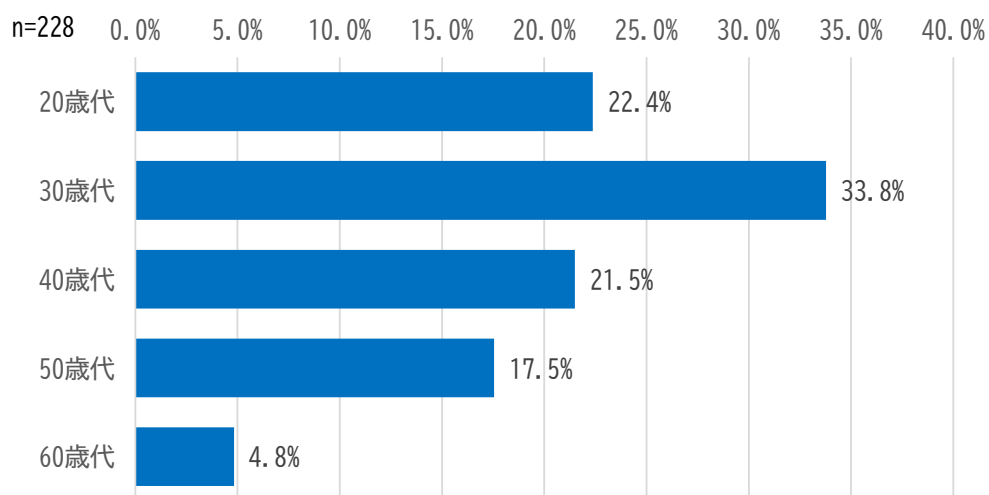
1 基本属性

問1 あなたの勤務校を選んでください。(あてはまるもの一つ選択)



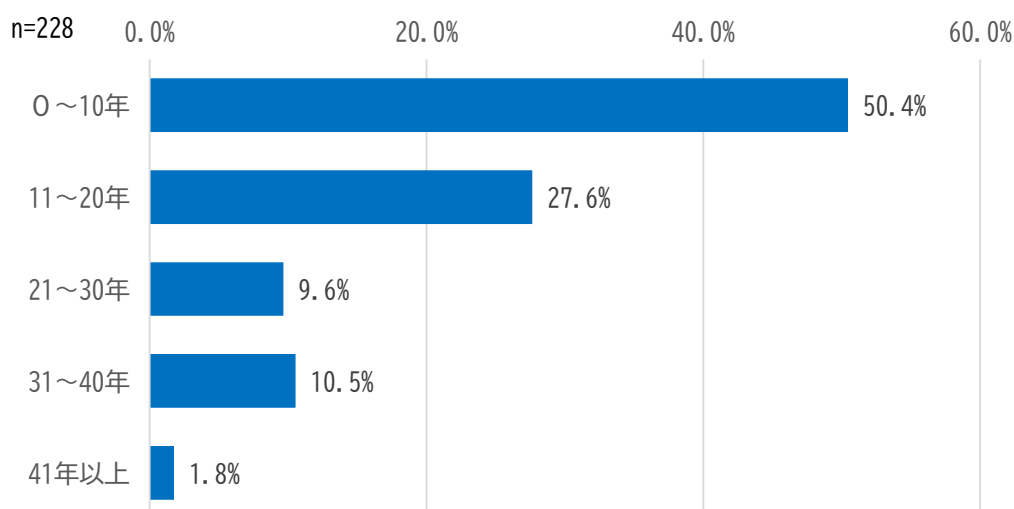
回答者の勤務校は、「小学校」が45.2%、「中学校」が31.6%、「高等学校」が23.2%となっています。

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(数字を入力)



回答者の年齢は、「30歳代」が33.8%で最も高く、次いで「20歳代」(22.4%)、「40歳代」(21.5%)の順となっています。

問3 あなたの学校教職員としての経験年数を教えてください。(数字を入力)



学校教職員としての経験年数は、「0～10年」が50.4%で最も高く、次いで「11～20年」(27.6%)、「31～40年」(10.5%)の順となっています。

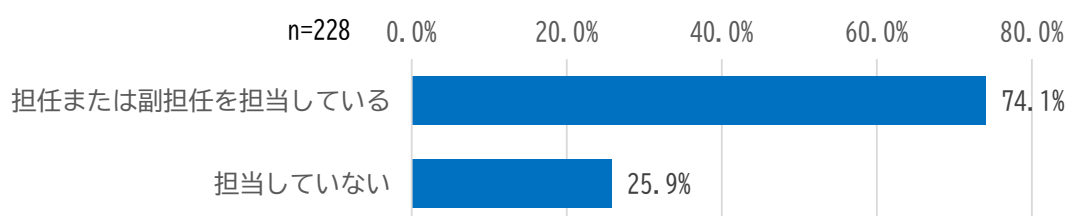
2 勤務状況について

<結果の概要>

- ・クラス担任、副担任の担当については、「担任または副担任を担当している」が74.1%となっています。
- ・日頃の児童生徒との関わりでの子どもたちの話をよく聞いたり、雑談したりする心のゆとりがあると思うかは、あると“思う”が67.5%、あると“思わない”が32.4%となっています。教職員同士が連携して業務に対応していると思うかは、“思う”が87.7%、“思わない”が12.2%となっています。

<詳細>

問4 あなたはクラス担任を担当していますか。(あてはまるもの一つ選択)

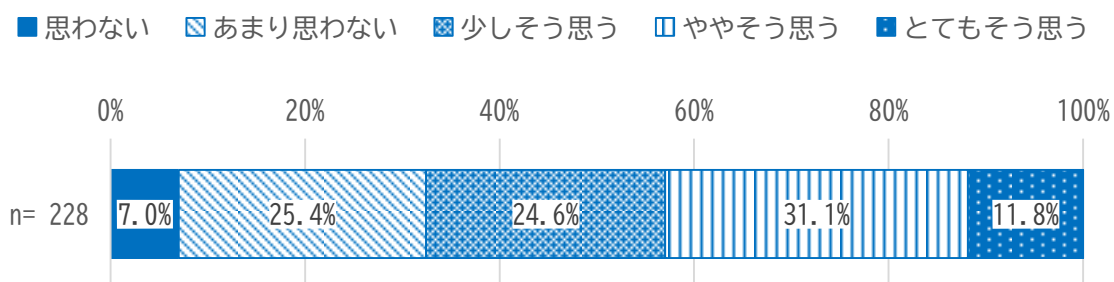


クラス担任の担当については、「担任または副担任を担当している」が74.1%、「担当していない」が25.9%となっています。

問5 日頃の仕事についてあてはまるものを選んでください。
 (それぞれについてあてはまるもの一つ選択)

①児童生徒との関わり

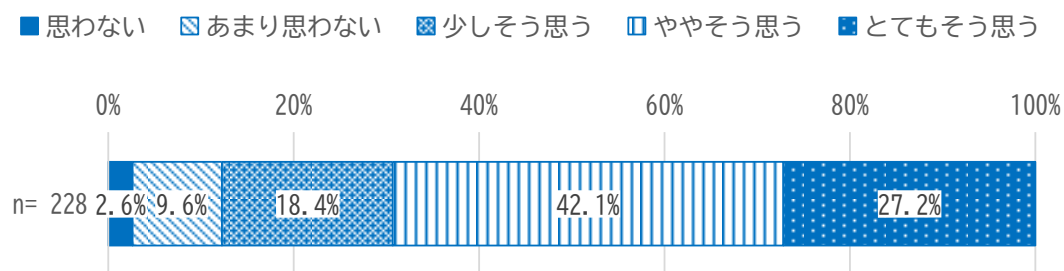
子どもたちの話をよく聞いたり、雑談したりする心のゆとりがありますか。



児童生徒との関わりについて、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた心のゆとりがあると“思う”が67.5%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた心のゆとりがあると“思わない”が32.4%となっています。

②教職員同士の関わり

教職員同士が連携して業務に対応していると思いますか。



教職員同士の関わりについて、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた連携して業務に対応していると“思う”が87.7%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた連携して業務に対応していると“思わない”が12.2%となっています。

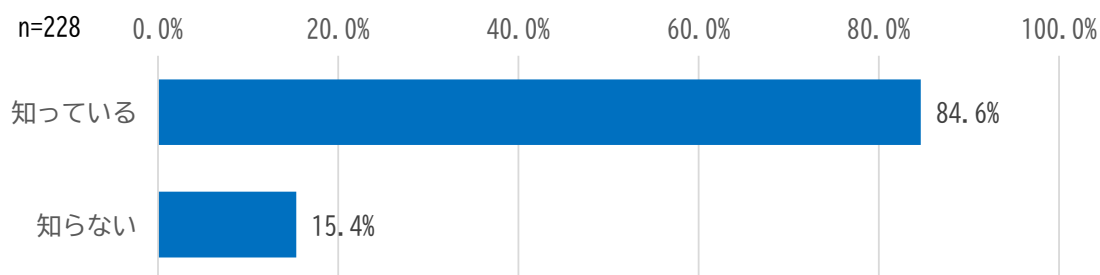
3 子どもの権利について

<結果の概要>

- ・子どもの権利の認知度は、全体で 86.4%となっており、年齢や勤務年数などの属性に関係なく広く知られている結果となっています。また子どもの権利を知っている教職員のうちヤングケアラーである子どもの権利を考えたことがある人は 68.4%となっています。
- ・ヤングケアラーである子どもの権利について考えるきっかけは、「テレビの報道、番組」が 75.8%で最も高く、次いで「インターネット上のニュース記事」(41.7%)、「新聞記事」(34.8%)の順となっています。

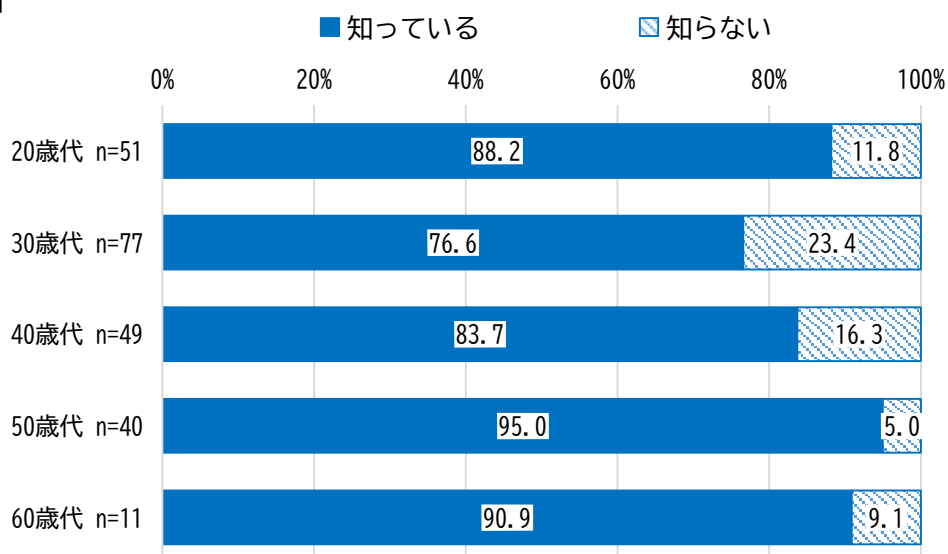
<詳細>

問6 あなたは子どもの権利について知っていますか。(あてはまるもの一つ選択)



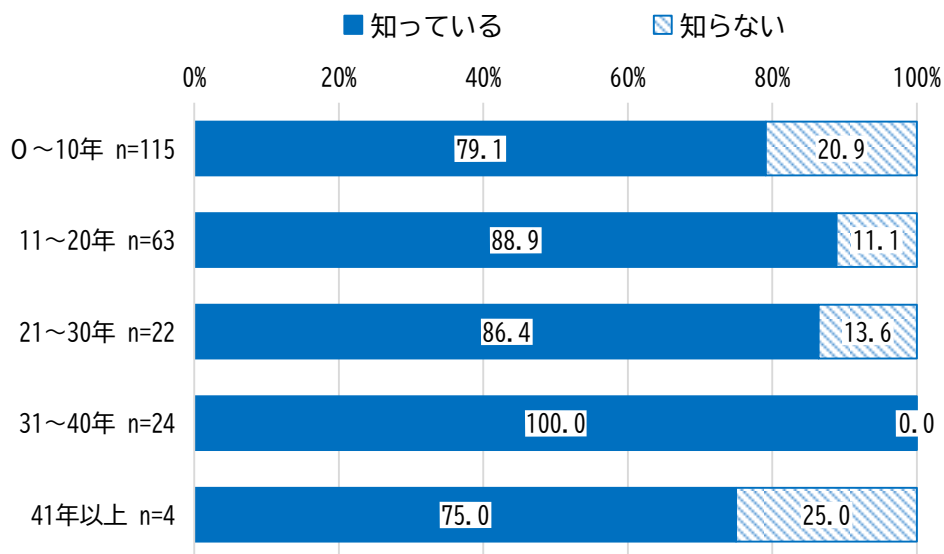
子どもの権利についての認知度は、「知っている」が 84.6%、「知らない」が 15.4%となっています。

【年齢別】



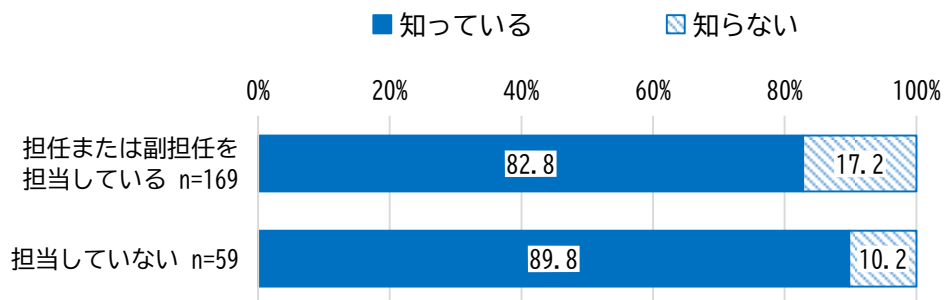
年齢別にみると、50歳代以上で「知っている」が90%以上と高くなっています。一方、30歳代では「知らない」が23.4%と他の年代に比べて高くなっています。

【教職員経験年数別】



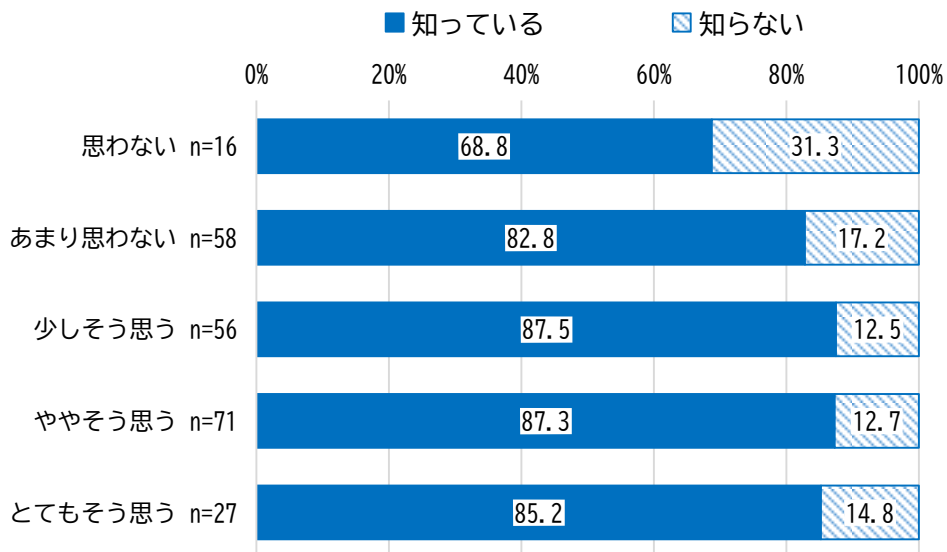
教職員経験年数別にみると、31～40年で「知っている」が100%と最も高くなっています。

【クラス担任有無別】



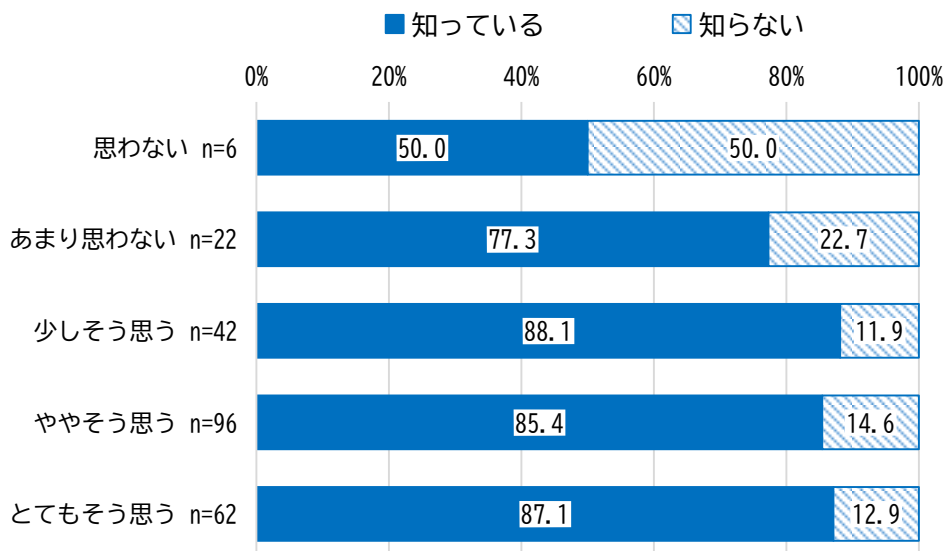
クラス担任有無にみても、大きな差はみられません。

【子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別（児童生徒との関わり）】



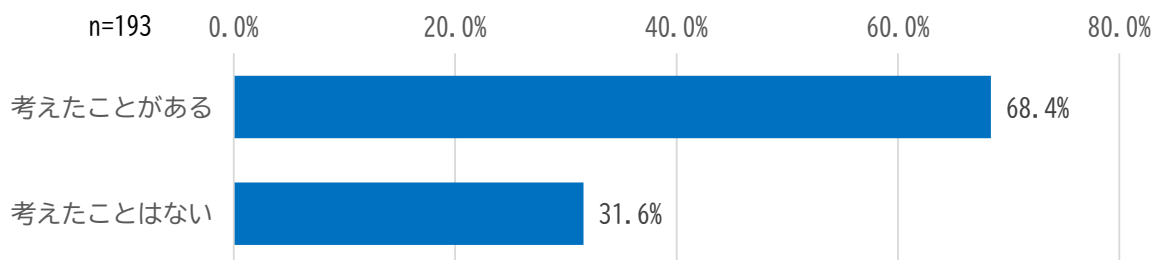
子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別にみると、心のゆとりがあると思わないで「知らない」が31.3%と高くなっています。

【教職員同士の連携業務の対応の有無別（教員同士の関わり）】



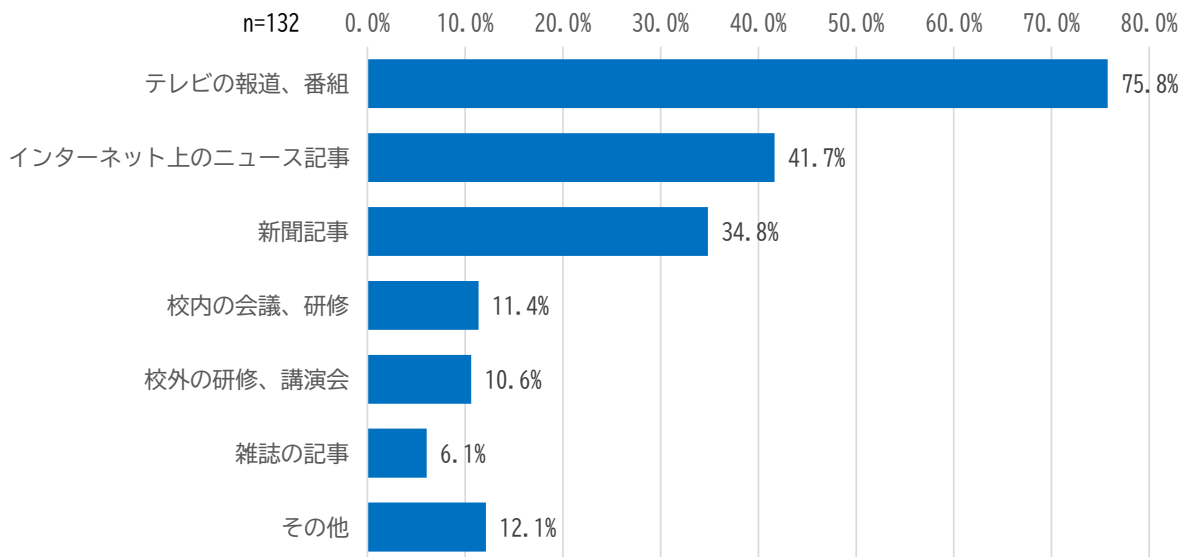
教職員同士の連携業務の対応の有無別でみると、連携して業務に対応していると思わないで「知らない」が50.0%となっています。

問7 問6で「1知っている」を選んだ方にお聞きします。ヤングケアラーである子どもの権利について今まで意識したことや、考えたことがありますか。
(あてはまるもの一つ選択)



ヤングケアラーである子どもの権利について意識したことについて、「考えたことがある」が68.4%、「考えたことはない」が31.6%となっています。

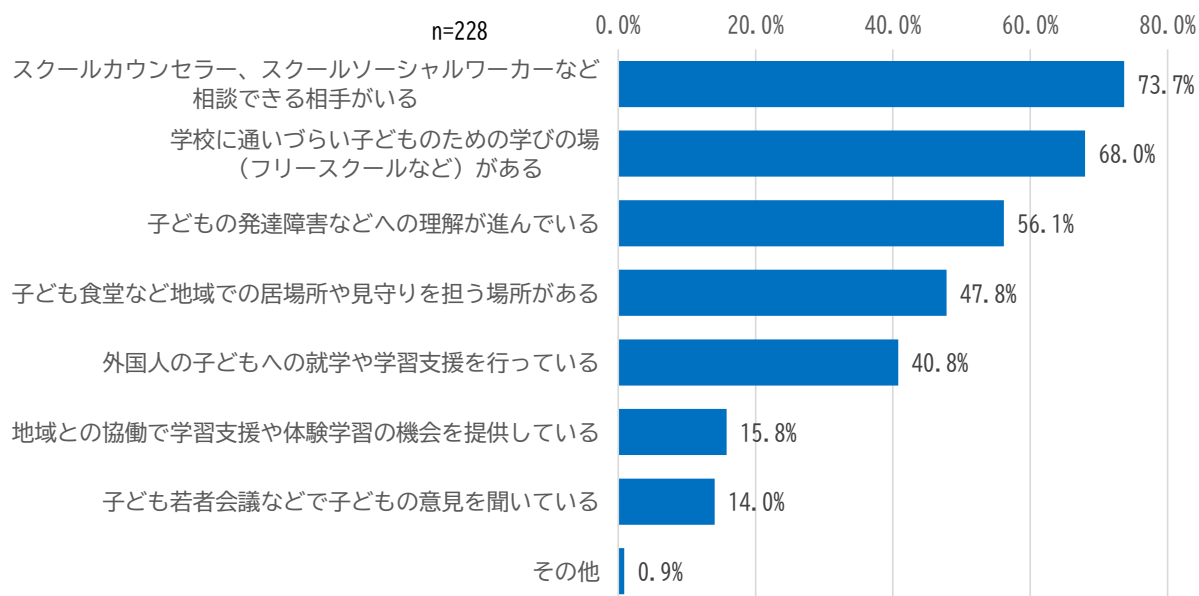
問8 問7で「1考えたことがある」を選んだ方にお聞きします。ヤングケアラーである子どもの権利について何で考えるきっかけを得ましたか。
(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラーである子どもの権利について考えるきっかけは、「テレビの報道、番組」が75.8%で最も高く、次いで「インターネット上のニュース記事」(41.7%)、「新聞記事」(34.8%)の順となっています。

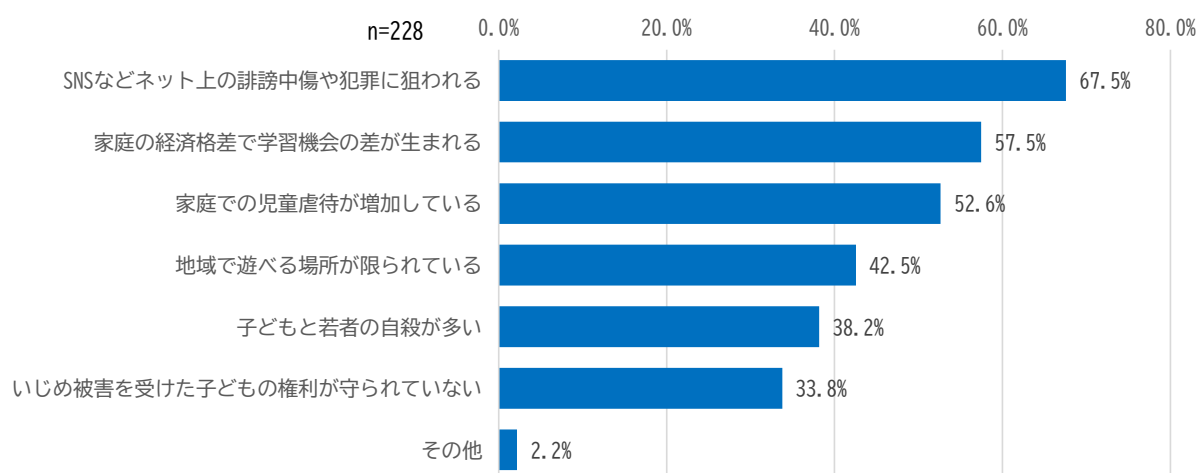
問9 あなたは今の社会（家庭、地域、学校など）で子どもの権利が尊重されていると思いますか。尊重されていると感じる場面、尊重されていないと感じる場面について教えてください。（あてはまるもの全て選択）

①尊重されていると感じる場面



尊重されていると感じる場面は、「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど相談できる相手がいる」が73.7%で最も高く、次いで「学校に通いづらい子どものための学びの場（フリースクールなど）がある」（68.0%）、「子どもの発達障害などへの理解が進んでいる」（56.1%）の順となっています。

②尊重されていないと感じる場面



尊重されていないと感じる場面は、「SNSなどネット上の誹謗中傷や犯罪に狙われる」が67.5%で最も高く、次いで「家庭の経済格差で学習機会の差が生まれる」（57.5%）、「家庭での児童虐待が増加している」（52.6%）の順となっています。

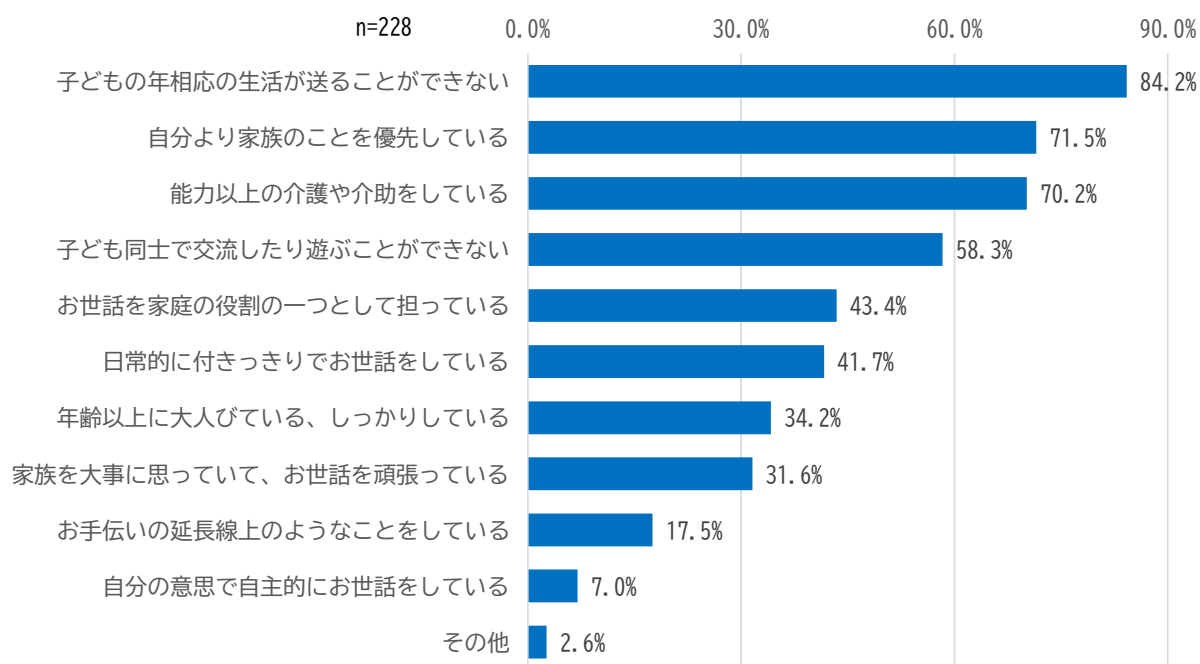
4 ヤングケアラーのイメージ・影響について

<結果の概要>

- ・ヤングケアラーについてのイメージで該当するものは、「子どもの年相応の生活が送ることができない」が84.2%で最も高く、次いで「自分より家族のことを優先している」(71.5%)、「能力以上の介護や介助をしている」(70.2%)の順となっています。
- ・ヤングケアラー状態になることで子どもに影響があると思うことは、「精神的・情緒的な不安定さを抱える」が81.1%で最も高く、次いで「友達など人間関係の形成がしづらくなる」(72.8%)、「不登校状態に陥り、学力が低下する」(70.6%)の順となっています。

<詳細>

問 10 あなたが考えるヤングケアラーのイメージについてあてはまるものを選んでください。(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラーのイメージは、「子どもの年相応の生活が送ることができない」が84.2%で最も高く、次いで「自分より家族のことを優先している」(71.5%)、「能力以上の介護や介助をしている」(70.2%)の順となっています。

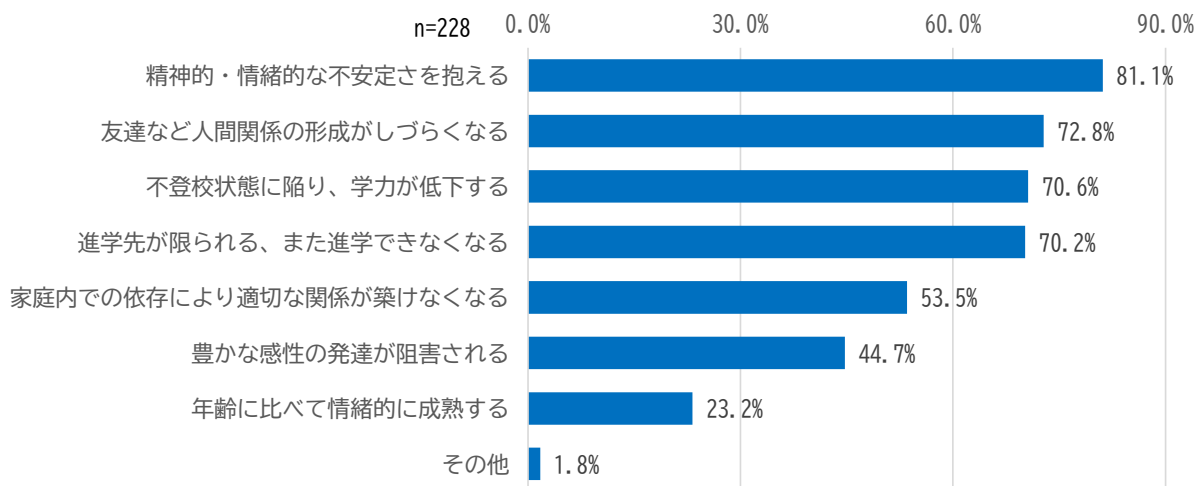
【子どもの権利についての認知別】

		n	お世話を大事に思っている、 家族を頑張っている	能力以上の介護や介助をしている	自分の意思で自主的にお世話をしている	お手伝いの延長線上のようなことをしている	子ども同士で交流したり遊ぶことができない	年齢以上に大人びている、 しっかりしている	子どもの年相応の生活を送ることができない	お世話を家庭の役割の一つとして担っている	自分より家族のことを優先している	日常的に付きつきりでお世話をしている	その他
子どもの権利について知っている	知っている	193 100.0	62 32.1	140 72.5	14 7.3	37 19.2	114 59.1	65 33.7	162 83.9	90 46.6	136 70.5	77 39.9	5 2.6
	知らない	35 100.0	10 28.6	20 57.1	2 5.7	3 8.6	19 54.3	13 37.1	30 85.7	9 25.7	27 77.1	18 51.4	1 2.9

上位■1位、■2位

子どもの権利についての認知別にみると、「能力以上の介護や介助をしている」で知っている人が、「自分より家族のことを優先している」で知らない人の割合が高くなっています。

問 11 ヤングケアラー状態になることで子どもにどんな影響があると思いますか。
(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラー状態になることで子どもに影響があると思うことは、「精神・情緒的な不安定さを抱える」が81.1%で最も高く、次いで「友達など人間関係の形成がしづらくなる」(72.8%)、「不登校状態に陥り、学力が低下する」(70.6%)の順となっています。

【子どもの権利についての認知別】

		n	が不登校状態に陥り、学力	さを抱える精神的・情緒的な不安定	が友達など人間関係の形成	切家庭内での依存により適	豊かな感性の発達が阻害	熟する年齢に比べて情緒的に成	進学先が限られる、また	その他
子どもの権利について知っている	知っている	193 100.0	141 73.1	157 81.3	144 74.6	106 54.9	92 47.7	46 23.8	137 71.0	4 2.1
	知らない	35 100.0	20 57.1	28 80.0	22 62.9	16 45.7	10 28.6	7 20.0	23 65.7	-

上位 ■ 1位、■ 2位

子どもの権利についての認知別にみると、「友達など人間関係の形成がしづらくなる」で知っている人が、「進学先が限られる、また進学できなくなる」で知らない人の割合が高くなっています。

5 ヤングケアラーと思われる子どもについて

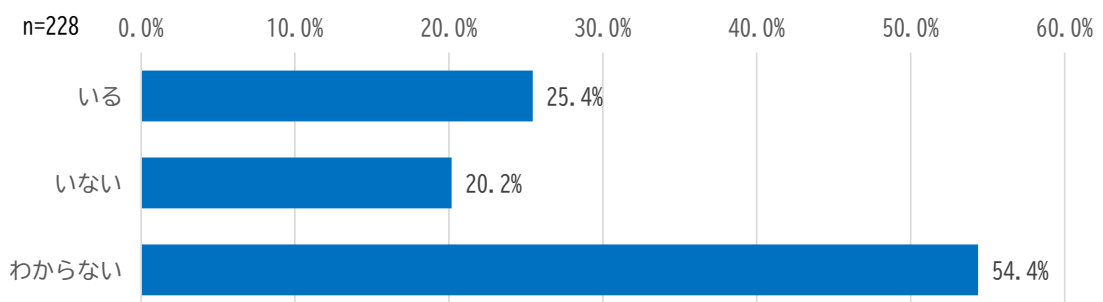
<結果の概要>

・勤務校でヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無は、「いる」が25.4%、「いない」が20.2%となっています。また「わからない」が54.4%で最も高くなっています。学校別にみると、中学校、高等学校で「いる」がそれぞれ40.3%、35.8%となっており、「いない」は11.1%、9.4%となっています。小学校では「いる」が9.7%で、「いない」が32.0%となっています。

・ヤングケアラーではないかと感じる子どもの該当する状況は、「欠席が多い、不登校傾向にある」が41.4%で最も高く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(39.7%)、「学力が低下している」「精神的な不安定さがある」(ともに34.5%)の順となっています。

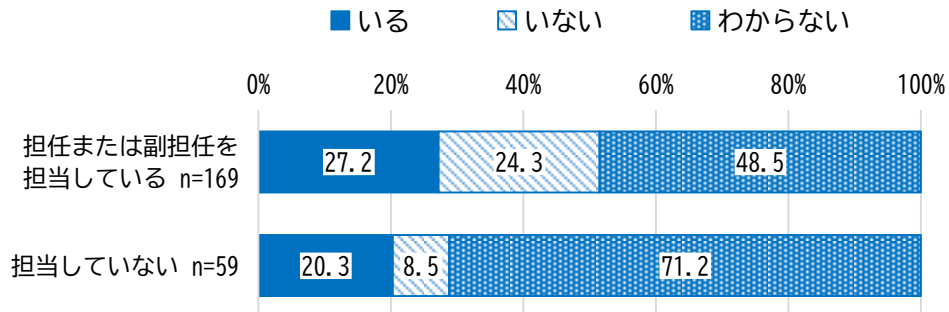
<詳細>

問 12 現在、貴校にヤングケアラーではないかと感じる（可能性も含めて）子どもはいま
すか。把握されている範囲でお答えください。（あてはまるもの一つ選択）



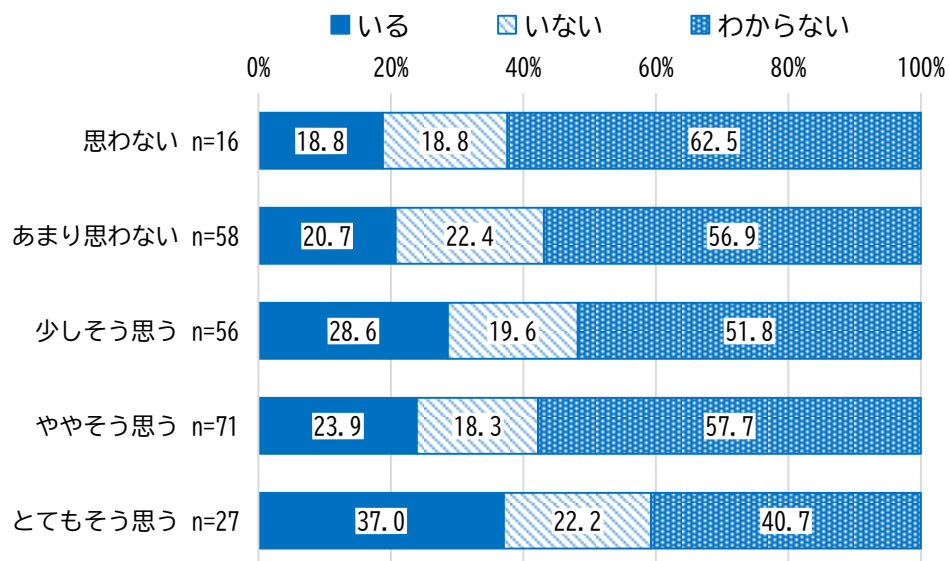
自分が勤める学校でヤングケアラーではないかを感じる子どもの有無は、「わからない」が54.4%で最も高くなっています。また、「いる」は25.4%となっています。

【クラス担任有無別】



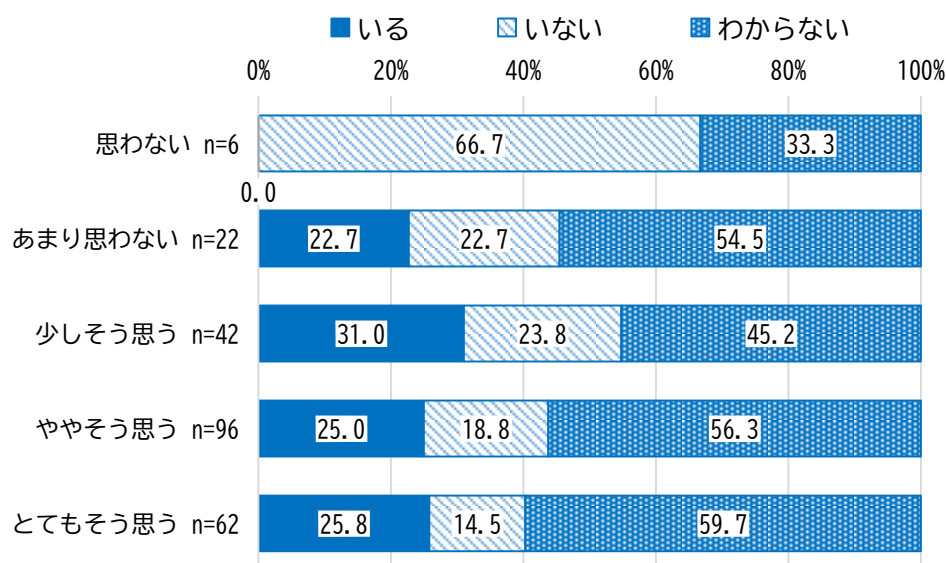
クラス担任有無にみると、担当していない人は「わからない」の割合が7割以上と高くなっています。

【子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別（児童生徒との関わり）】



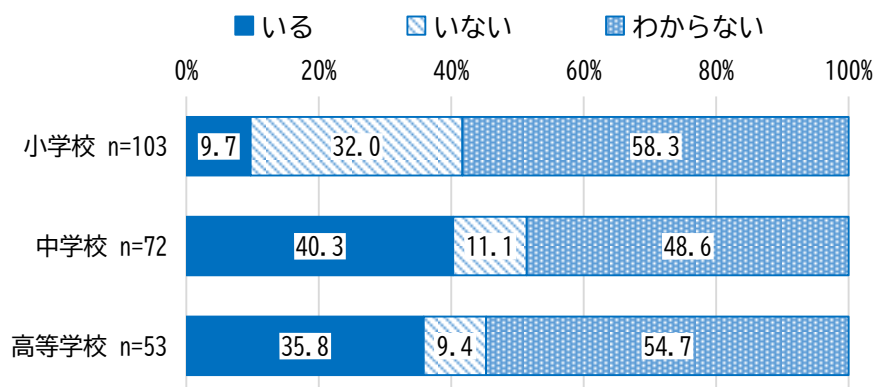
子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別にみると、とてもそう思うで「いる」が37.0%と高くなっています。

【教職員同士の連携業務の対応の有無別（教員同士の関わり）】



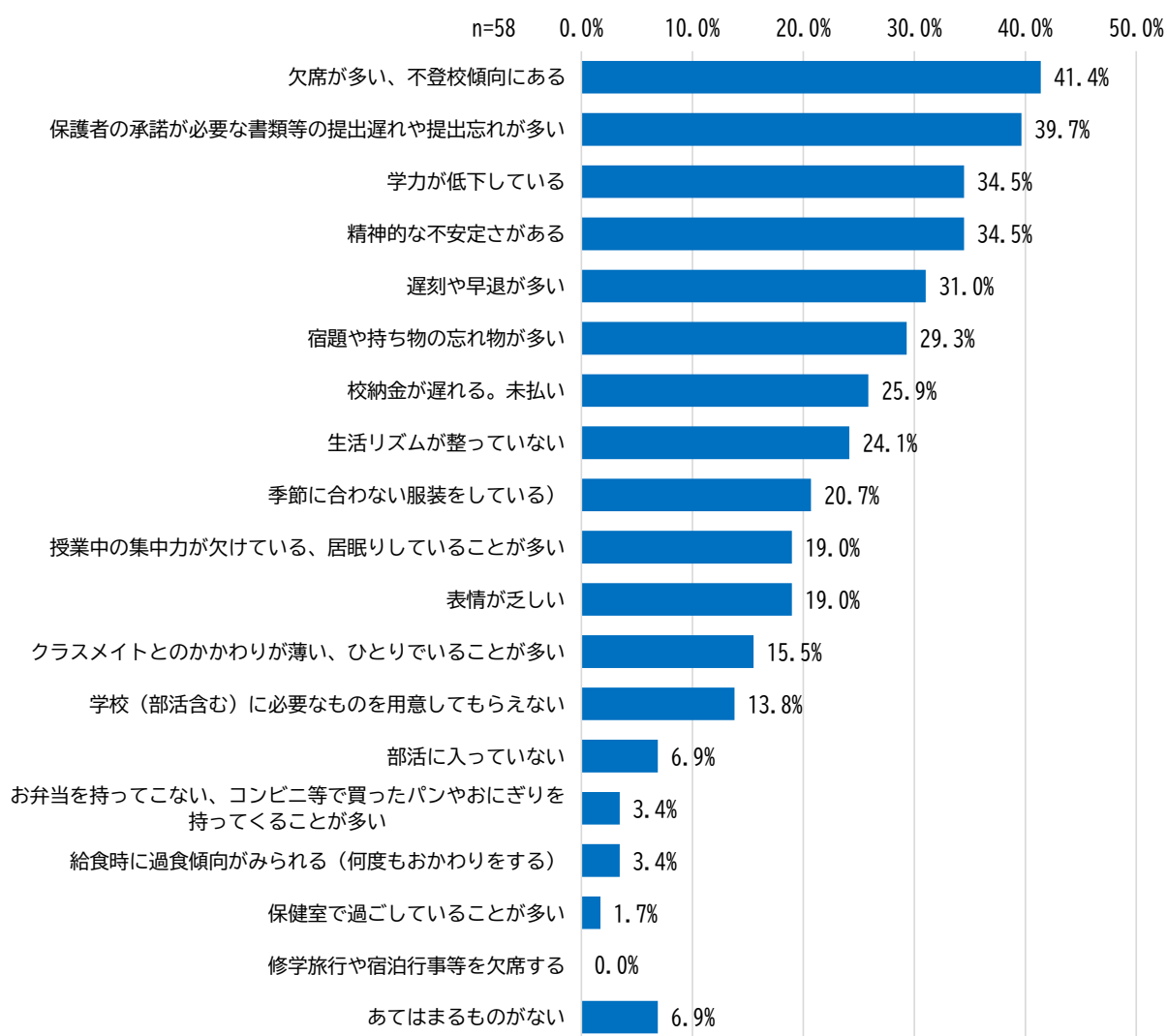
教職員同士の連携業務の対応の有無別でみると、連携して業務に対応していると思わないで「いない」が66.7%と高くなっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

【勤務している学校別】



勤務している学校別にみると、中学校、高等学校で「いる」が35%~40%となっています。一方、小学校では「いる」が10%未満にとどまり、「いない」が32.0%となっています。

問 13 問 12 で「1 いる」を選んだ方にお聞きします。その子どもが該当する状況をお答えください。複数の子どもの把握している場合は、それぞれの子どもが該当しているものを選んでください。(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラーではないかと感じる子どもの該当する状況は、「欠席が多い、不登校傾向にある」が 41.4%で最も高く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(39.7%)、「学力が低下している」「精神的な不安定さがある」(ともに 34.5%) の順となっています。

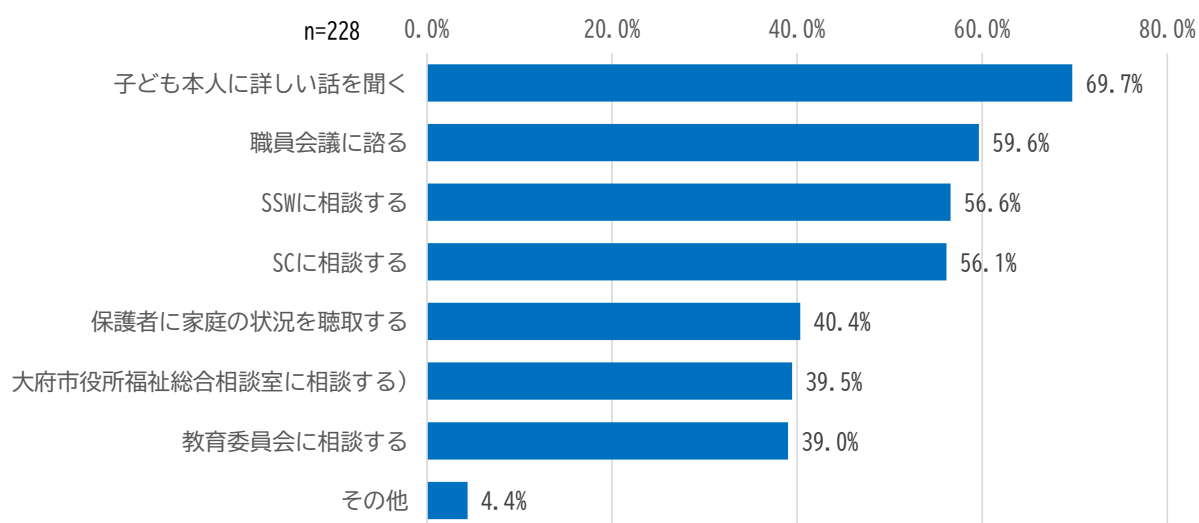
6 ヤングケアラーへの対応・支援について

<結果の概要>

- ・ヤングケアラーと思われる子どもを発見した時の対応方法は、「子ども本人に詳しい話を聞く」が69.7%で最も高く、次いで「職員会議に諮る」(59.6%)、「SSWに相談する」(56.6%)の順となっています。
- ・ヤングケアラーの問題について相談できる外部機関で知っているものは、「児童相談所」が84.2%で最も高くなっています。
- ・ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が76.3%で最も高く、次いで「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」(67.5%)、「子育てや家庭の困り事についてより相談しやすい環境を整えること」(64.0%)の順となっています。

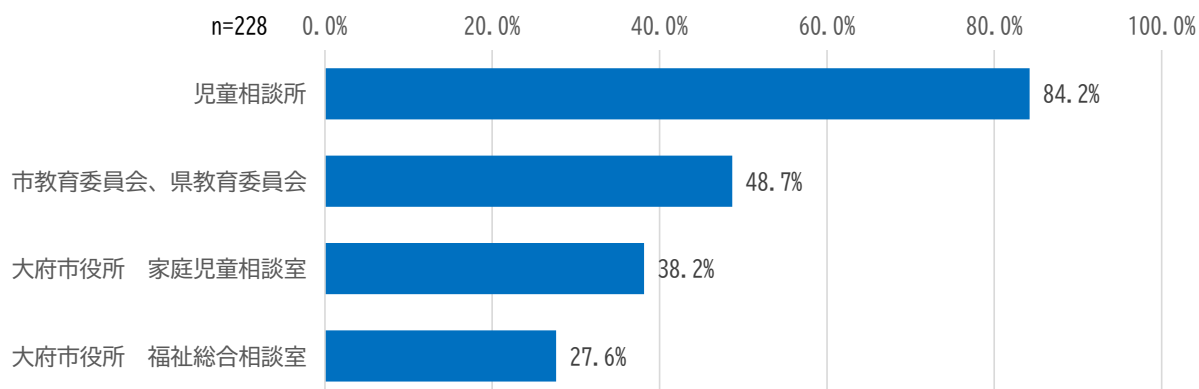
<詳細>

問 14 ヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合の、学校での対応方法として適当と思われる手段・方法はどれですか。(あてはまるもの全て選択)



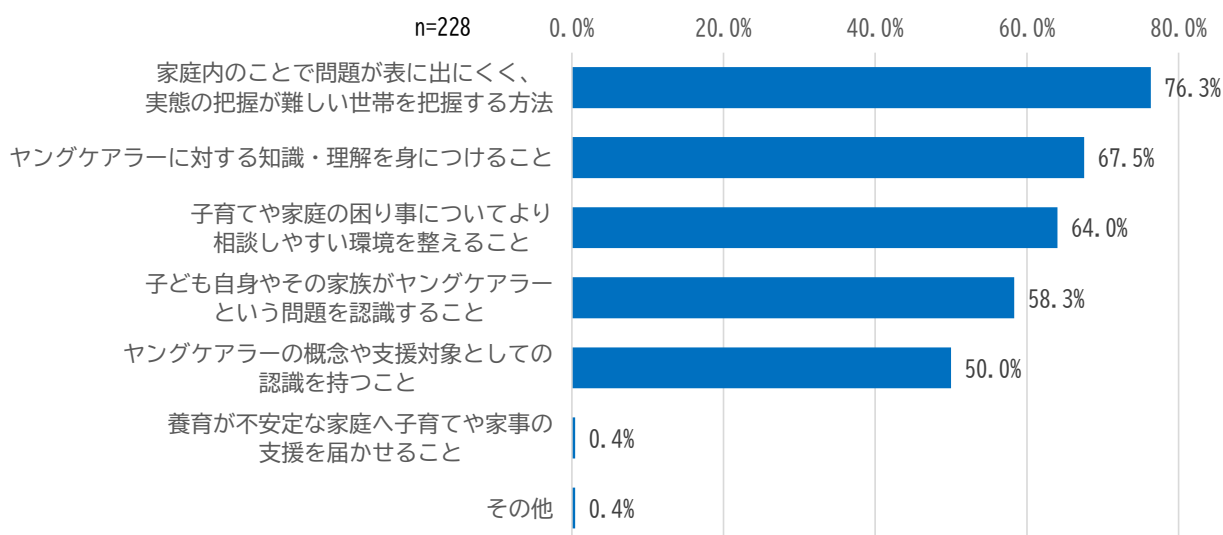
ヤングケアラーと思われる子どもを発見した時の対応方法は、「子ども本人に詳しい話を聞く」が69.7%で最も高く、次いで「職員会議に諮る」(59.6%)、「SSWに相談する」(56.6%)の順となっています。

問 15 下記のヤングケアラーの問題について相談できる窓口や外部機関のうち、知っているものはどれですか。(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラーの問題について相談できる場所の認知は、「児童相談所」が 84.2%で最も高く、次いで「市教育委員会、県教育委員会」(48.7%)、「大府市役所 家庭児童相談室」(38.2%) の順となっています。

問 16 ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うものを選んでください。(あてはまるもの全て選択)



ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が 76.3%で最も高く、次いで「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」(67.5%)、「子育てや家庭の困り事についてより相談しやすい環境を整えること」(64.0%) の順となっています。

【子どもの権利についての認知別】

		n	し出家庭 いにく内 世帯を、の 把握実こ する態で 方法握問 が握が 法が表 難に	識ヤ ン グ ケ ア ラ ー に つ い て の 認 知	こ援ヤ と対ン 象グ とケ しア てラ のー の認 識の 概念 や支	認ン 識グ すケ るも ことア ラ ー と そ の 家 族 が を	こて養 とや育 が家 事安 の定 支な 援家 を庭 届か せる 子 育	をいて子 を整て育 えるより こと相 談し や す い 環 境	そ の 他
利子の にど 認つも 知いの て権	知っている	193 100.0	154 79.8	135 69.9	103 53.4	117 60.6	123 63.7	131 67.9	1 0.5
	知らない	35 100.0	20 57.1	19 54.3	11 31.4	16 45.7	16 45.7	15 42.9	- -

上位■1位、■2位

子どもの権利についての認知別でみると、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が認知の有無に関わらず最も高くなっており、知らない（57.1%）よりも知っている（79.8%）が22.7ポイント高くなっています。

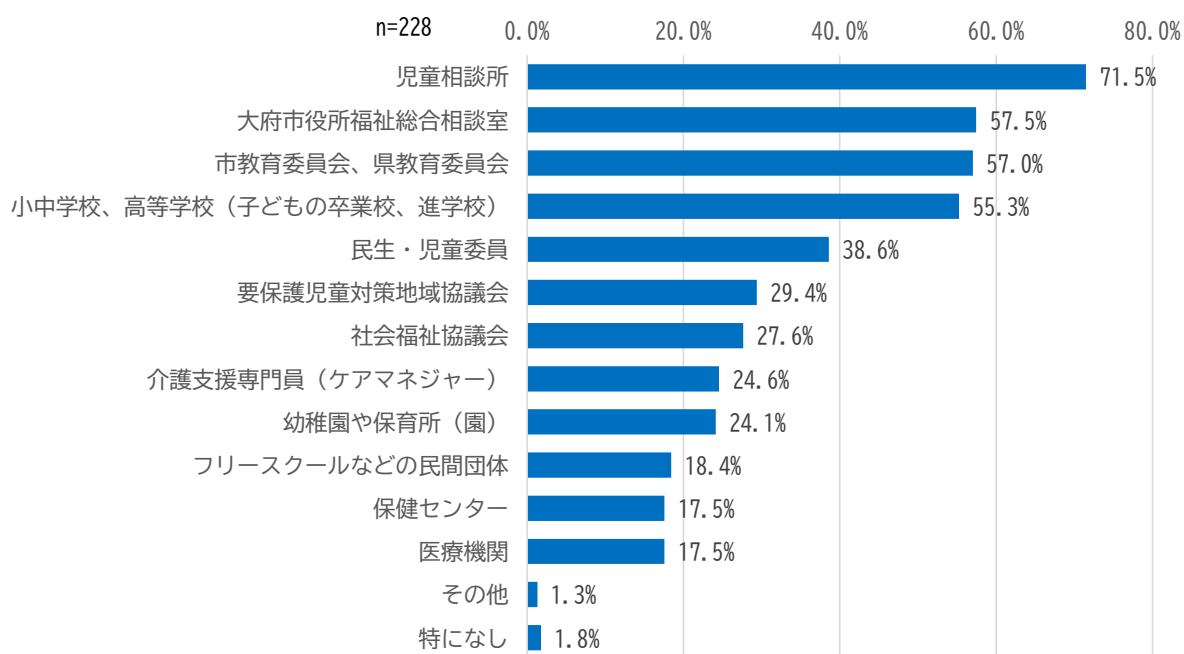
7 今後のヤングケアラーの支援に必要なことについて

<結果の概要>

- ・ヤングケアラーの支援のために今後連携を強化していきたいと思う機関は、「児童相談所」が71.5%で最も高く、次いで「大府市役所福祉総合相談室」（57.5%）、「市教育委員会、県教育委員会」（57.0%）の順となっています。
- ・ヤングケアラーを支援するために必要なことは、「教員・保育士がヤングケアラーについて知ること」が77.6%で最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」（70.6%）、「SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること」「子どもが教員・保育士に相談しやすい環境をつくること」（ともに64.5%）の順となっています。
- ・必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」が74.6%で最も高くなっています。支援モデル事業により市に期待することは、「ヤングケアラーの基準や早期発見につながる助言をしてほしい」が52.6%で最も高く、次いで「家庭環境が困難な児童生徒と保護者への関わり方について助言をしてほしい」（52.2%）、「出前講座を行い子どもたちに話をしてほしい」（45.6%）の順となっています。
- ・ヤングケアラーの支援について連携をしている機関は、「市教育委員会、県教育委員会」が69.7%で最も高くなっています。

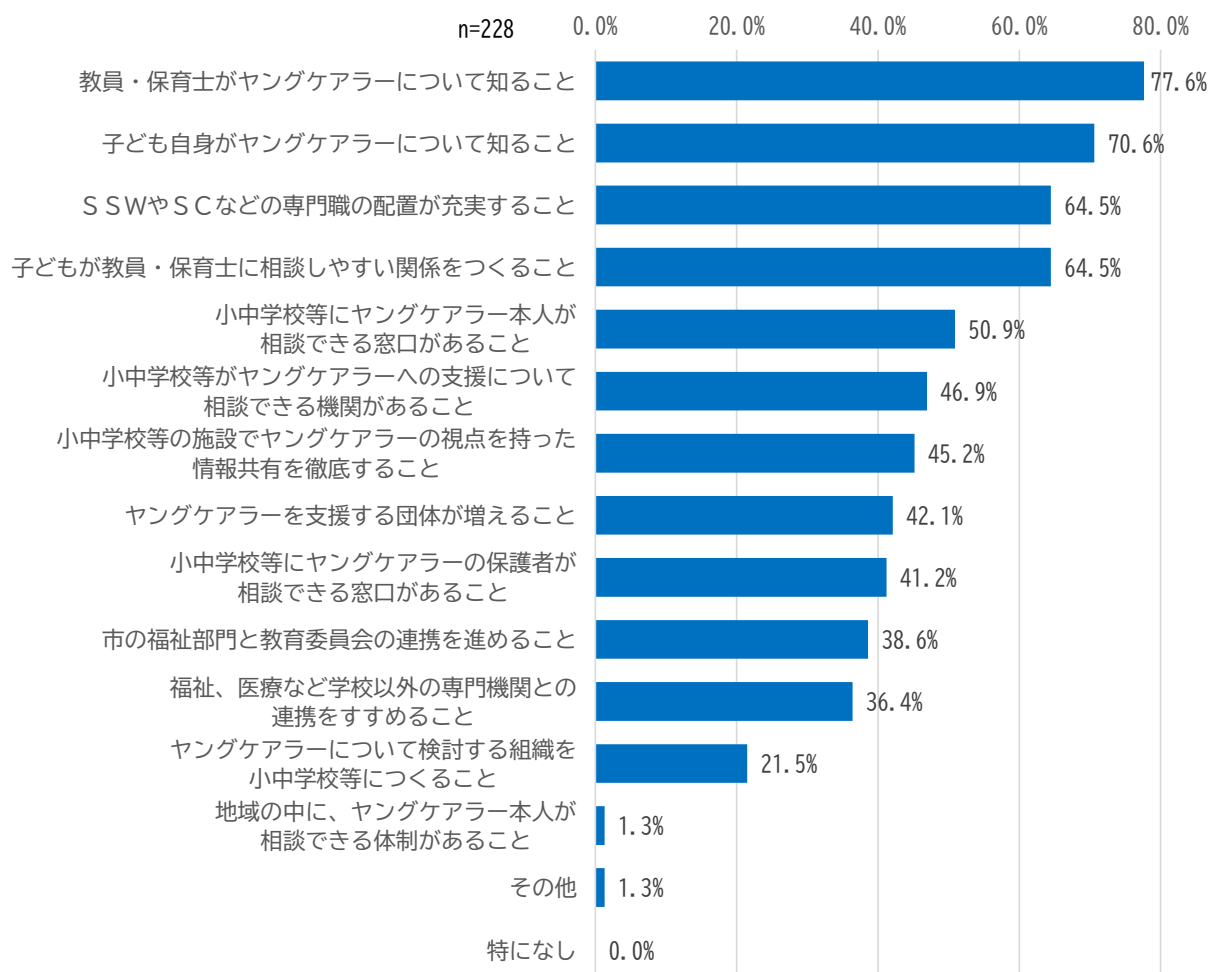
<詳細>

問 17 ヤングケアラーの子どもを支援するために、今後連携を強化していきたいと思う機関はどこですか。(あてはまるもの全て選択)



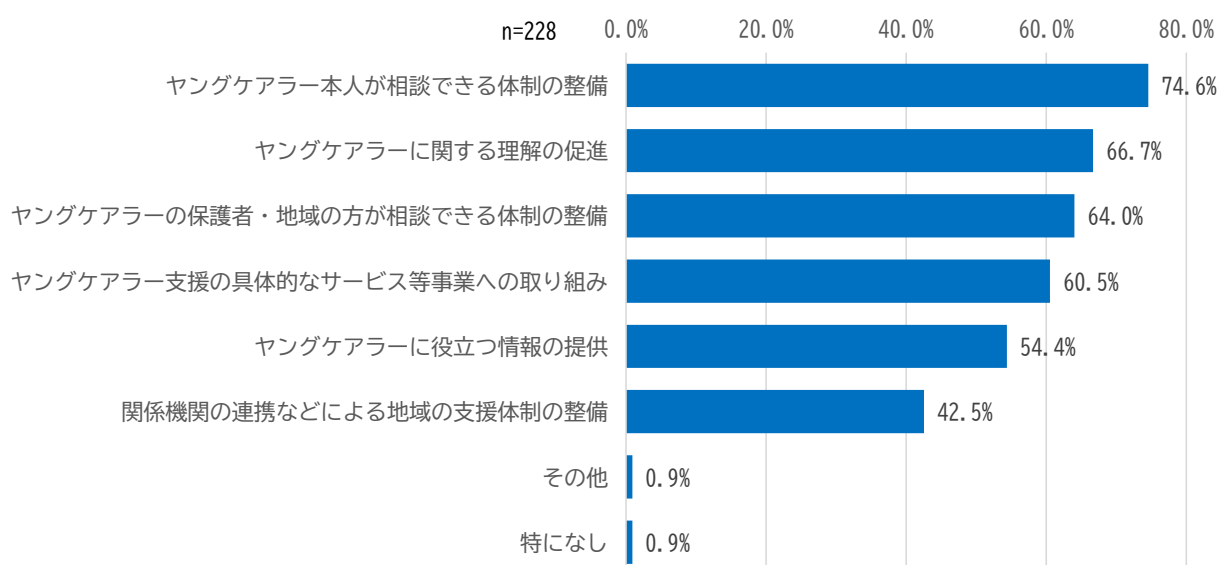
ヤングケアラーの子どもを支援するために、今後連携を強化していきたいと思う機関は、「児童相談所」が 71.5%で最も高く、次いで「大府市役所福祉総合相談室」(57.5%)、「市教育委員会、県教育委員会」(57.0%) の順となっています。

問 18 ヤングケアラー（疑いも含む）を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全て選択）



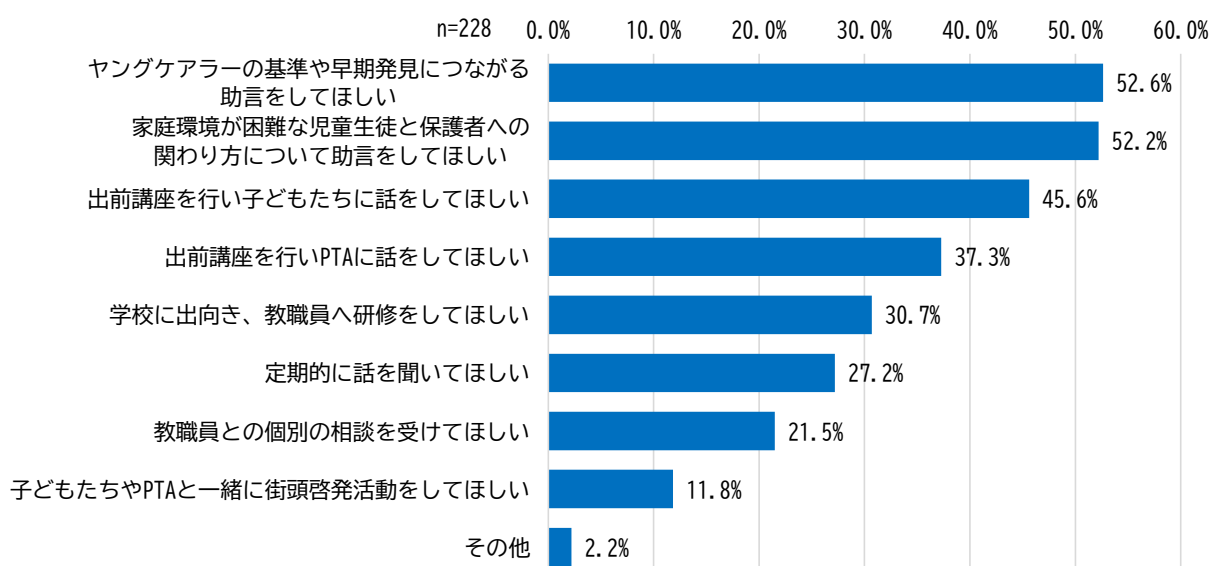
ヤングケアラーを支援するために必要なことは、「教員・保育士がヤングケアラーについて知ること」が77.6%で最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」（70.6%）、「S S WやS Cなどの専門職の配置が充実すること」（64.5%）の順となっています。

問 19 必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は何だと思えますか。
(あてはまるもの全て選択)



必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」が 74.6%で最も高く、次いで「ヤングケアラーに関する理解の促進」(66.7%)、「ヤングケアラーの保護者・地域の方が相談できる体制の整備」(64.0%)の順となっています。

問 20 今年 11 月から大府市がヤングケアラー支援モデル事業を開始していますが、これにより市に期待することを選んでください。(あてはまるもの全て選択)



市に期待することは、「ヤングケアラーの基準や早期発見につながる助言をしてほしい」が 52.6%で最も高く、次いで「家庭環境が困難な児童生徒と保護者への関わり方に

ついて助言をしてほしい」(52.2%)、「出前講座を行い子どもたちに話をしてほしい」(45.6%)の順となっています。

【市に期待すること】(大府市役所を選択しなかった人のみ)

	n	定期的 に話を 聞いて ほしい	出前 講座を 行い子 どもた ち	出前 講座を 行いP T Aに 話	子ども たちや PTAと 一緒	学校に 出向き 、教職 員へ研	教職員 との個 別の相 談を受	早期発 見につ ながる 助言を し	ヤング ケアラ ーの基 準や早 期発見 につな がる助 言をし てほし い	家庭環 境が困 難な児 童生徒 と保護 者への 関わり 方につ いて助 言をし てほし い	その他
上段：実数 下段：(%)											
大府市役所を選択し なかった人	208 100.0	57 27.4	93 44.7	80 38.5	25 12.0	63 30.3	44 21.2	110 52.9	113 54.3	4 1.9	

上位■1位、■2位

ヤングケアラーの問題について相談できる場所で“大府市役所”を知らなかった人別に、市に期待することについてみると、「家庭環境が困難な児童生徒と保護者への関わり方について助言をしてほしい」が54.3%で最も高く、次いで「ヤングケアラーの基準や早期発見につながる助言をしてほしい」(52.9%)、「出前講座を行い子どもたちに話をしてほしい」(44.7%)の順となっています。

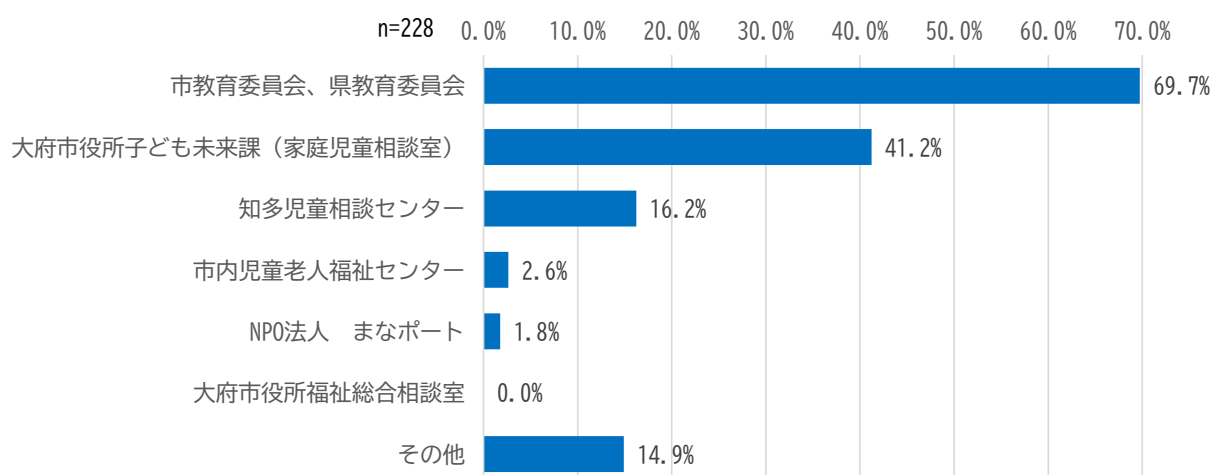
問 21 ヤングケアラーの発見や支援に関して、学校で工夫すべき又は改善すべきと思う点があればご自由にお書きください。(自由記述)

ヤングケアラーの発見や支援に関して学校で工夫すべき点や改善すべき点については、主に学校以外での支援体制の構築や教員への研修の必要性、また働き方の観点から学校での対応に限界があることを指摘する意見などが回答されました。

意見内容	件数
支援体制の構築	7
・ 学校でできることは限られているので、支援体制をつくってほしい。	1
・ 支援については、実質具体的な支援をしてはいけないという状況であるため、せめて悩んでいることや不安に思っていることを吐き出すことがよりしやすいように、「相談を受けられる大人」を確保していただきたいです。	1
・ 発見後の具体的な対応について、マニュアル(報告先)があると具体的なアクションにつなげやすい。高校は基本的に話を聞くか、課題の提出を遅らせる程度のことしかアクション起こさないため。	1
・ そうではないかと思う時に、誰にそれを伝え解決すべきかの手段がわからないので、その道筋を立てていくことが必要ではないかと思えます。	1
・ 家庭の問題として、表に出にくい問題なので、子ども本人も保護者も、それが正常な状態でないことを認知するような方策が必要だと思う。	1
・ 教員多忙化解消と定期的な支援の拡大を期待している。	1
・ ヤングケアラー本人ではなく、保護者への情報提供が上手にできるとよいと思えます。	1

意見内容		件数
学校以外での支援		4
・	友達に知られたくないと思う子もいるのでは、と思うと、発見後は、学校から切り離して支援してほしい。	1
・	生徒が問題を抱えていることが推察できても、具体的に解決していくには、人手と時間が不足しているように思います。担任の先生への荷重があまりにも重く感じます。学業と暮らしにかかる問題を切り離して対応していくシステムがあればいいと思います。	1
・	他の外部機関のサポート厚くしたり、教員の働き方改革によって、ヤングケアラーの発見や支援が進むと思う。	1
・	発見・支援は学校では難しい。専門の人が担当となり、学校に入ってくる必要があると感じる。	1
研修が必要		4
・	教員の中には「子どもがそういう状況になっているのは(たんに)親がきちんとしていないせいだ」と短絡的に考える人もいる(ヤングケアラーが社会構造によって出現しているものだという認識がなく、家庭の問題と矮小化している)。そもそも福祉的な視点が教員間に欠如している場合、表面的な対応しかできないような気がしてしまう。	1
・	職員がヤングケアラーについて学ぶ研修が必要。	1
・	教員の研修	1
・	まずは、ヤングケアラーとは何かについて共通理解をする機会が必要	1
教員の働き方改革		3
・	勤務時間の関係もあり、学校で「相談を受ける」ことができるのは、ほとんどが保護者の動きにくい平日の9時～17時、生徒にとっては「授業を受けることと引き換え」となっており、教師も授業をもっている以上、対応できる時間が限られているため、相談する側にとって、相談することそのものに対してハードルが高くなっています。 「心の相談員」、「SC」の先生方の存在でずいぶん助けられていますが、そちらも混み合っている印象です。「相談特化」の人員が増えることが一番ではありますが、それが無理ならば「問題無さそうならば、一部のTTを解除する」などして、「手が空いている大人」を増やしていただけないでしょうか。	1
・	現場で対応するには、他の業務が多すぎて、ヤングケアラーまで対応しきれない現状である。	1
・	多くの担任の先生方は非常に多忙で、心身ともに疲れ切っている。志とやる気で乗り切っているが限界を感じることのほうが多い。教員も本来は話をゆっくりと聞くことも仕事の範囲かとは思いますが、仕事量が多すぎるため、心のゆとりがない先生の方が多いように思う。	1
相談相手・機会の確保		3
・	発見については担任を中心とする複数の教師との関わりの中で行われるアンケートや教育相談がもっともやりやすいと思います。	1
・	子どもの話を聞く時間のゆとりがほしい。	1
・	保健の先生のように定期的に学校に放課後いて、話し相手になってくれる優しい大人の存在がいればありがたいのではないかと。前任校では、放課のたびに保健室に相談に行く生徒が多かった。	1
連携が必要		3
・	教育機関だけでなく、地域との連携	1
・	中学校との連携をさらに強くして、情報交換に努める必要がある。	1
・	家庭のことに立ち入りにくい雰囲気があるため、常日頃から小さなことで連携を図っておく。	1

問 22 ヤングケアラーの支援について、貴校が連携をしている機関はどこですか。
(あてはまるもの全て選択)

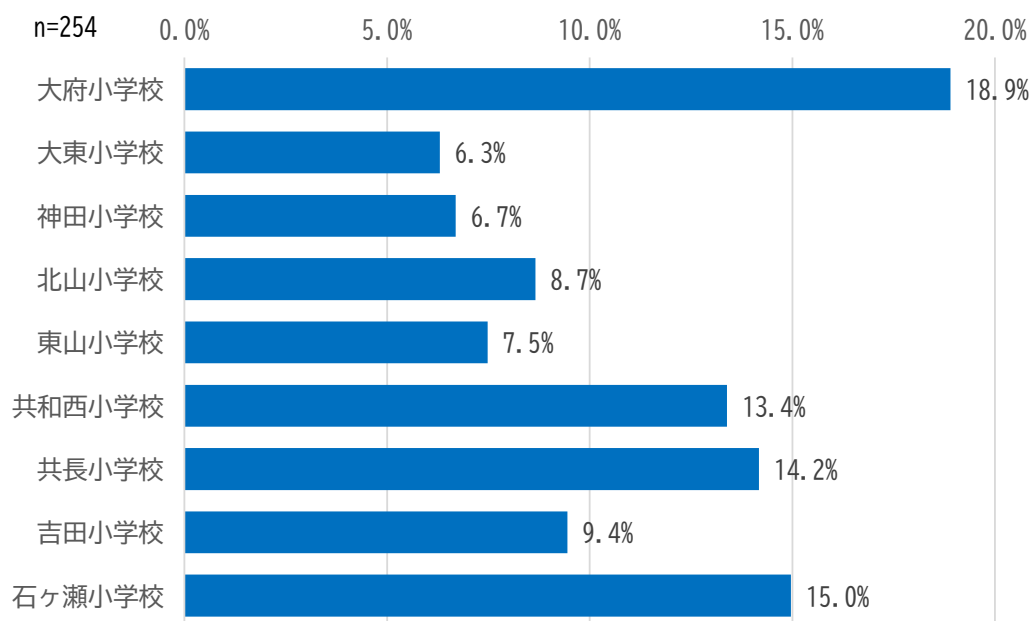


ヤングケアラーの支援について連携をしている機関は、「市教育委員会、県教育委員会」が69.7%で最も高く、次いで「大府市役所子ども未来課 (家庭児童相談室)」(41.2%)、「知多児童相談センター」(16.2%)の順となっています。

3-2 小学生向けアンケート結果

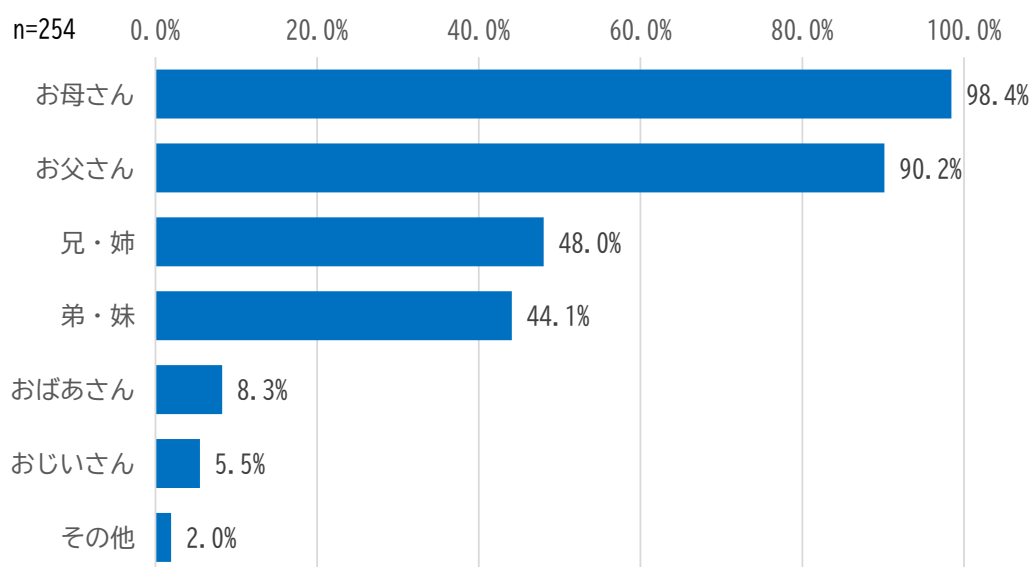
1 基本属性

問1 あなたの通っている学校を選んでください。(あてはまるもの一つ選択)



現在通っている学校は「大府小学校」が18.9%で最も高く、次いで「石ヶ瀬小学校」(15.0%)、「共長小学校」(14.2%)の順となっています。

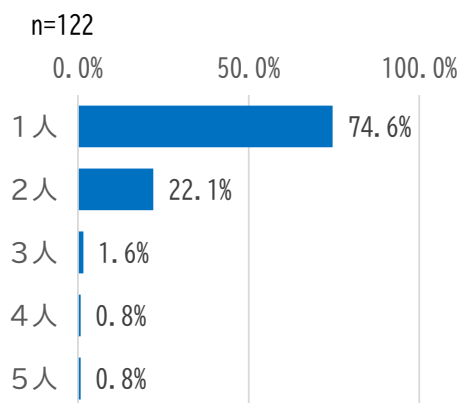
問2 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまるものすべて選択)



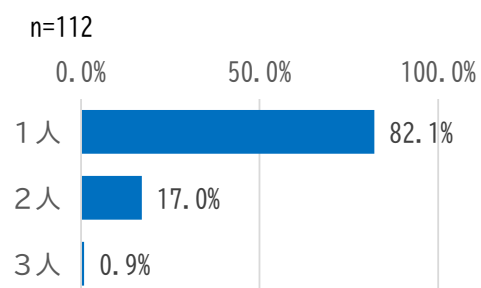
同居人は、「お母さん」が98.4%で最も高く、次いで「お父さん」(90.2%)、「兄・姉」(48.0%)の順となっています。

問2で「兄・姉」を選んだ人 お兄さん・お姉さんの人数を教えてください。
問2で「弟・妹」を選んだ人 弟さん・妹さんの人数を教えてください。

お兄さん・お姉さんの人数



弟さん・妹さんの人数



お兄さん・お姉さんの人数は、「1人」が74.6%で最も高く、次いで「2人」が22.1%となっています。

弟さん・妹さんの人数は、「1人」が82.1%で最も高く、次いで「2人」が17.0%となっています。

2 ふだんの生活について

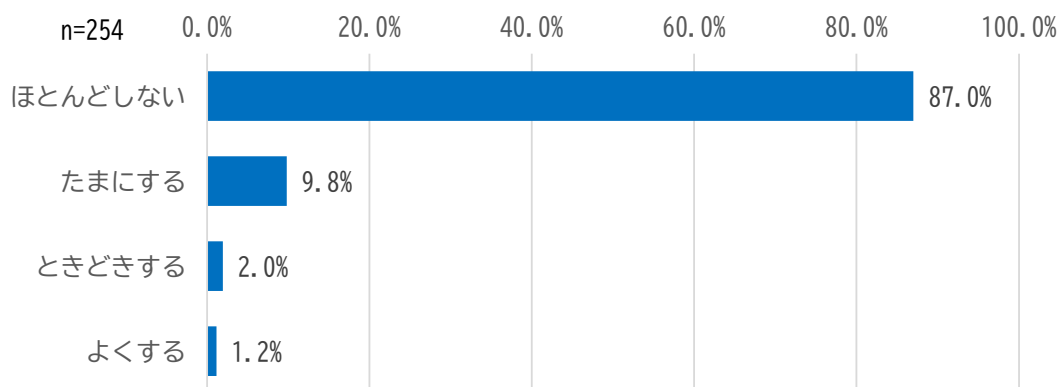
<結果の概要>

- ・学校を欠席状況は「ほとんどしない」が 87.0%で最も高く、次いで「たまにする」が 9.8%、「ときどきする」が 2.0%の順となっています。遅刻や早退は「ほとんどしない」が 90.9%で最も高く、次いで「たまにする」が 5.9%、「ときどきする」が 1.6%の順となっています。
 - ・放課後や休日の習い事は、「はい」が 89.8%、「いいえ」が 10.2%となっています。
 - ・最近の睡眠時間が足りているかについては、「いいえ」が 70.5%、「はい」が 29.5%となっています。
 - ・毎朝朝食をとっているかについては、「はい」が 97.6%、「いいえ」が 2.4%となっています。朝食を準備する人は、「お父さん、お母さん」が 96.1%で最も高く、次いで「自分」が 13.4%となっています。
 - ・保護者からおこづかいをもらっているかは、「もらっている」が 61.0%、「もらっていない」が 39.0%となっています。
 - ・家でのルールや決まりごとについて保護者と話し合っているかについては、「話し合っている」が 82.3%、「話し合っていない」が 17.7%となっています。
 - ・ふだんの学校生活であてはまるものは、「持ち物の忘れ物が多い」が 15.7%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が 12.2%、「学校では一人で過ごすことが多い」が 7.5%となっています。
 - ・悩みごとや困りごとについては、「学校の成績のこと」が 15.7%、「友達のこと」が 12.2%となっています。
- ※家族の世話をしている人のふだんの生活の状況は、参考値として調査結果の詳細に掲載しています。

<詳細>

問3 あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をすることがありますか。
(あてはまるもの一つ選択)

①欠席について



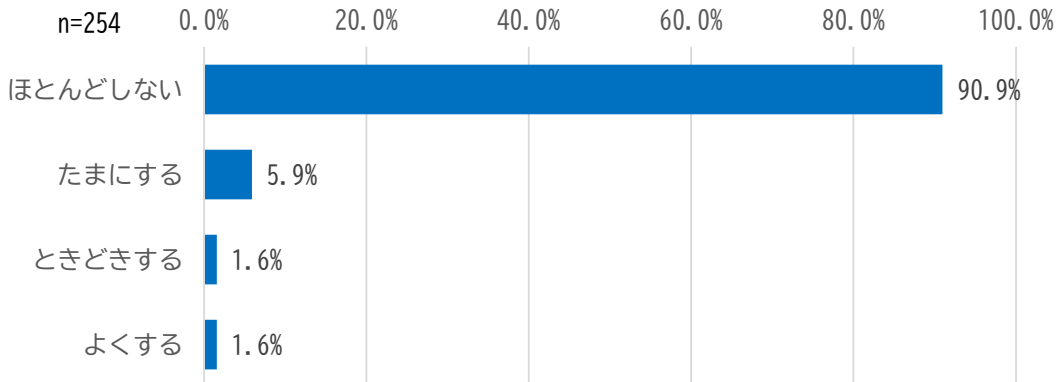
欠席については、「ほとんどしない」が 87.0%で最も高くなっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	ほとんどしない	たまにする	ときどきする	よくする
上段：実数 下段： (%)					
全体	254 100.0	221 87.0	25 9.8	5 2.0	3 1.2
お世話が必要な人をお世話をしている	9 100.0	6 66.7	2 22.2	- -	1 11.1

お世話が必要な人をお世話している人の欠席について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

②遅刻・早退について



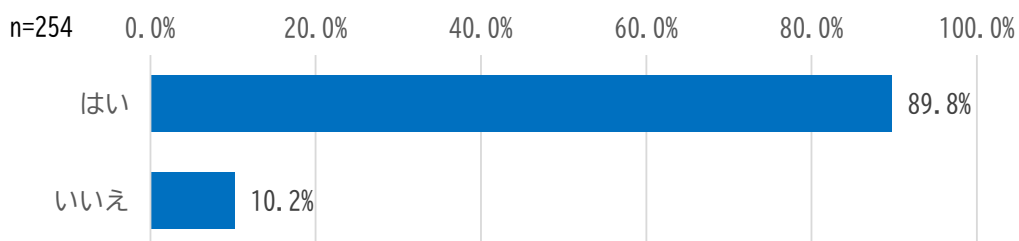
遅刻・早退については、「ほとんどしない」が 90.9%で最も高くなっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	ほとんどしない	たまにする	ときどきする	よくする
上段：実数 下段： (%)					
全体	254 100.0	231 90.9	15 5.9	4 1.6	4 1.6
お世話が必要な人をお世話をしている	9 100.0	7 77.8	1 11.1	- -	1 11.1

お世話が必要な人をお世話している人の遅刻・早退について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問4 あなたは放課後や休日に習い事をしていますか。(あてはまるもの一つ選択)



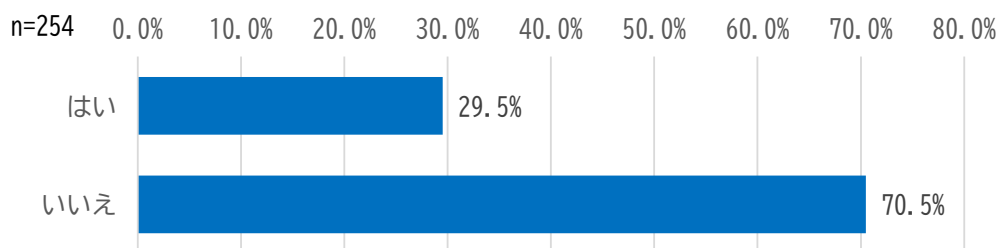
放課後や休日の習い事は、「はい」が89.8%、「いいえ」が10.2%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
上段：実数 下段：(%)			
全体	254 100.0	228 89.8	26 10.2
お世話が必要な人をお世話している	9 100.0	7 77.8	2 22.2

お世話が必要な人をお世話している人の放課後や休日の習い事について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問5 最近寝る時間が足りないと感じていますか。(あてはまるもの一つ選択)



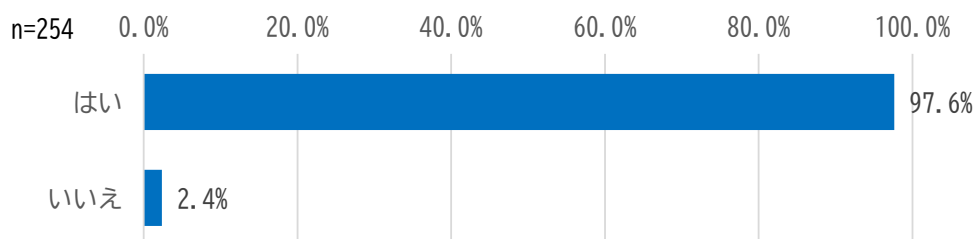
最近の睡眠時間が足りているかについては、「いいえ」が70.5%、「はい」が29.5%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
	上段：実数		
	下段：(%)		
全体	254	75	179
	100.0	29.5	70.5
お世話が必要な人をお世話している	9	4	5
	100.0	44.4	55.6

お世話が必要な人をお世話している人の最近の睡眠時間について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問6 毎朝朝食をとっていますか。(あてはまるもの一つ選択)



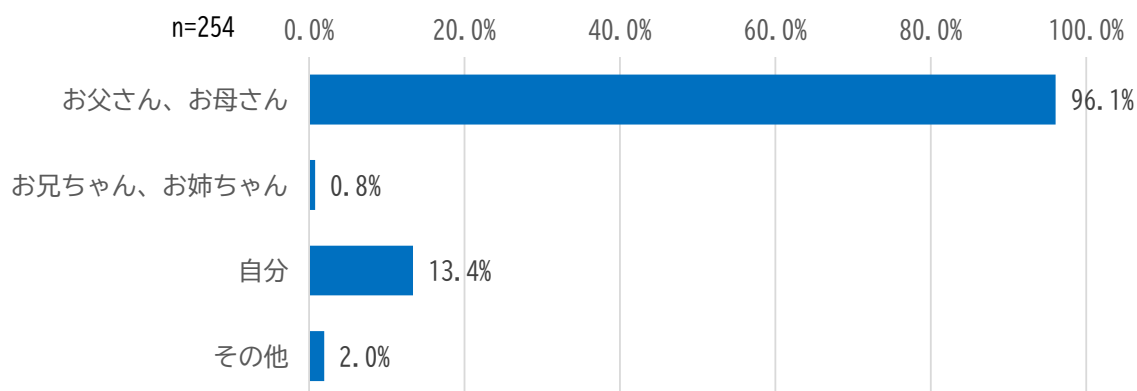
毎朝朝食をとっているかについては、「はい」が97.6%、「いいえ」が2.4%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
上段：実数 下段：(%)			
全体	254 100.0	248 97.6	6 2.4
お世話が必要な人をお世話している	9 100.0	9 100.0	- -

お世話が必要な人をお世話している人の毎朝の朝食について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問7 朝食は誰が準備していますか。(あてはまるものすべて選択)



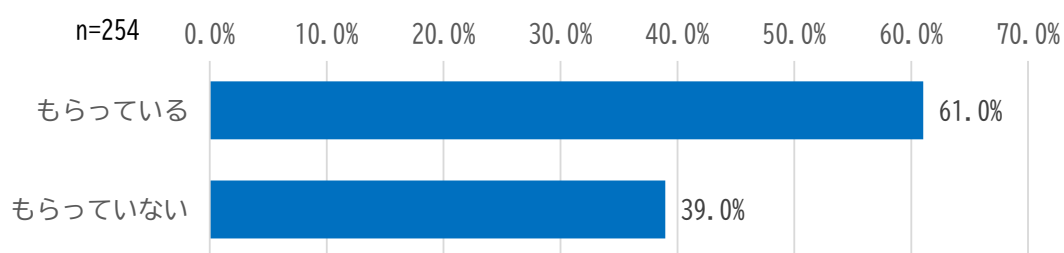
朝食の準備は、「お父さん、お母さん」が96.1%で最も高く、次いで「自分」が13.4%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	お父さん、お母さん	お兄ちゃん、お姉ちゃん	自分	その他
全体	254	244	2	34	5
	100.0	96.1	0.8	13.4	2.0
お世話が必要な人をお世話している	9	8	-	4	-
	100.0	88.9	-	44.4	-

お世話が必要な人をお世話している人の朝食の準備について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問8 あなたは保護者の方からおこづかいをもらっていますか。
 (あてはまるもの一つ選択)



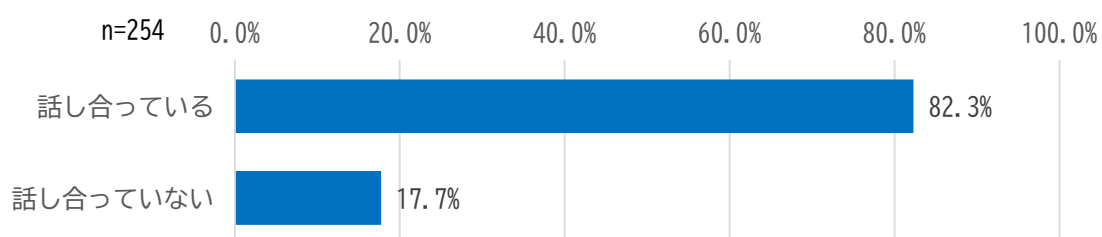
保護者からおこづかいをもらっているかは、「もらっている」が61.0%、「もらっていない」が39.0%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	もらっている	もらっていない
上段：実数 下段：(%)			
全体	254 100.0	155 61.0	99 39.0
お世話が必要な人をお世話している	9 100.0	6 66.7	3 33.3

お世話が必要な人をお世話している人のおこづかいについて、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問9 あなたは家でのルールや決まりごとについて保護者の人と話し合っていますか。
(あてはまるもの一つ選択)



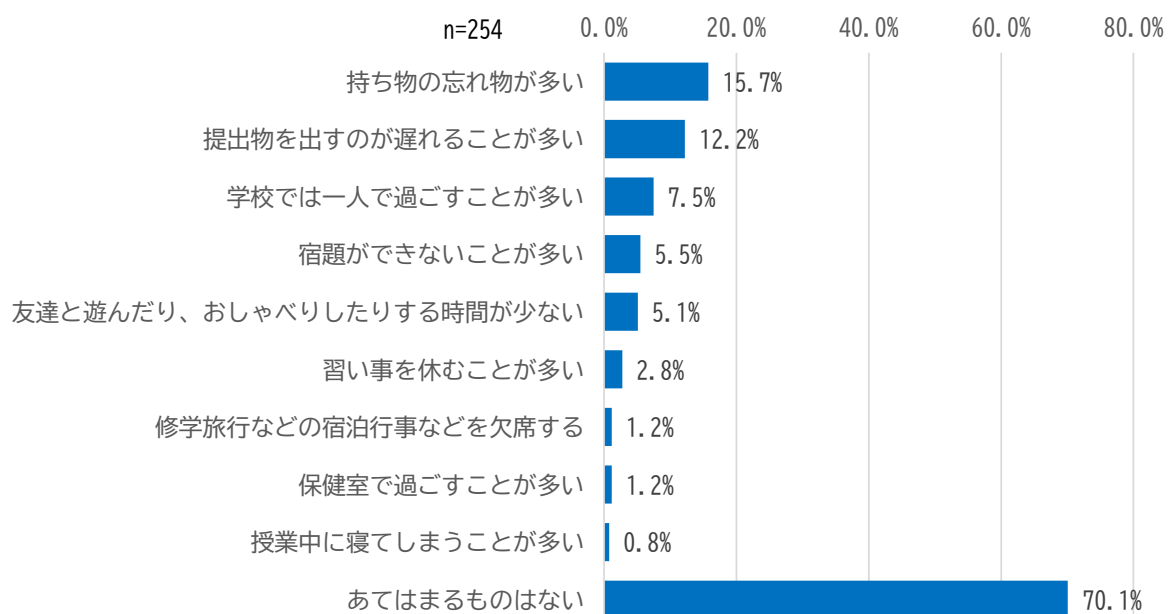
家でのルールや決まりごとについて保護者と話し合っているかについては、「話し合っている」が82.3%、「話し合っていない」が17.7%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	話し合っている	話し合っていない
上段：実数 下段：(%)			
全体	254 100.0	209 82.3	45 17.7
お世話が必要な人をお世話をしている	9 100.0	7 77.8	2 22.2

お世話が必要な人をお世話している人の家でのルールや決まりごとを保護者と話し合っているかについて、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問 10 ふだんの学校生活で以下にあてはまるものはありますか。
(あてはまるものすべて選択)



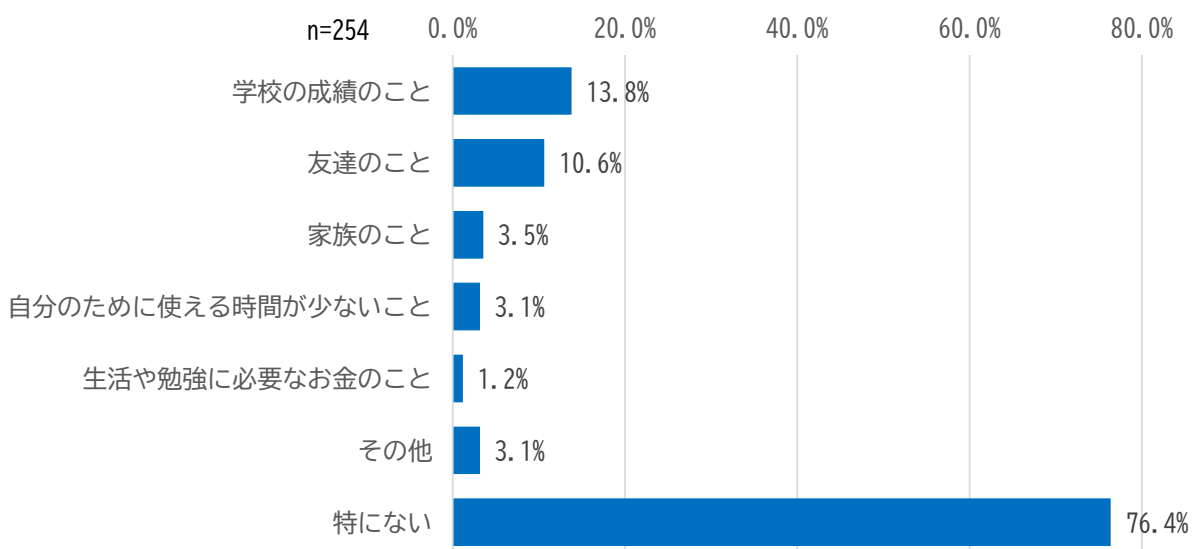
ふだんの学校生活であてはまるものは、「あてはまるものはない」が70.1%で最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」(15.7%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(12.2%)の順となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	授業中に寝ることが多い	宿題ができないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事などを欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	あてはまるものはない
全体	254	2	14	40	7	31	3	3	19	13	178
	100.0	0.8	5.5	15.7	2.8	12.2	1.2	1.2	7.5	5.1	70.1
お世話が必要な人をお世話している	9	-	-	1	-	2	-	-	-	-	7
	100.0	-	-	11.1	-	22.2	-	-	-	-	77.8

お世話が必要な人をお世話している人のふだんの学校生活について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問 11 あなたが悩んでいることや困りごとはありませんか。(あてはまるものすべて選択)



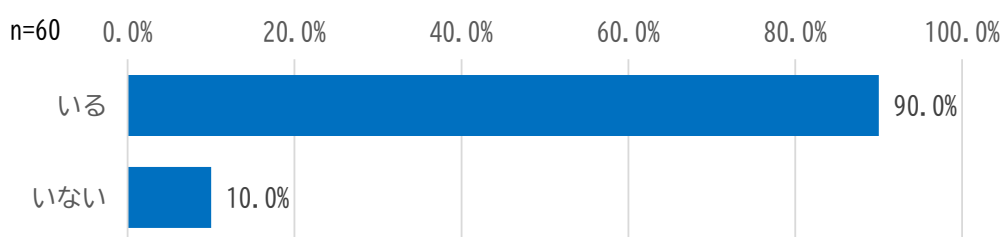
悩みごとや困りごとについては、「特にない」が76.4%で最も高く、次いで「学校の成績のこと」(13.8%)、「友達のこと」(10.6%)の順となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	友達の こと	学校の 成績の こと	家族の こと	生活や 勉強に 必要な お金の こと	自分の ために 少ない 時間 が 使 え な い	その他	特 に な い
	上段：実数 下段：(%)							
全体	254 100.0	27 10.6	35 13.8	9 3.5	3 1.2	8 3.1	8 3.1	194 76.4
お世話が必要な人をお世話している	9 100.0	1 11.1	1 11.1	1 11.1	- -	1 11.1	1 11.1	5 55.6

お世話が必要な人をお世話している人の悩みや困りごとについて、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問 12 問 11 で 1 から 6 のどれかを選んだ人にお聞きします。悩みや困りごとについて話を聞いてくれる人はいますか。(あてはまるもの一つ選択)



悩みごとや困りごとについて聞いてくれる人は、「いる」が 90.0%、「いない」が 10.0%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	いる	いない
	上段：実数 下段：(%)		
全体	60 100.0	54 90.0	6 10.0
お世話が必要な人をお世話している	4 100.0	4 100.0	- -

お世話が必要な人をお世話している人の悩みや困りごとの話を聞いてくれる人の有無について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

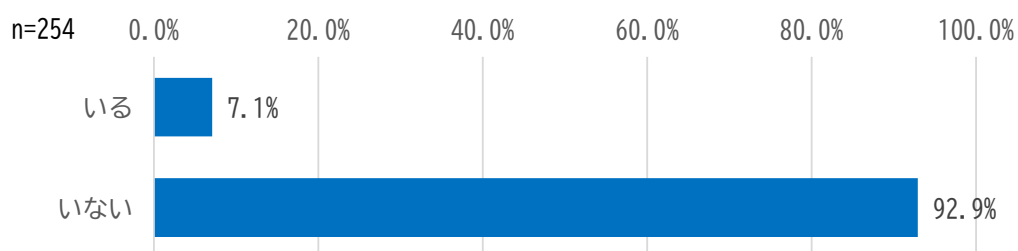
3 家族のお世話について

<結果の概要>

- ・家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、「いない」が92.9%、「いる」が7.1%となっています。「いる」を回答した7.1%（18件）のうち、自身がお世話をしていると回答したのは50%（9件）となっています。
- ・誰にお世話をしているかについては、「きょうだい（年下）」が66.7%で最も高く、次いで「お母さん」（33.3%）、「おばあさん」（11.1%）の順となっています。お世話をしている人の状況は、「若い」が55.6%で最も高く、次いで「身体障がい」（33.3%）、「高齢（65歳以上）」「日本語が苦手」（ともに11.1%）の順となっています。
- ・お世話の種別は、「見守り」が77.8%で最も高く、次いで「食事の準備や掃除、洗濯」「外出の付き添い」（ともに33.3%）、「入浴やトイレのお世話などの介護」（22.2%）の順となっています。
- ・お世話を一緒に手伝ってくれる人の有無は、「いる」が100%となっています。
- ・お世話をしている日数は、「週7日」が55.6%で最も高くなっています。

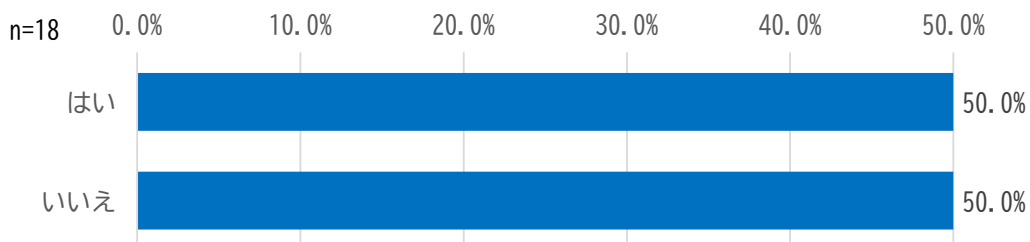
<詳細>

問 13 家族の中にお世話が必要な人はいますか。（ここでお世話とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話のことをいいます）（あてはまるもの一つ選択）



家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、「いない」が92.9%、「いる」が7.1%となっています。

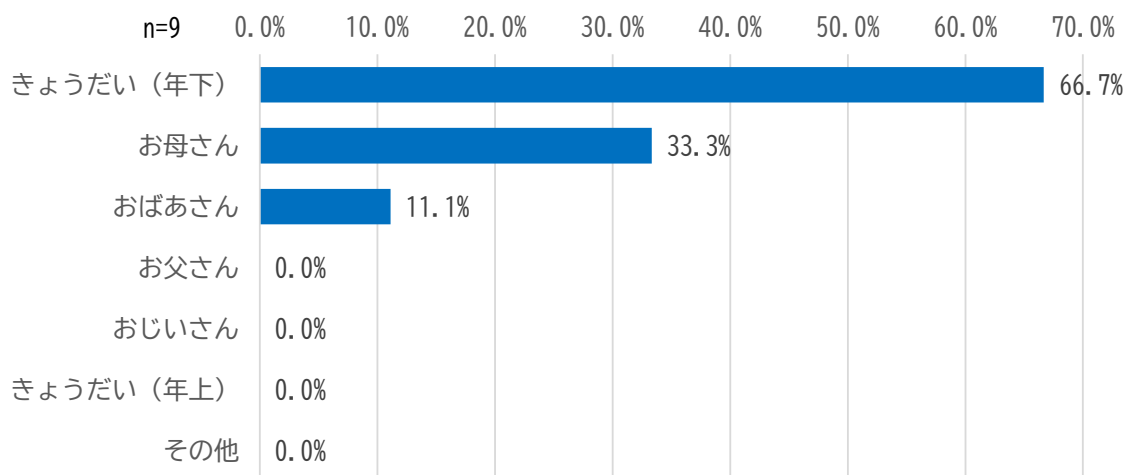
問 14 問 13 で「1 いる」を選んだ人にお聞きします。あなたはその人のお世話をしていますか。(あてはまるもの一つ選択)



自身がお世話をしているかについては、「はい」が 50.0%、「いいえ」が 50.0%となっています。

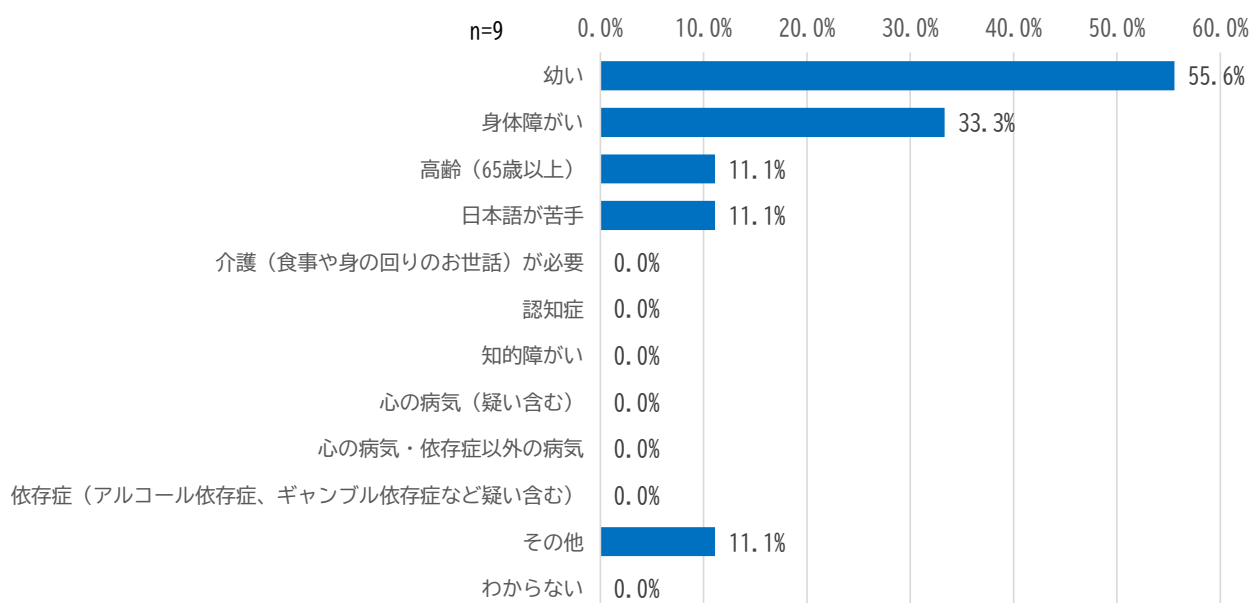
問 15 問 14 で「1 はい」を選んだ人にお聞きします。あなたは誰にどのようなお世話をしていますか。(①～③はあてはまるものすべて選択、④はあてはまるもの一つ選択)

①あなたがお世話をしている人(あてはまるものすべて選択)



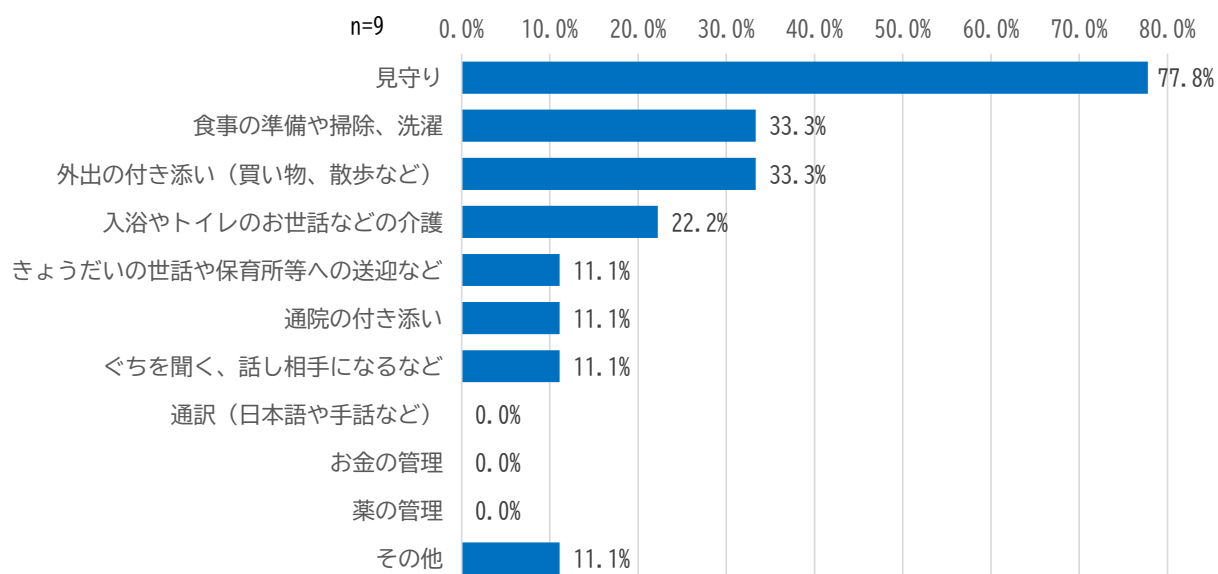
誰にお世話をしているかについては、「きょうだい(年下)」が 66.7%で最も高く、次いで「お母さん」(33.3%)、「おばあさん」(11.1%)の順となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

②お世話をしている人の状況について教えてください。(あてはまるものすべて選択)



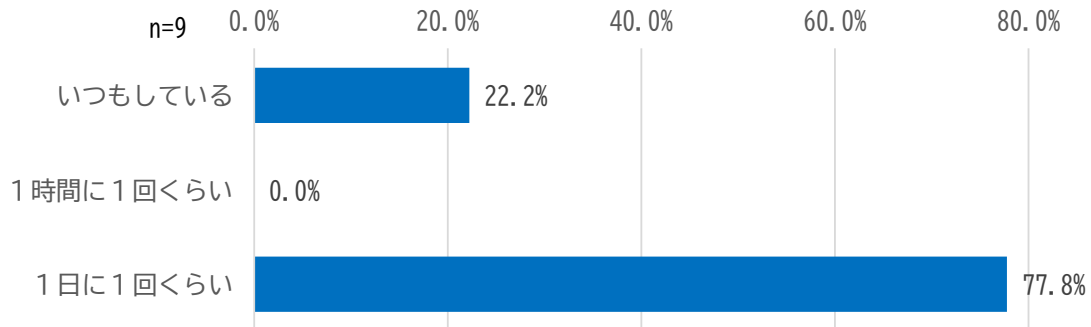
お世話をしている人の状況は、「若い」が 55.6%で最も高く、次いで「身体障がい」(33.3%)、「高齢 (65歳以上)」「日本語が苦手」(ともに 11.1%) の順となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

③あなたはどのようなお世話をしていますか。(あてはまるものすべて選択)



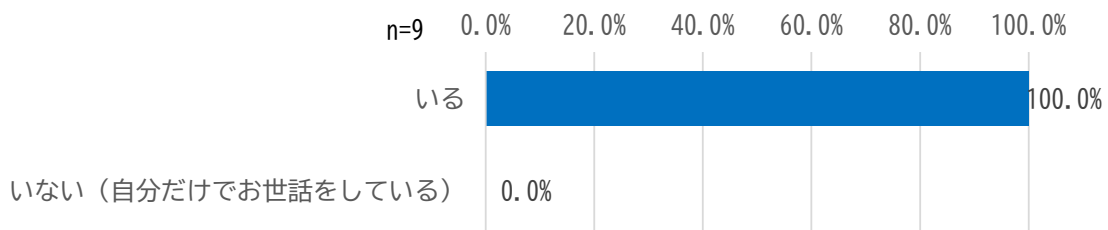
お世話の種別は、「見守り」が77.8%で最も高く、次いで「食事の準備や掃除、洗濯」「外出の付き添い（買い物、散歩など）」（ともに33.3%）の順となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

④あなたはどれくらいお世話をしていますか。



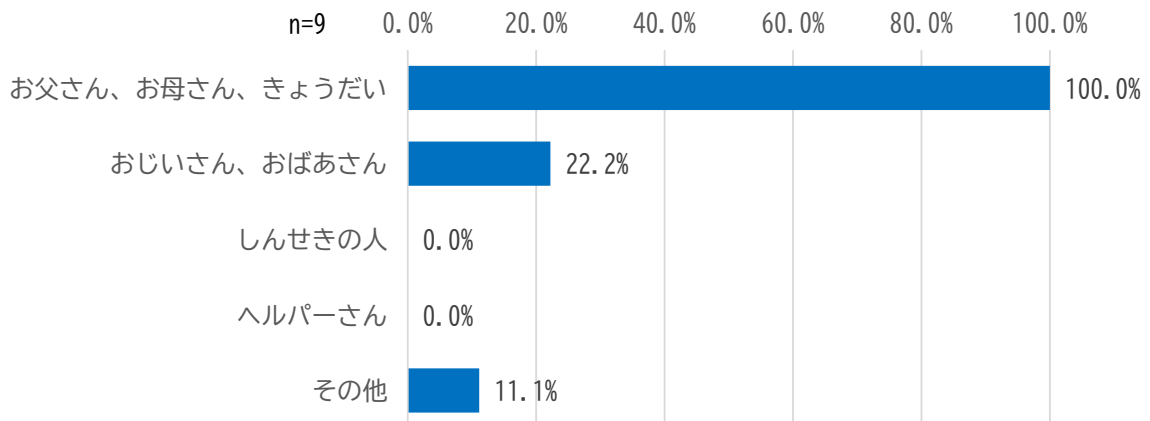
お世話の頻度は、「1日に1回くらい」が77.8%で最も高く、次いで「いつもしている」（22.2%）となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 16 あなたのお世話を一緒にしてくれる人、手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるもの一つ選択）



お世話を一緒に手伝ってくれる人の有無は、「いる」が100.0%となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

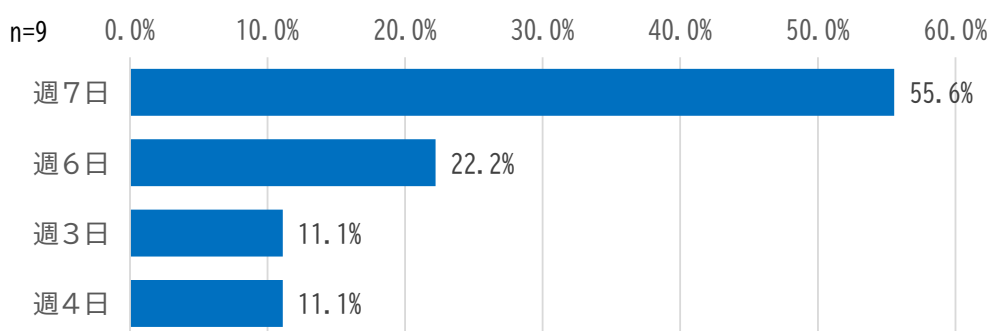
問 17 問 16で「1いる」を選んだ人にお聞きします。お世話を一緒にしている人は誰ですか。（あてはまるものすべて選択）



お世話を一緒にしてくれる人は、「お父さん、お母さん、きょうだい」が 100.0%となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

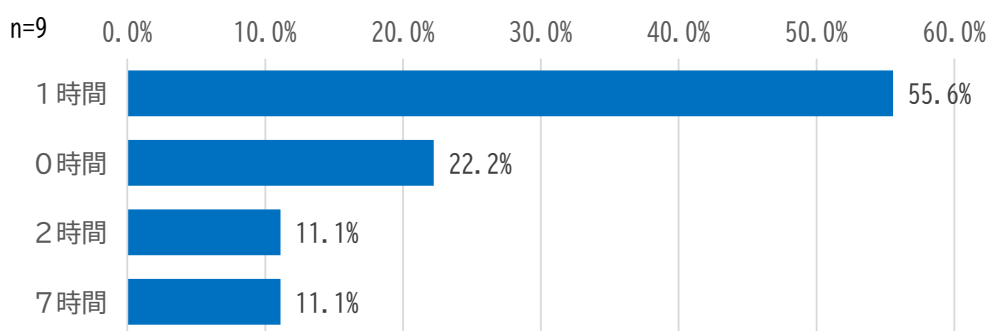
問 18 あなたはどのくらいお世話をしていますか。週の日数とお世話をしている時間を教えてください。※はっきりわからない場合は、だいたいの日数と時間を教えてください。(数字を入力)

①週の日数



お世話をしている日数は、「週7日」が 55.6%で最も高く、次いで「週6日」(22.2%) となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

②時間



お世話をしている時間は、「1時間」が 55.6%で最も高く、次いで「0時間」(22.2%) となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

4 お世話をすることのつらさ・悩み

<結果の概要>

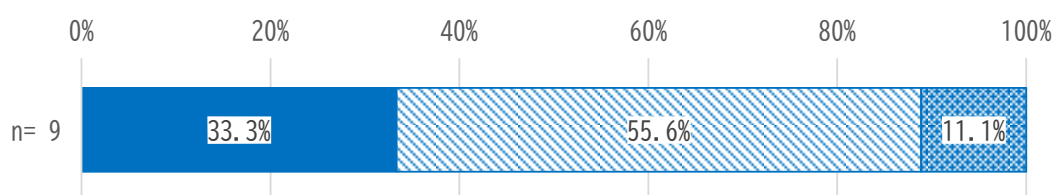
- ・お世話をすることについての体力面のつらさは、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 88.9%となっています。気持ちの面のつらさは、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 66.6%となっています。
- ・お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無は、「ある」が 22.2%、「ない」が 77.8%となっています。相談の相手は、「近所の人」「その他」となっています。
- ・学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「自由に使える時間がほしい」(44.4%)、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」(33.3%) となっています。

<詳細>

問 19 お世話をすることについて大変さやつらさを感じていますか。あてはまるものを選んでください。(①②それぞれについてあてはまるもの一つ選択)

①体力の面

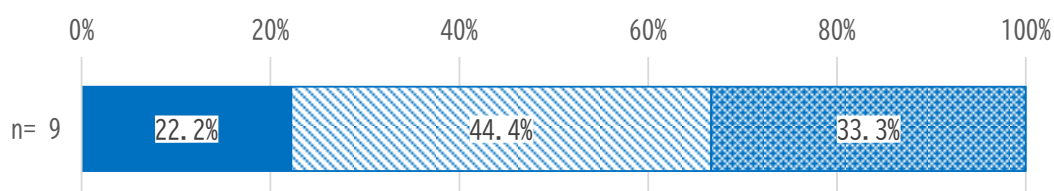
■ 全くつらくない ■ あまりつらくない ■ 少しつらい ■ かなりつらい ■ とてもつらい



お世話をすることについて体力面のつらさは、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 88.9%となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

②気持ちの面

■ 全くつらくない ■ あまりつらくない ■ 少しつらい ■ かなりつらい ■ とてもつらい



お世話をすることについて気持ちの面のつらさは、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 66.6%となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

【お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別】

①体力の面

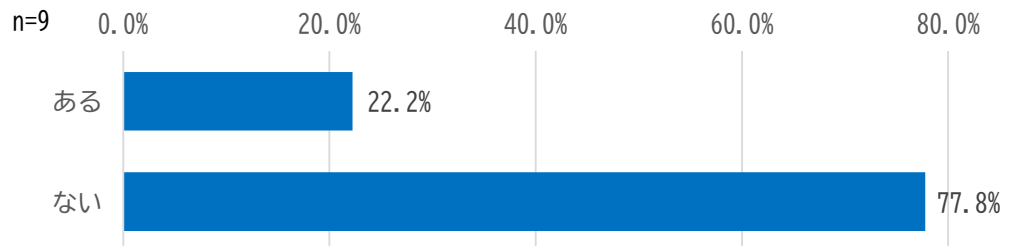
	調査数	全くつらくない	あまりつらくない	少しつらい	かなりつらい	とてもつらい
上段：実数 下段：(%)						
全体	9 100.0	3 33.3	5 55.6	1 11.1	-	-
ある	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-
ない	7 100.0	2 28.6	4 57.1	1 14.3	-	-

②気持ちの面

	調査数	全くつらくない	あまりつらくない	少しつらい	かなりつらい	とてもつらい
上段：実数 下段：(%)						
全体	9 100.0	2 22.2	4 44.4	3 33.3	-	-
ある	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-
ない	7 100.0	2 28.6	3 42.9	2 28.6	-	-

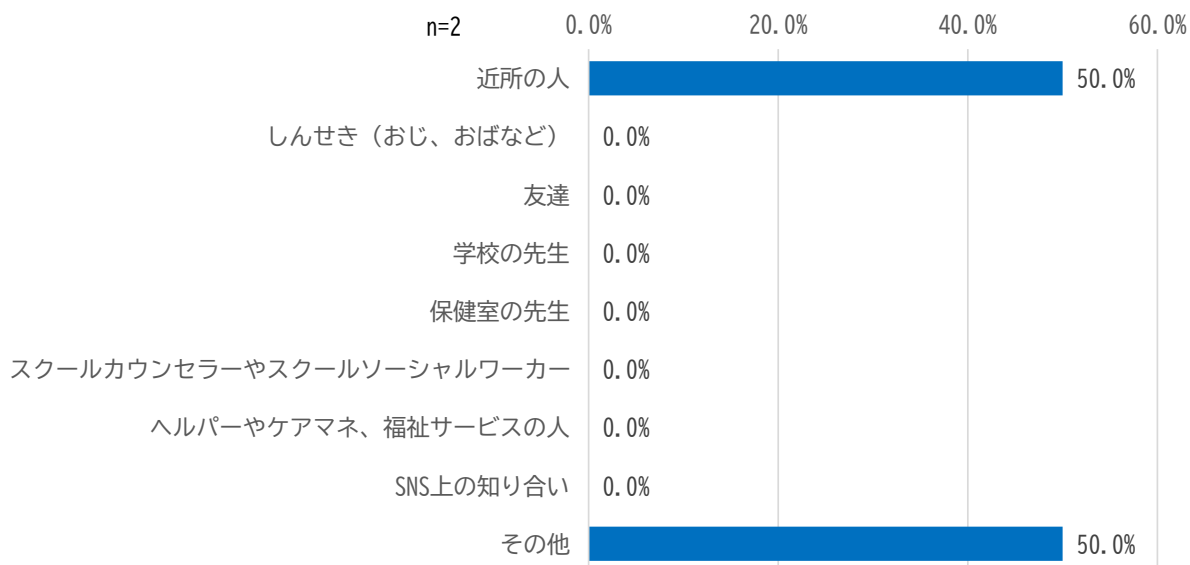
お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別にみると、相談したことがない人は、体力面で「少しつらい」が1件、気持ちの面で「少しつらい」が2件となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 20 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。（あてはまるもの一つ選択）



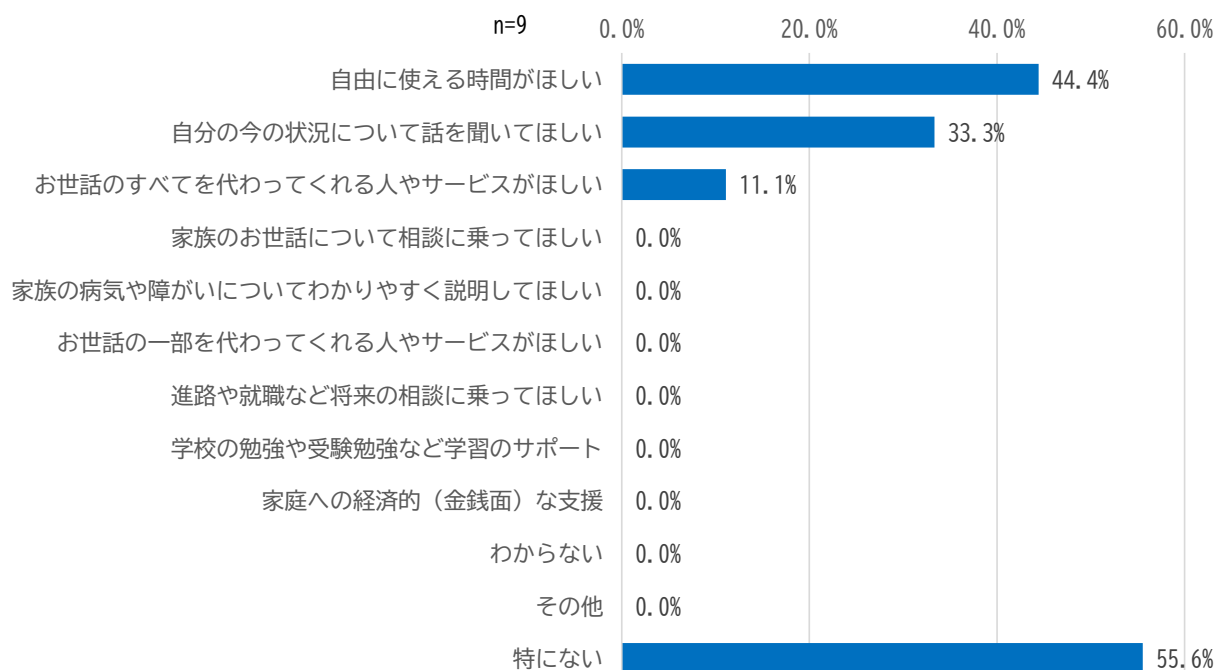
お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無は、「ある」が22.2%、「ない」が77.8%となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 21 問 20 で「1 はい」を選んだ人にお聞きします。あなたが相談した人は誰ですか。
(あてはまるものすべて選択)



悩みの相談相手は、「近所の人」、「その他」となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 22 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。
(あてはまるものすべて選択)



学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「特にない」が 55.6%で最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」(44.4%)、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」(33.3%)の順となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

問 23 問 22 で「お世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」と「お世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい」を選んだ人のお聞きします。代わってほしいお世話の内容を教えてください。

問 22	お世話の内容
お世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	一緒に話していても、急に泣き出す。

5 ヤングケアラーについて

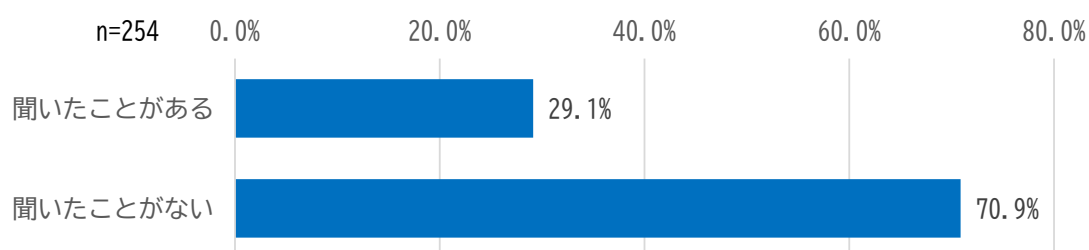
<結果の概要>

・ヤングケアラーという言葉の認知は、「聞いたことがある」が 29.1%、「聞いたことがない」が 70.9%となっています。またヤングケアラーという言葉を知った媒体は、「テレビ、新聞」が 71.6%で最も高く、次いで「学校」(10.8%)、「先生、保護者以外の大人の人」(9.5%) の順となっています。

・ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、「自分の自由な時間がなくなる」が 82.3%で最も高く、次いで「友達と遊ぶことができない」(74.4%)、「寝る時間が少なくなる」(64.6%) の順となっています。

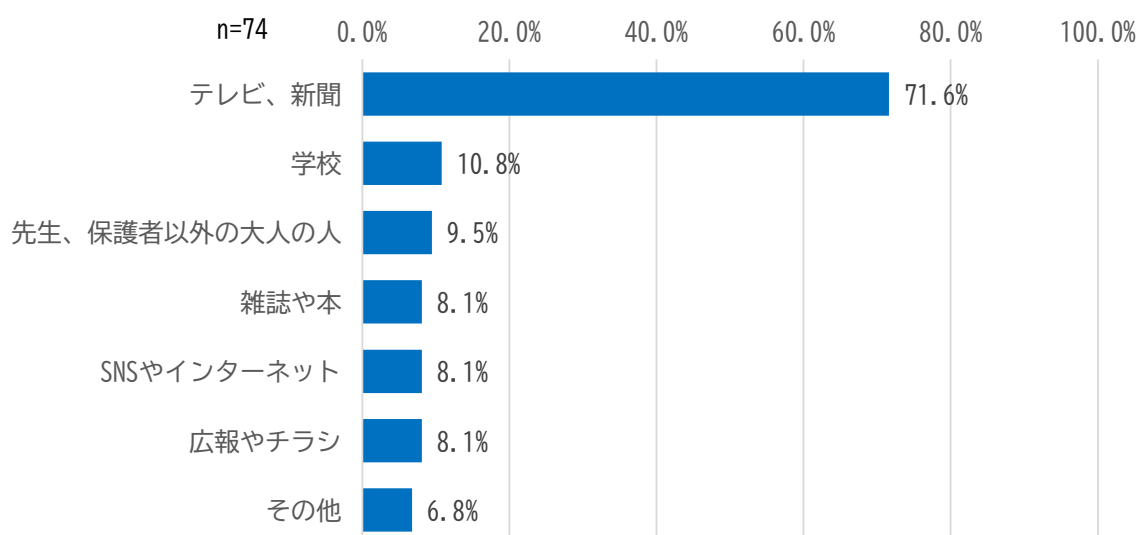
<詳細>

問 24 あなたは「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。
(あてはまるもの一つ選択)



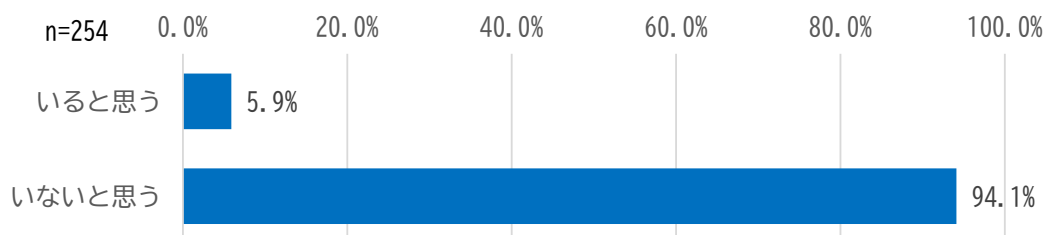
ヤングケアラーの言葉の認知は、「聞いたことがない」が 70.9%、「聞いたことがある」が 29.1%となっています。

問 25 問 24 で「1 聞いたことがある」を選んだ人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべて選択)



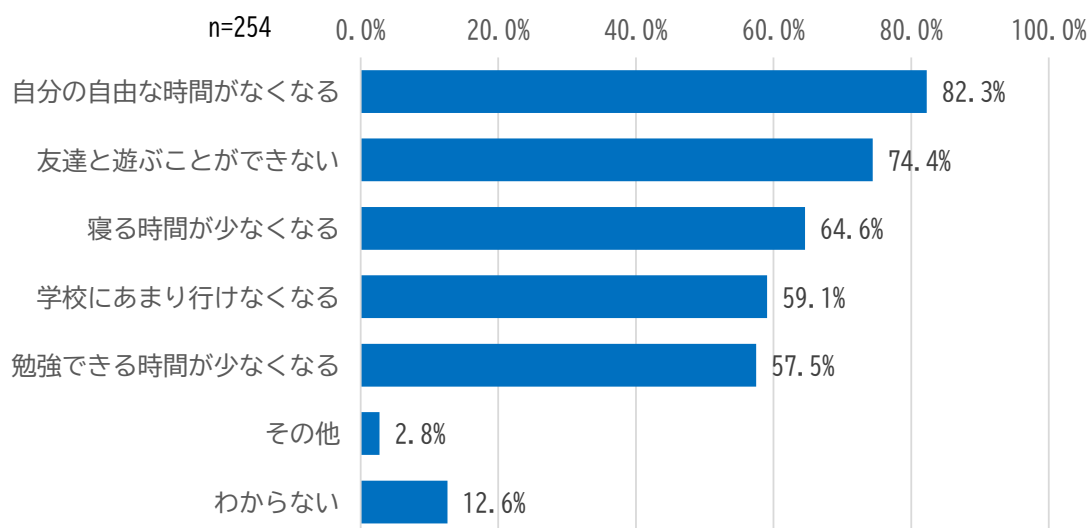
ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、「テレビ、新聞」が71.6%で最も高く、次いで「学校」(10.8%)、「先生、保護者以外の大人の人」(9.5%)の順となっています。

問 26 あなたの身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメートや友だちはいますか。(あてはまるもの一つ選択)



身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメートや友だちがいるかについては、「いないと思う」が94.1%、「いると思う」が5.9%となっています。

問 27 ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響が出るとお思いますか。(あてはまるものすべて選択)



ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、「自分の自由な時間がなくなる」が82.3%で最も高く、次いで「友達と遊ぶことができない」(74.4%)、「寝る時間が少なくなる」(64.6%)の順となっています。

【ヤングケアラーという言葉の認知別】

		n	な学校 く校に なるあまり 行け	なる 寝る 時間 が少 なく	が自 分の 自由 な時 間 が な く な る	勉 強 で き る 時 間 が 少 な く な る	で友 達と 遊ぶ こと が で き な い	そ の 他	わ か ら な い
上段：実数 下段：(%)									
言 ラ ー の 認 知 度	聞いたことがある	74	52	54	65	48	61	3	4
		100.0	70.3	73.0	87.8	64.9	82.4	4.1	5.4
グ レ ー の 認 知 度	聞いたことがない	180	98	110	144	98	128	4	28
		100.0	54.4	61.1	80.0	54.4	71.1	2.2	15.6

ヤングケアラーという言葉の認知別にみると、「自分の自由な時間がなくなる」で言葉を聞いたことがある人は87.8%、言葉を聞いたことがない人は80.0%となっています。

問 28 ヤングケアラーの子どもに対して大人にやってもらいたいことなど自由に思うことを書いてください。(自由記述)

家族のお世話をしていると回答した人の意見およびその他の意見の一部を下記の通り分類しました。

【お世話をしている人の意見】

- ・手伝い。
- ・宿題
- ・その人のやっていることをやらなくて良いようにしてほしい。
- ・ヤングケアラーについてよく分かりました。
- ・大変かもしれないけど頑張って介護をやってもらいたい。
- ・わからない
- ・特に何も思わない。

【その他の意見】 ※括弧内は同様の意見の件数

手助け・手伝い

- ・助けてあげて欲しい。(4)
- ・手伝ってもらいたい。(4)
- ・手伝ってあげて欲しい。(4)

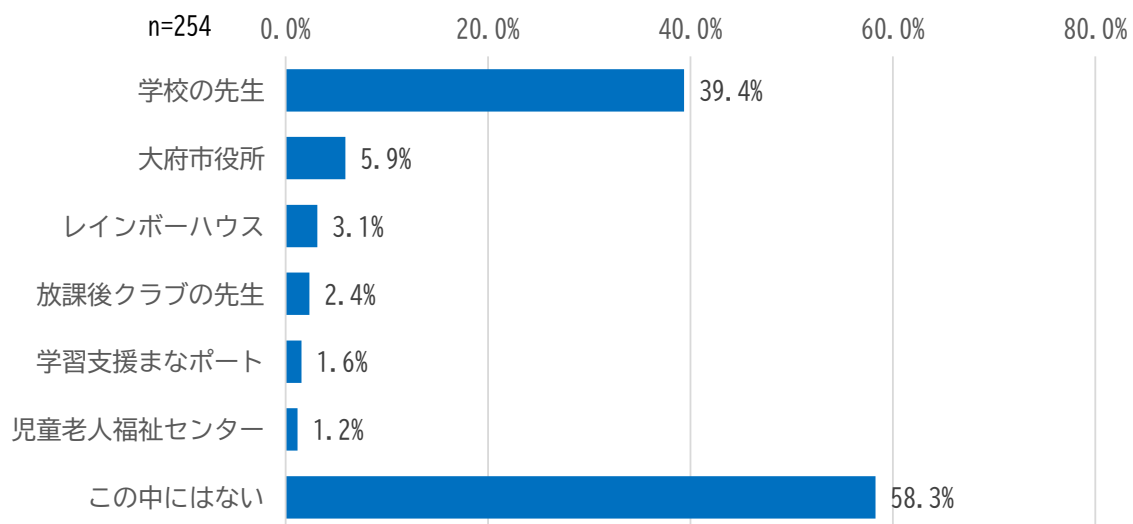
子どものこと・気持ちを考えてほしい・気づいてほしい

- ・子どもの事を思っあげてほしい。(2)

家事

- ・家事をやってほしい。(3)

問 29 あなたは次の中から自分のことや家族のことについて相談をしてみたいと思う場所
はありますか。(あてはまるものすべて選択)

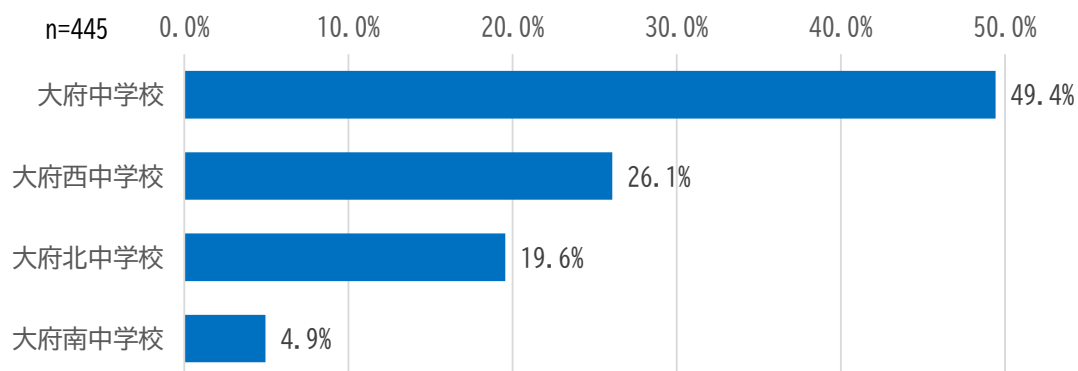


自分のことや家族のことについて相談をしてみたいと思う場所は、「この中にはない」が58.3%で最も高く、次いで「学校の先生」(39.4%)、「大府市役所」(5.9%)の順となっています。

3-3 中学生向けアンケート結果

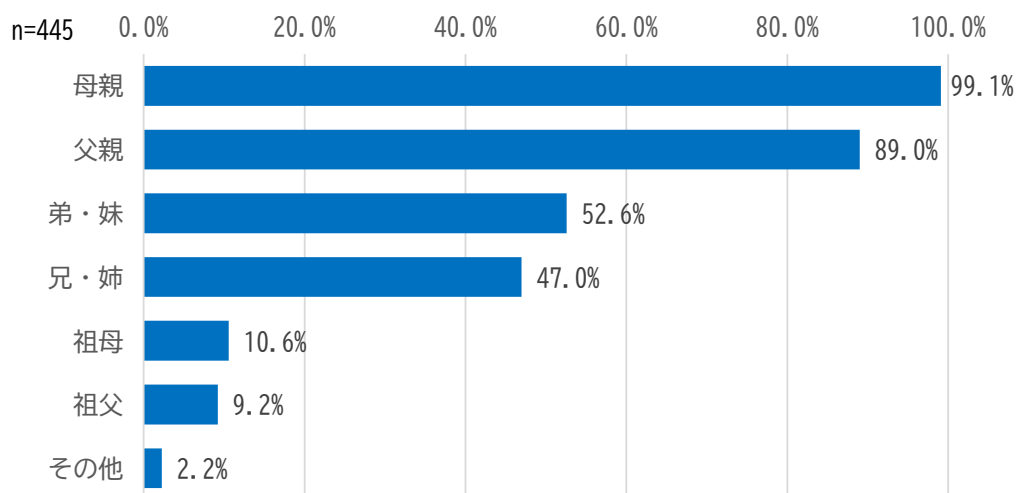
1 基本属性

問1 あなたの通っている学校を選んでください。(あてはまるもの一つ選択)



現在通っている学校は、「大府中学校」が49.4%、「大府西中学校」が26.1%、「大府北中学校」が19.6%、「大府南中学校」が4.9%となっています。

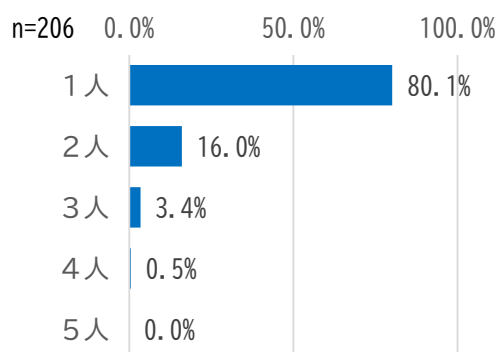
問2 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまるものすべて選択)



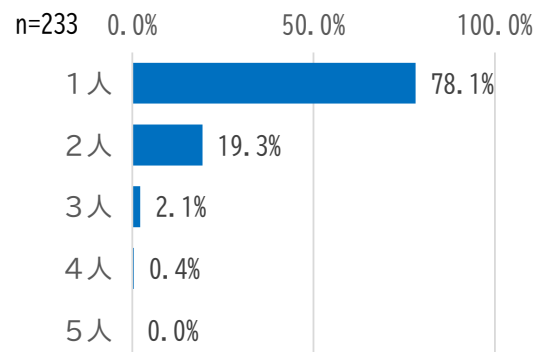
同居人は、「母親」が99.1%で最も高く、次いで「父親」(89.0%)、「弟・妹」(52.6%)の順となっています。

問2で「兄・姉」を選んだ人 お兄さん・お姉さんの人数を教えてください。
問2で「弟・妹」を選んだ人 弟さん・妹さんの人数を教えてください。

お兄さん・お姉さんの人数



弟さん・妹さんの人数



お兄さん・お姉さんの人数は、「1人」が80.1%で最も高く、次いで「2人」が16.0%となっています。

弟さん・妹さんの人数は、「1人」が78.1%で最も高く、次いで「2人」が19.3%となっています。

2 ふだんの生活について

<結果の概要>

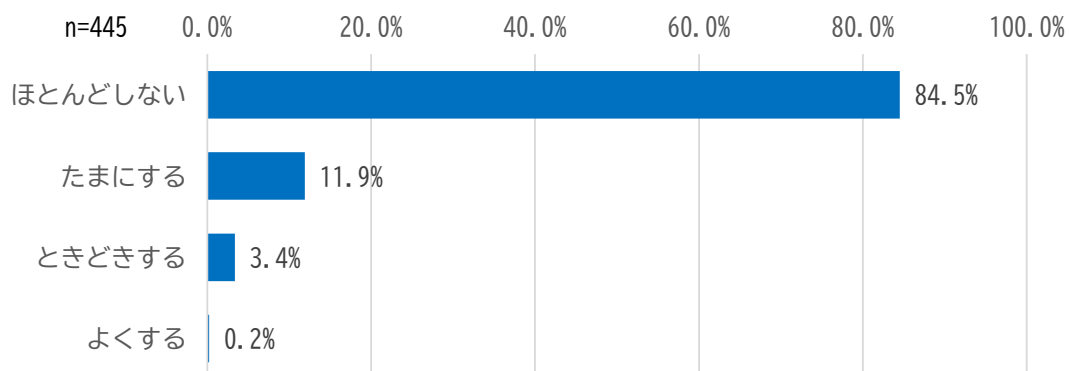
- ・学校を欠席状況は「ほとんどしない」が 84.5%で最も高く、次いで「たまにする」が 11.9%、「ときどきする」が 3.4%の順となっています。遅刻や早退は「ほとんどしない」が 89.0%で最も高く、次いで「たまにする」が 8.3%、「ときどきする」が 1.3%の順となっています。
- ・放課後や休日の習い事は、「はい」が 90.6%、「いいえ」が 9.4%となっています。
- ・最近の睡眠時間が足りているかについては、「いいえ」が 53.3%、「はい」が 46.7%となっています。
- ・毎朝朝食をとっているかについては、「はい」が 93.0%、「いいえ」が 7.0%となっています。
- ・保護者からおこづかいをもらっているかは、「もらっている」が 74.8%、「もらっていない」が 25.2%となっています。
- ・ふだんの学校生活であてはまるものは、「提出物を出すのが遅れることが多い」が 25.8%、「持ち物の忘れ物が多い」が 19.3%、「宿題や課題ができないことが多い」が 18.0%、「授業中に居眠りすることが多い」が 12.4%となっています。
- ・悩みごとや困りごとについては、「学業・成績のこと」が 37.8%、「進路のこと」が 36.2%、「友人関係」が 13.0%となっています。

※家族の世話をしている人のふだんの生活の状況は、参考値として調査結果の詳細に掲載しています。

<詳細>

問3 あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をすることがありますか。
(あてはまるもの一つ選択)

①欠席について



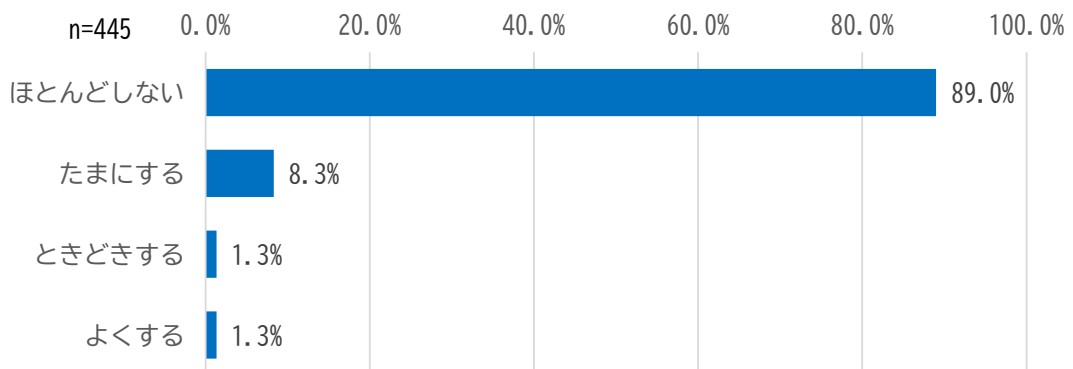
欠席については、「ほとんどしない」が 84.5%で最も高くなっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	ほとんどしない	たまにする	ときどきする	よくする
	上段：実数 下段：(%)				
全体	445 100.0	376 84.5	53 11.9	15 3.4	1 0.2
お世話が必要な人をお世話をしている	14 100.0	10 71.4	3 21.4	1 7.1	- -

お世話が必要な人をお世話している人の欠席について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

②遅刻・早退について



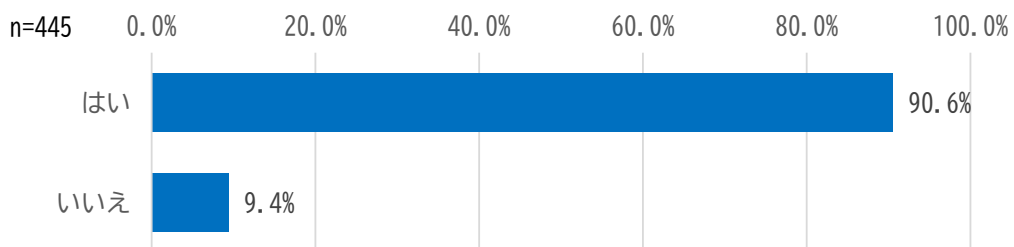
遅刻・早退については、「ほとんどしない」が 89.0%で最も高くなっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	ほとんどしない	たまにする	ときどきする	よくする
	上段：実数 下段：(%)				
全体	445 100.0	396 89.0	37 8.3	6 1.3	6 1.3
お世話が必要な人をお世話をしている	14 100.0	11 78.6	2 14.3	1 7.1	- -

お世話が必要な人をお世話している人の遅刻・早退について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問4 あなたは部活動や学校外のクラブ活動に参加していますか。
(あてはまるもの一つ選択)



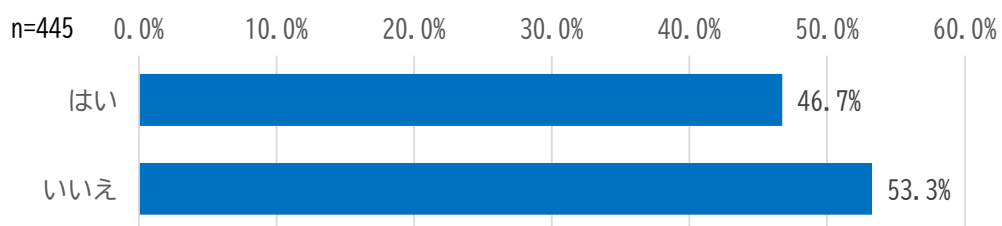
部活動や学校外のクラブ活動の参加は、「はい」が90.6%、「いいえ」が9.4%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
上段：実数 下段：(%)			
全体	445 100.0	403 90.6	42 9.4
お世話が必要な人をお世話をしている	14 100.0	13 92.9	1 7.1

お世話が必要な人をお世話している人の部活動や学校外のクラブ活動について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問5 最近睡眠時間が足りないと感じていますか。(あてはまるもの一つ選択)



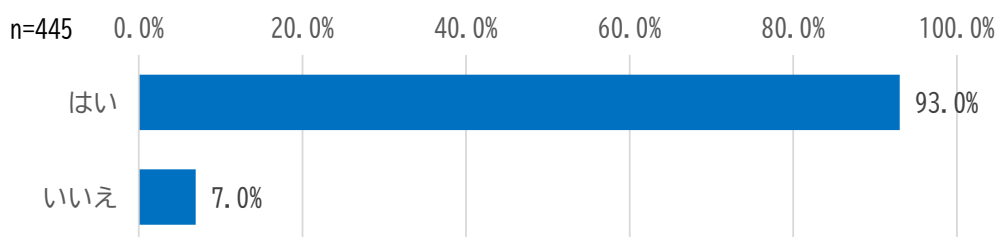
最近の睡眠時間が足りているかについては、「いいえ」が53.3%、「はい」が46.7%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
	上段：実数 下段：(%)		
全体	445 100.0	208 46.7	237 53.3
お世話が必要な人をお世話している	14 100.0	8 57.1	6 42.9

お世話が必要な人をお世話している人の睡眠時間について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問6 毎朝朝食をとっていますか。(あてはまるもの一つ選択)



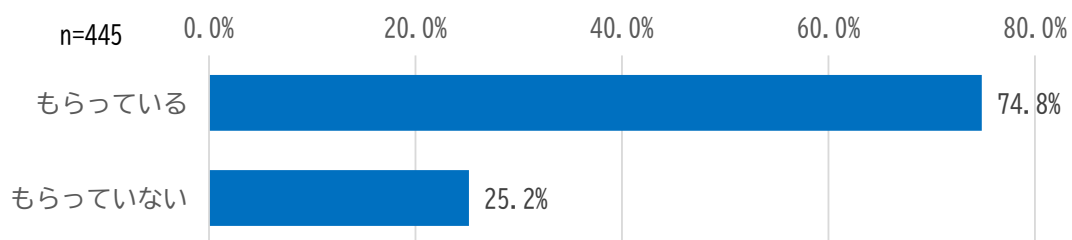
毎朝朝食をとっているかについては、「はい」が93.0%、「いいえ」が7.0%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	はい	いいえ
上段：実数 下段：(%)			
全体	445 100.0	414 93.0	31 7.0
お世話が必要な人をお世話している	14 100.0	9 64.3	5 35.7

お世話が必要な人をお世話している人の毎朝の朝食について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問7 あなたは保護者の方からおこづかいをもらっていますか。
 (あてはまるもの一つ選択)



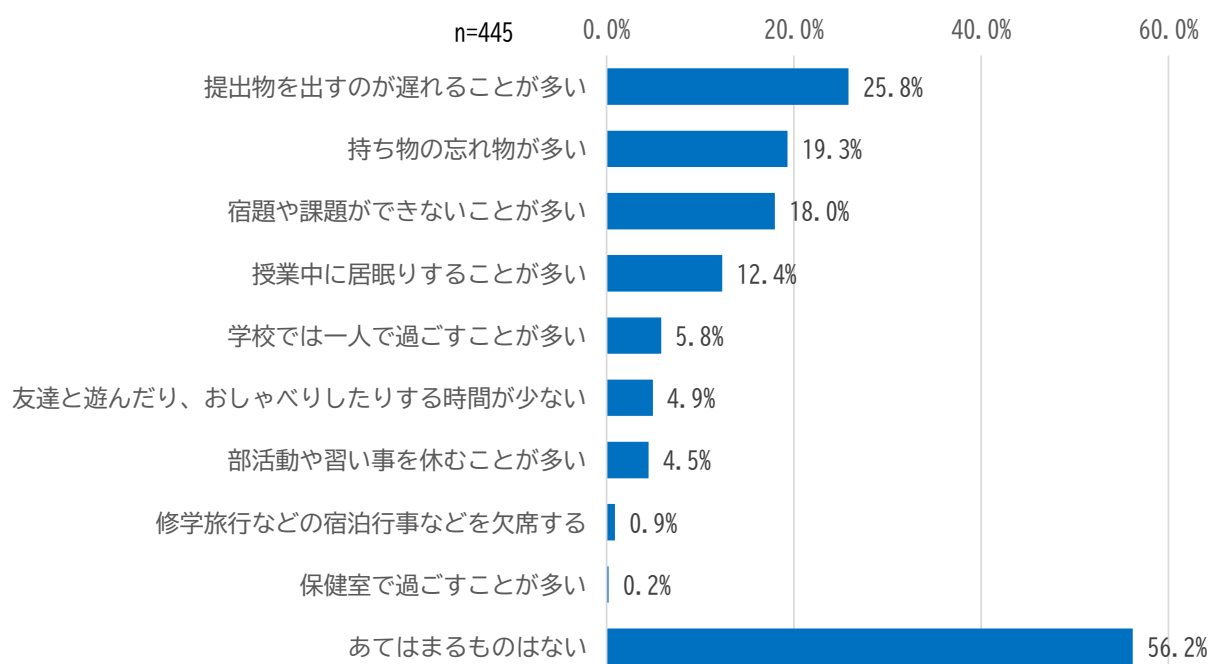
保護者からおこづかいをもらっているかは、「もらっている」が74.8%、「もらっていない」が25.2%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	もらっている	もらっていない
全体	445	333	112
	100.0	74.8	25.2
お世話が必要な人をお世話している	14	9	5
	100.0	64.3	35.7

お世話が必要な人をお世話している人のおこづかいについて、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問8 ふだんの学校生活で以下にあてはまるものはありますか。
(あてはまるものすべて選択)



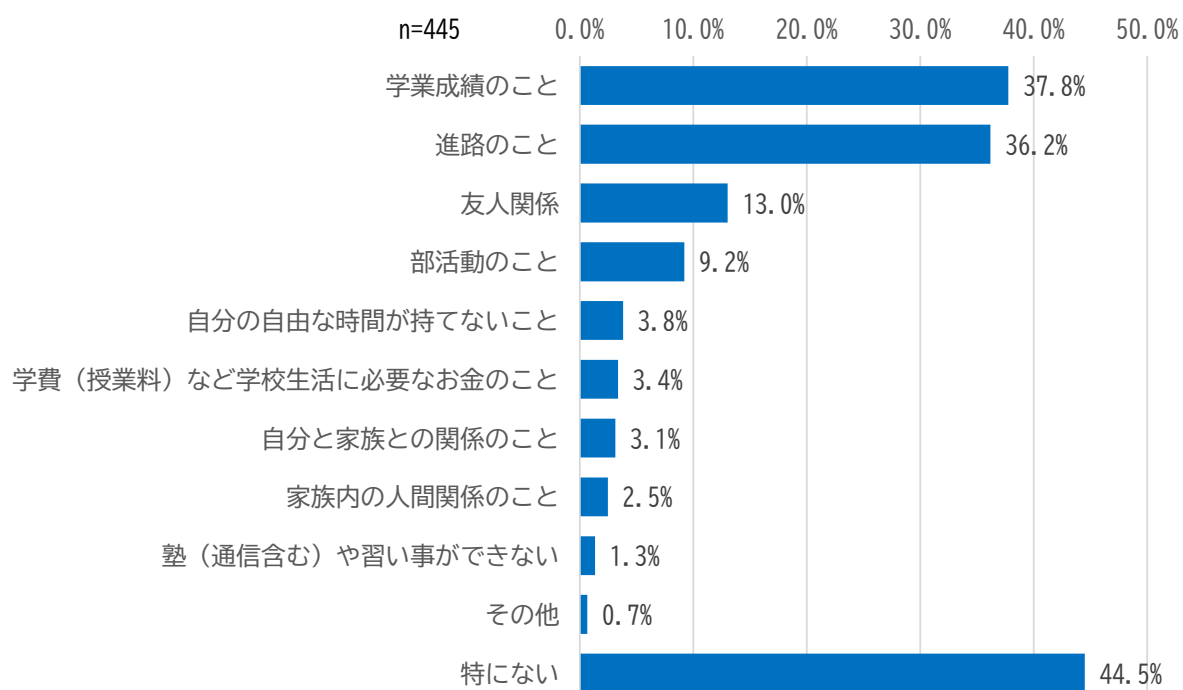
ふだんの学校生活であてはまるものは、「あてはまるものはない」が56.2%で最も高く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」(25.8%)、「持ち物の忘れ物が多い」(19.3%)の順となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などを欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	あてはまるものはない
全体	445	55	80	86	20	115	4	1	26	22	250
	100.0	12.4	18.0	19.3	4.5	25.8	0.9	0.2	5.8	4.9	56.2
お世話が必要な人をお世話している	14	3	3	6	2	7	-	-	2	1	3
	100.0	21.4	21.4	42.9	14.3	50.0	-	-	14.3	7.1	21.4

お世話が必要な人をお世話している人のふだんの学校生活について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問9 あなたが悩んでいることや困りごとにはありますか。(あてはまるものすべて選択)



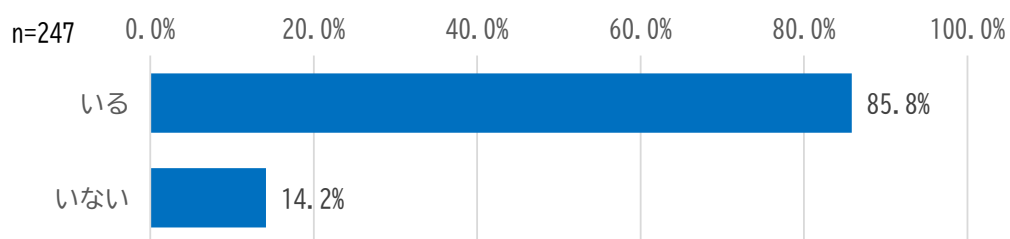
悩みごとや困りごとについては、「特にない」が44.5%で最も高く、次いで「学業成績のこと」(37.8%)、「進路のこと」(36.2%)の順となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	友人関係	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（通信含む）や習い事ができないこと	自分の自由な時間が持てないこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと	その他	特にない
上段：実数 下段：(%)												
全体	445	58	168	161	41	15	6	17	14	11	3	198
	100.0	13.0	37.8	36.2	9.2	3.4	1.3	3.8	3.1	2.5	0.7	44.5
お世話が必要な人をお世話をしている	14	4	7	9	2	3	1	-	1	1	-	3
	100.0	28.6	50.0	64.3	14.3	21.4	7.1	-	7.1	7.1	-	21.4

お世話が必要な人をお世話している人の悩んでいることや困りごとについて、件数が少ないため、参考値として掲載します。

問 10 問 9 で 1 から 1 1 のどれかを選んだ人にお聞きします。悩みや困りごとについて話を聞いてくれる人はいますか。(あてはまるもの一つ選択)



悩みごとや困りごとについて聞いてくれる人は、「いる」が 85.8%、「いない」が 14.2%となっています。

【お世話が必要な人をお世話している人】

	n	いる	いない
	上段：実数 下段：(%)		
全体	247 100.0	212 85.8	35 14.2
お世話が必要な人をお世話している	11 100.0	8 72.7	3 27.3

お世話が必要な人をお世話している人の悩んでいることや困りごとの話を聞いてくれる人の有無について、件数が少ないため、参考値として掲載します。

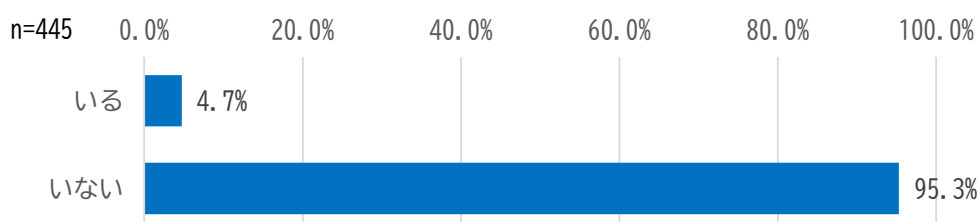
3 家族のお世話について

<結果の概要>

- ・家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、「いない」が95.3%、「いる」が4.7%となっています。「いる」を回答した4.7%（21件）のうち、自身がお世話をしているかについては、「はい」が66.7%（14件）となっています。
- ・誰にお世話をしているかについては、「きょうだい（年下）」が42.9%で最も高く、次いで「母親」（21.4%）、「父親」「祖父」「きょうだい（年上）」（ともに14.3%）の順となっています。お世話をしている人の状況は、「若い」が35.7%で最も高く、次いで「高齢（65歳以上）」「身体障がい」（ともに21.4%）、「認知症」（14.3%）の順となっています。
- ・お世話の種別は、「食事の準備や掃除、洗濯」が50.0%で最も高く、次いで「見守り」（42.9%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（35.7%）の順となっています。
- ・お世話を一緒に手伝ってくれる人の有無は、「いる」が85.7%、「いない（自分だけでお世話をしている）」が14.3%となっています。
- ・お世話をしている日数は、「週7日」が57.1%で最も高くなっています。

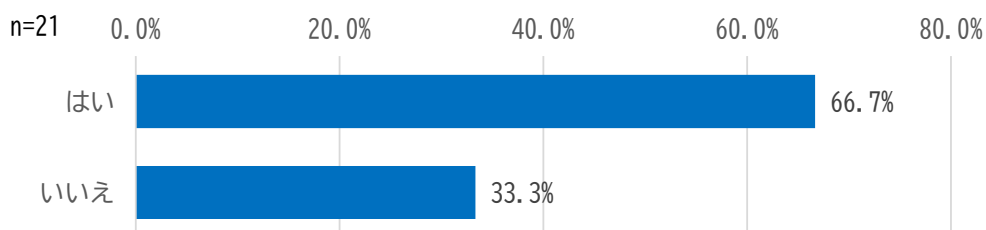
<詳細>

問 11 家族の中にお世話が必要な人はいますか。（ここでお世話とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話のことをいいます）（あてはまるもの一つ選択）



家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、「いない」が95.3%、「いる」が4.7%となっています。

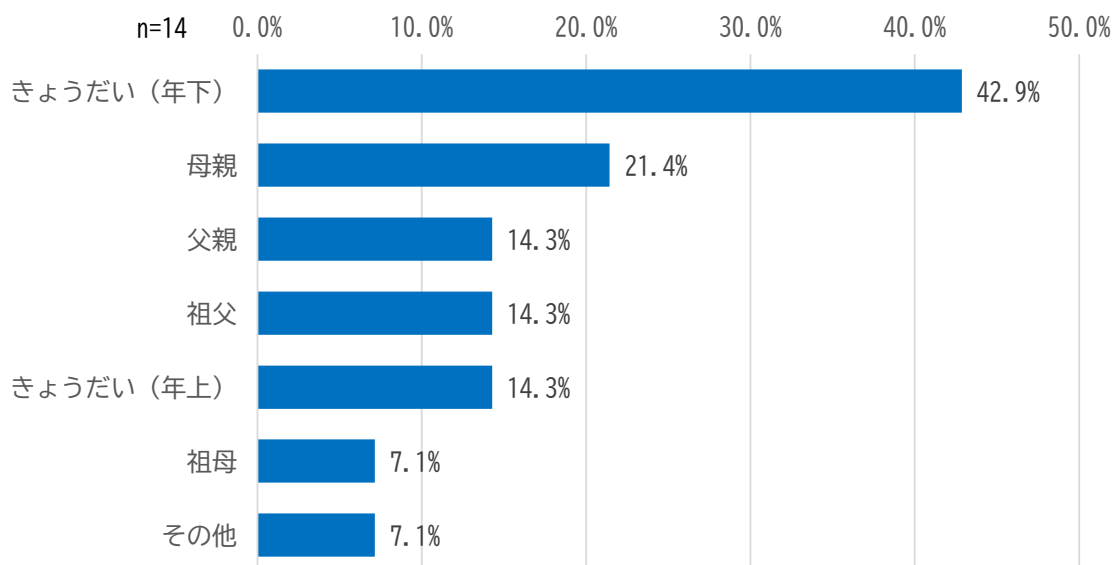
問 12 問 11 で「1いる」を選んだ人にお聞きします。あなたはその人のお世話をしていますか。（あてはまるもの一つ選択）



自身がお世話をしているかについては、「はい」が66.7%、「いいえ」が33.3%となっています。

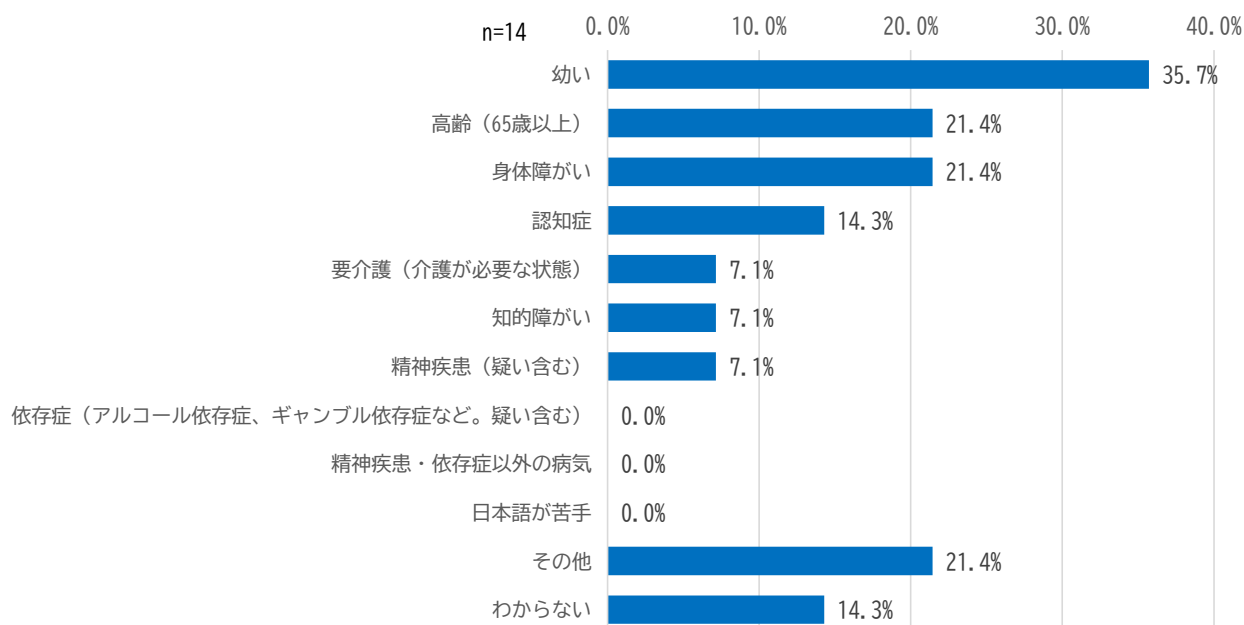
問 13 問 12 で「1 はい」を選んだ人にお聞きします。あなたは誰にどのようなお世話をしていますか。(①～③はあてはまるものすべて選択、④はあてはまるもの一つ選択)

①あなたがお世話をしている人（あてはまるものすべて選択）



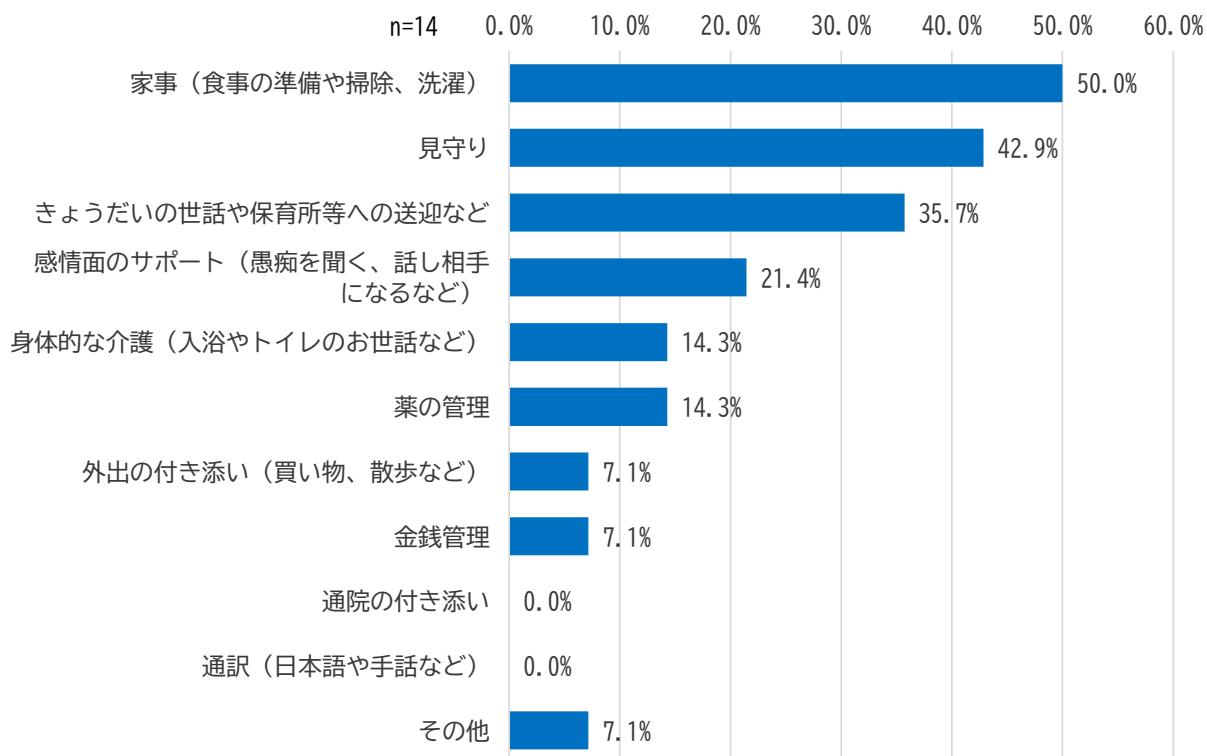
誰にお世話をしているかについては、「きょうだい（年下）」が42.9%で最も高く、次いで「母親」（21.4%）、「父親」「祖父」「きょうだい（年上）」（ともに14.3%）の順となっています。

②お世話をしている人の状況について教えてください。（あてはまるものすべて選択）



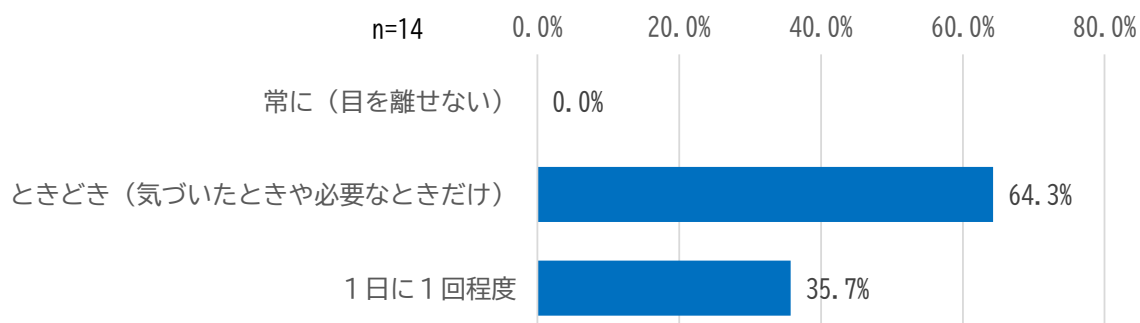
お世話をしている人の状況は、「若い」が35.7%で最も高く、次いで「高齢（65歳以上）」「身体障がい」（ともに21.4%）、「認知症」（14.3%）の順となっています。

③あなたはどのようなお世話をしていますか。（あてはまるものすべて選択）



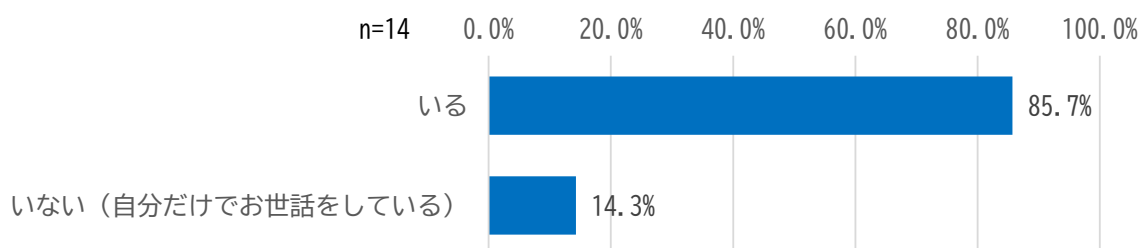
お世話の種別は、「食事の準備や掃除、洗濯」が50.0%で最も高く、次いで「見守り」（42.9%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（35.7%）の順となっています。

④あなたはどれくらいお世話をしていますか。



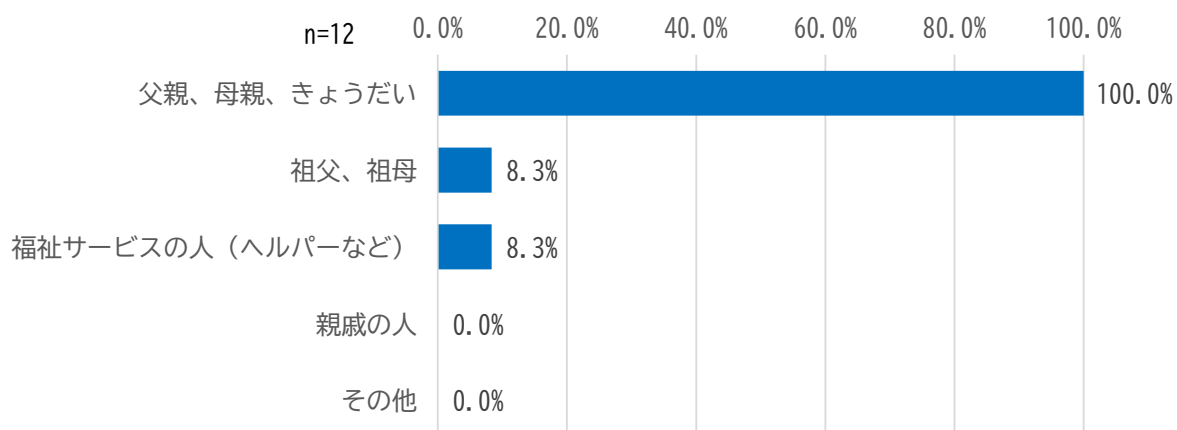
お世話の頻度は、「ときどき（気づいたときや必要なときだけ）」が64.3%で最も高く、次いで「1日1回程度」（35.7%）となっています。

問 14 あなたのお世話を一緒にしてくれる人、手伝ってくれる人はいますか。
(あてはまるもの一つ選択)



お世話を一緒に手伝ってくれる人の有無は、「いる」が 85.7%、「いない (自分だけでお世話をしている)」が 14.3%となっています。

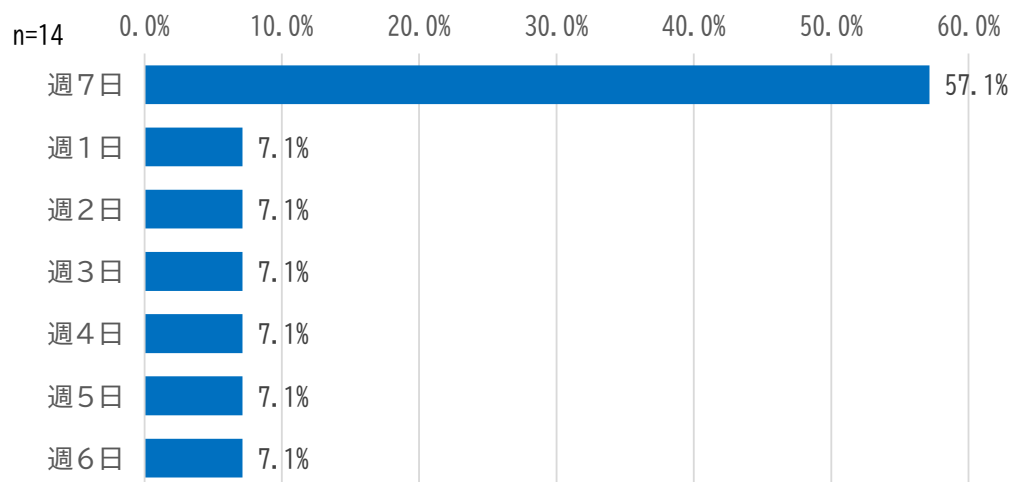
問 15 問 14 で「1 いる」を選んだ人にお聞きします。お世話を一緒にしている人は誰ですか。(あてはまるものすべて選択)



お世話を一緒にしてくれる人は、「父親、母親、きょうだい」が 100.0%となっています。

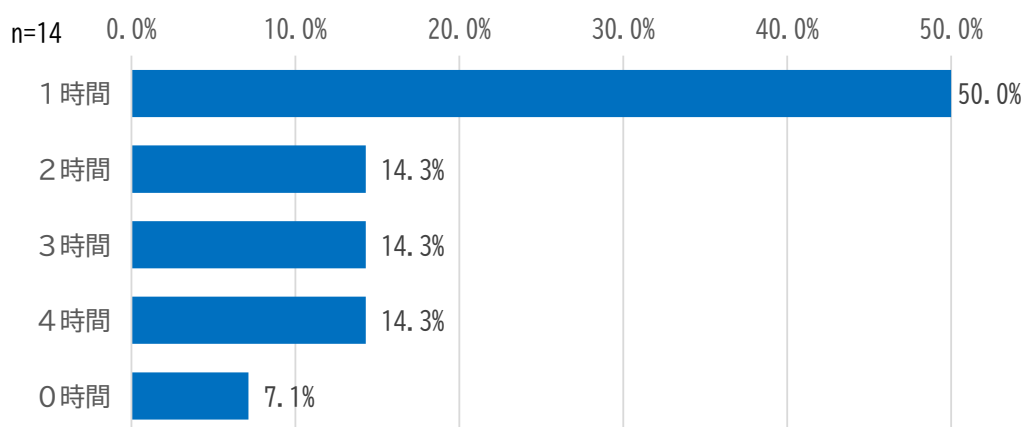
問 16 あなたはどのくらいお世話をしていますか。週の日数とお世話をしている時間を教えてください。※はっきりわからない場合は、だいたいの日数と時間を教えてください。(数字を入力)

①週の日数



お世話をしている日数は、「週7日」が57.1%で最も高くなっています。

②時間



お世話をしている時間は、「1時間」が50.0%で最も高くなっています。

4 お世話をすることのつらさ・悩み

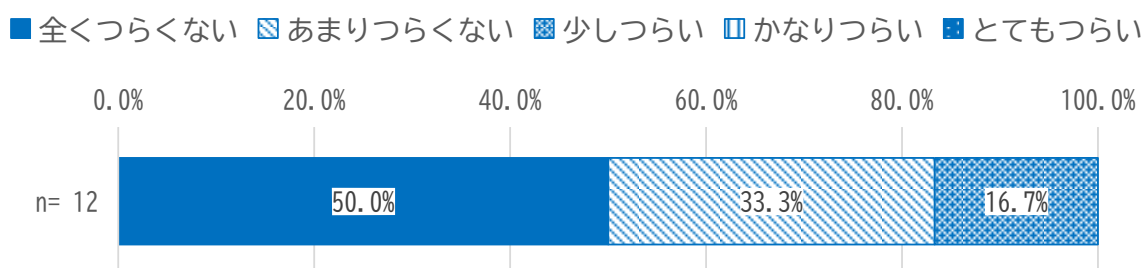
<結果の概要>

- ・お世話をすることについて体力面のつらさは、「少しつらい」が 16.7%、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 83.3%となっています。気持ちの面のつらさは、「少しつらい」と「かなりつらい」をあわせた“つらい”が 33.4%、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 66.7%となっています。
- ・お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無は、「ある」が 21.4%、「ない」が 78.6%となっています。相談の相手は、「友達」となっています。
- ・学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」がともに 21.4%となっています。

<詳細>

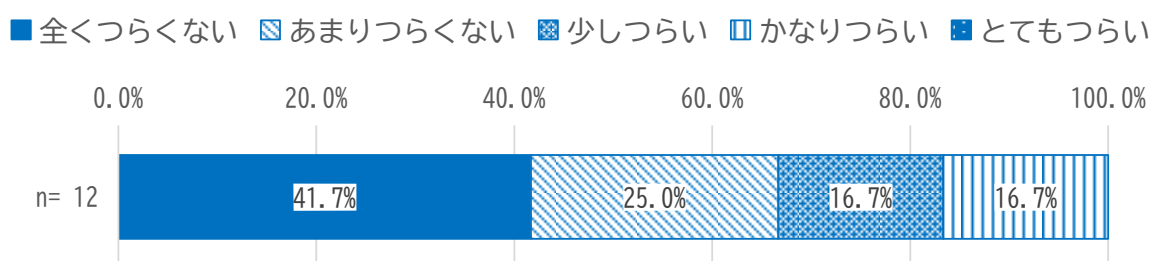
問 17 お世話をすることについて大変さやつらさを感じていますか。あてはまるものを選んでください。(①②それぞれについてあてはまるもの一つ選択)

①体力の面



お世話をすることについて体力面のつらさは、「少しつらい」が 16.7%、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 83.3%となっています。

②気持ちの面



お世話をすることについて気持ちの面のつらさは、「少しつらい」と「かなりつらい」をあわせた“つらい”が 33.4%、「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた“つらくない”が 66.7%となっています。

【お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別】

①体力の面

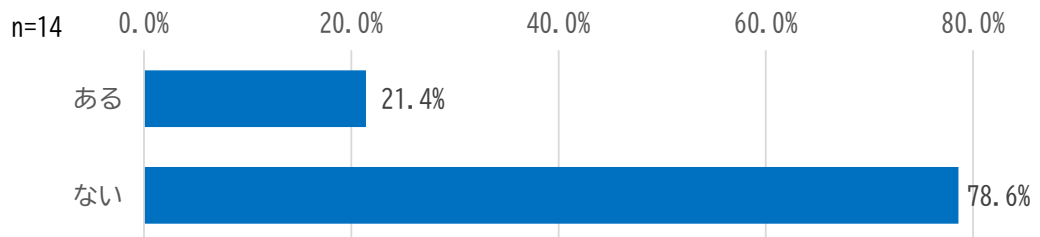
	n	全くつらい	あまりつらい	少しつらい	かなりつらい	とてもつらい	無回答
上段：実数 下段：(%)							
全体	14 100.0	6 42.9	4 28.6	2 14.3	-	-	2 14.3
ある	3 100.0	-	-	1 33.3	-	-	2 66.7
ない	11 100.0	6 54.5	4 36.4	1 9.1	-	-	-

②気持ちの面

	n	全くつらい	あまりつらい	少しつらい	かなりつらい	とてもつらい	無回答
上段：実数 下段：(%)							
全体	14 100.0	5 35.7	3 21.4	2 14.3	2 14.3	-	2 14.3
ある	3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	2 66.7
ない	11 100.0	5 45.5	2 18.2	2 18.2	2 18.2	-	-

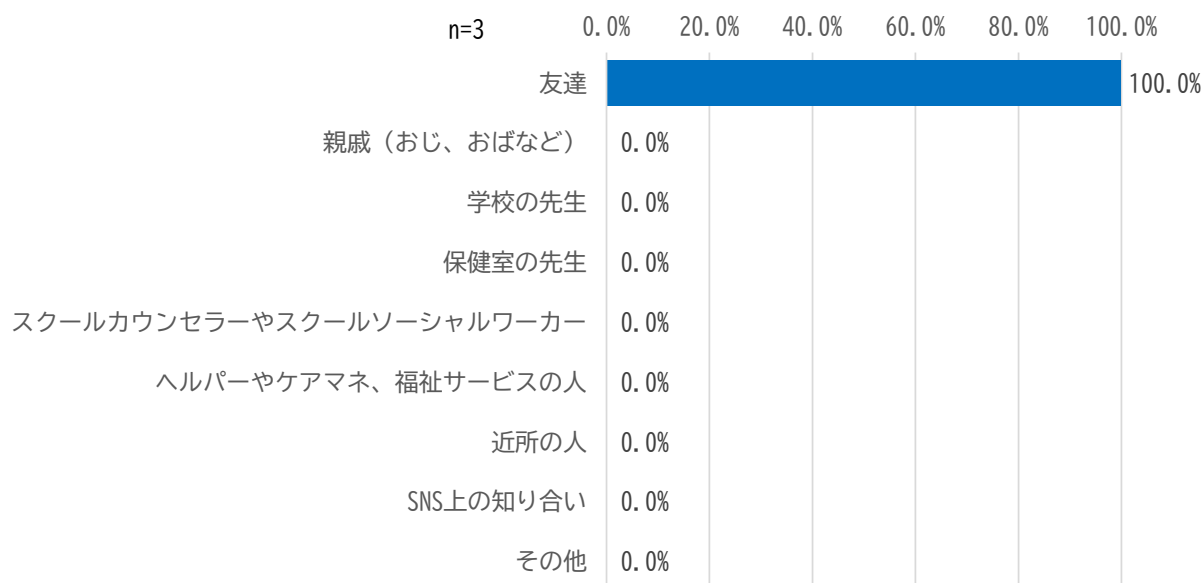
お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別にみると、相談したことがない人は、体力面で「少しつらい」が1件、気持ちの面で「少しつらい」が2件、「かなりつらい」が2件となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 18 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。（あてはまるもの一つ選択）



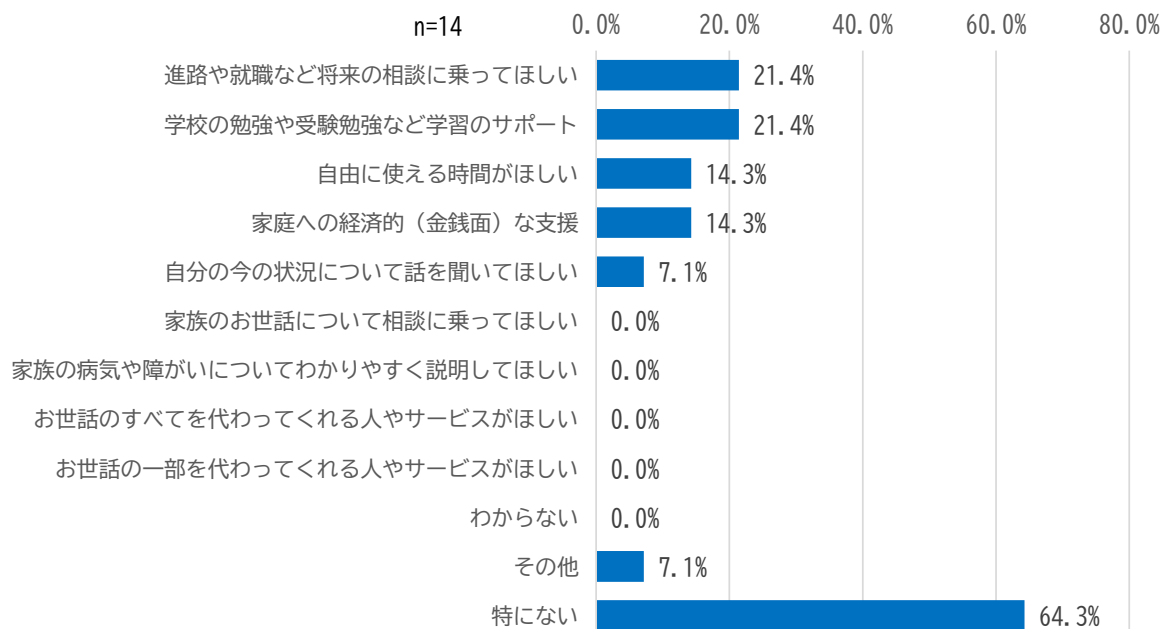
お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無は、「ある」が21.4%、「ない」が78.6%となっています。

問 19 問 18 で「1 ある」を選んだ人にお聞きします。あなたが相談した人は誰ですか。
(あてはまるものすべて選択)



悩みの相談相手は、「友達」となっています。（件数が少ないため、参考程度とします。）

問 20 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。
(あてはまるものすべて選択)

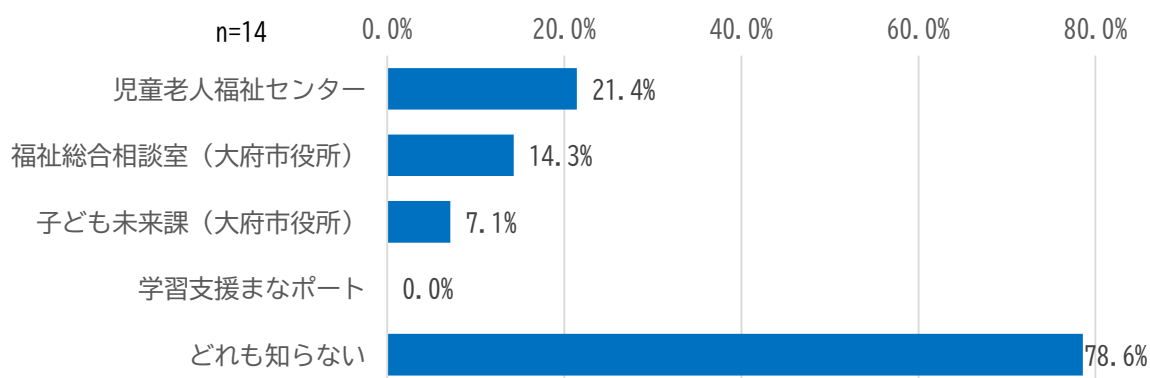


学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「特にない」が 64.3%で最も高く、次いで「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」（ともに 21.4%）の順となっています。

問 21 問 20 で「お世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」と「お世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい」を選んだ人にお聞きします。
代わってほしいお世話の内容を教えてください。

該当する回答はありません。

問 22 学校以外で家族のことについて相談できる場所を知っていますか。
(あてはまるものすべて選択)



学校以外で家族のことを相談できる場所の認知は、「どれも知らない」が 78.6%で最も高く、次いで「児童老人福祉センター」(21.4%)、「福祉総合相談室 (大府市役所)」(14.3%) の順となっています。

【お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別】

	n	府福祉総合相談室 (大府市役所)	児童老人福祉センター	学習支援まなポート	子ども未来課 (大府市役所)	どれも知らない
全体	14	2	3	-	1	11
	100.0	14.3	21.4	-	7.1	78.6
ある	3	-	-	-	-	3
	100.0	-	-	-	-	100.0
ない	11	2	3	-	1	8
	100.0	18.2	27.3	-	9.1	72.7

お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別にみると、相談したことがない人は、「どれも知らない」が 8 件となっています。(件数が少ないため、参考程度とします。)

5 ヤングケアラーについて

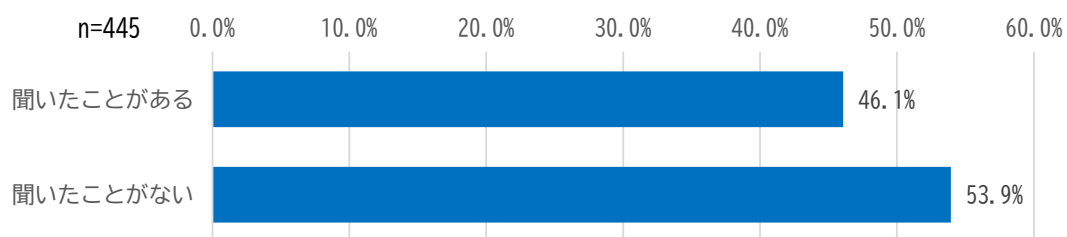
<調査結果の概要>

・ヤングケアラーの言葉の認知は、「聞いたことがない」が53.9%、「聞いたことがある」が46.1%となっています。ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、「テレビ、新聞」が66.3%で最も高く、次いで「SNSやインターネット」(28.8%)、「雑誌や本」(26.3%)の順となっています。

・ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、「自分の自由な時間がなくなる」が87.0%で最も高く、次いで「友達と遊ぶことができない」(76.9%)、「睡眠時間が少なくなる」(76.6%)の順となっています。

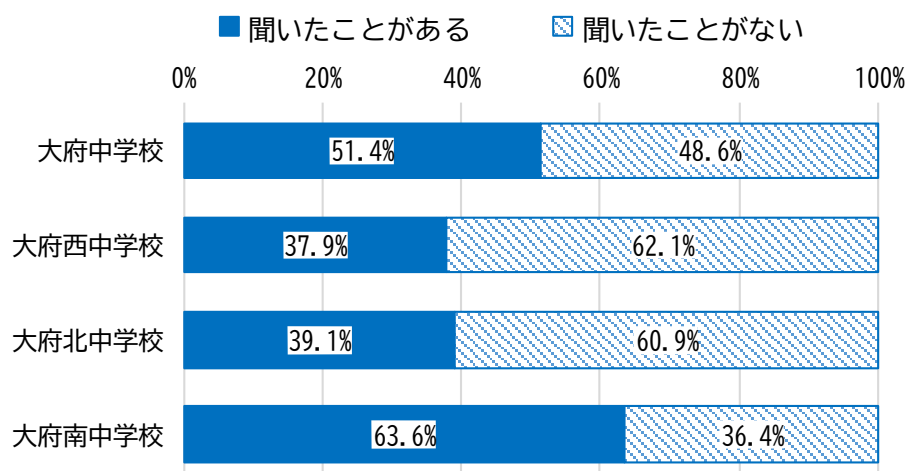
<詳細>

問 23 あなたは「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。
(あてはまるもの一つ選択)



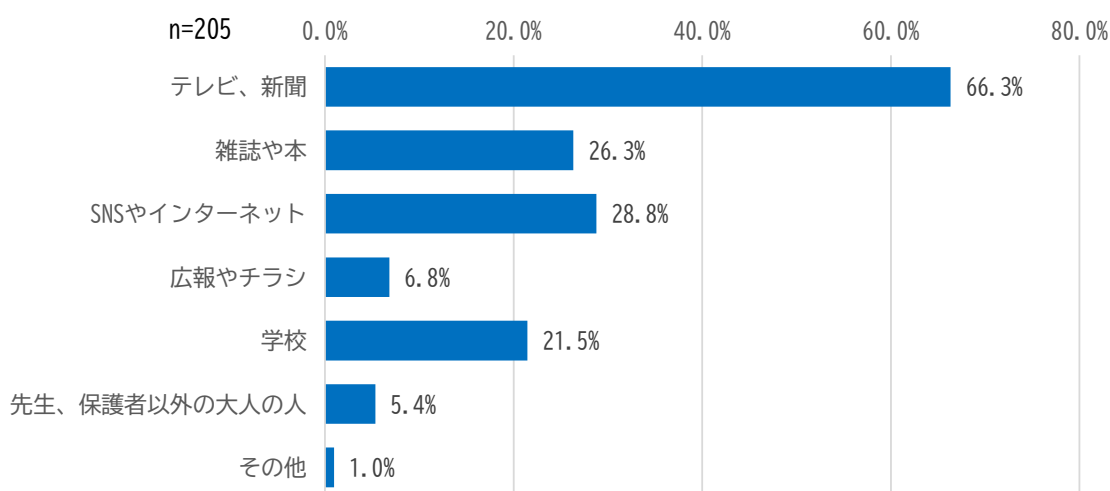
ヤングケアラーの言葉の認知は、「聞いたことがない」が53.9%、「聞いたことがある」が46.1%となっています。

【学校別】



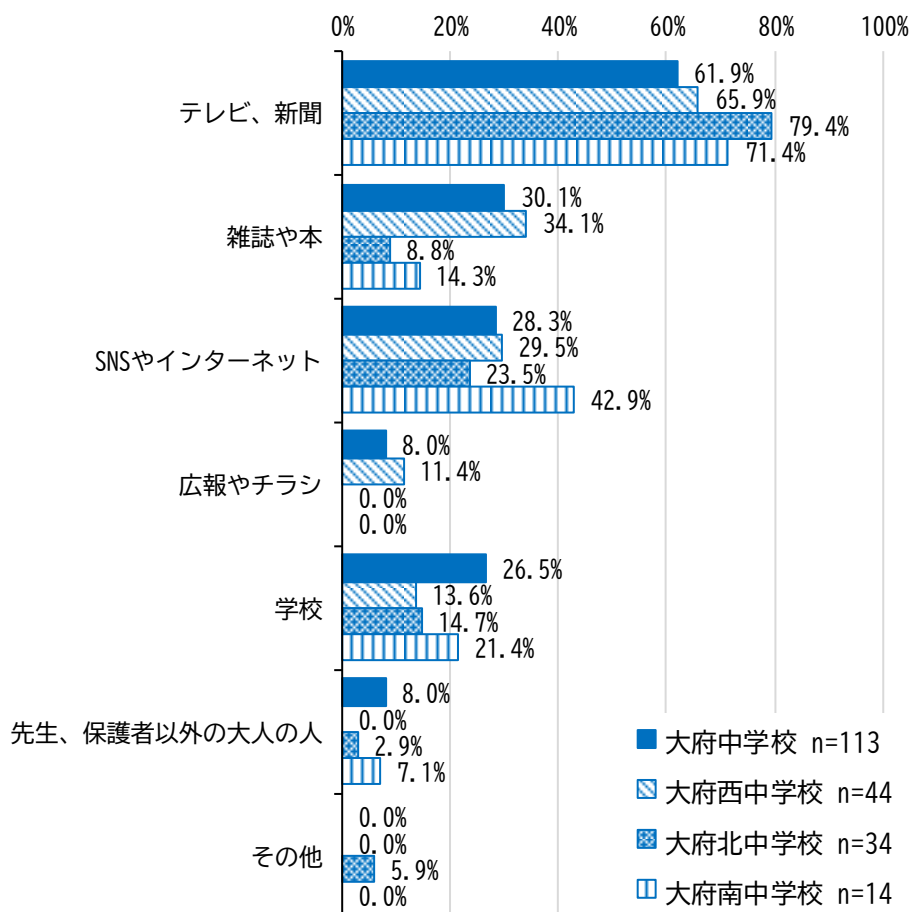
学校別にみると、大府南中学校で「聞いたことがある」が63.6%と高くなっています。

問 24 問 23 で「1 聞いたことがある」を選んだ人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべて選択)



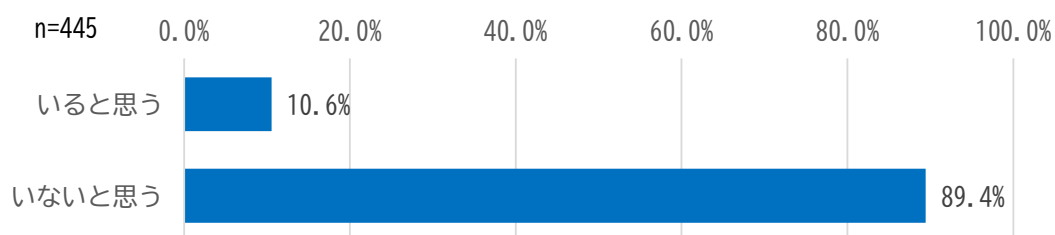
ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、「テレビ、新聞」が 66.3%で最も高く、次いで「SNS やインターネット」(28.8%)、「雑誌や本」(26.3%) の順となっています。

【学校別】



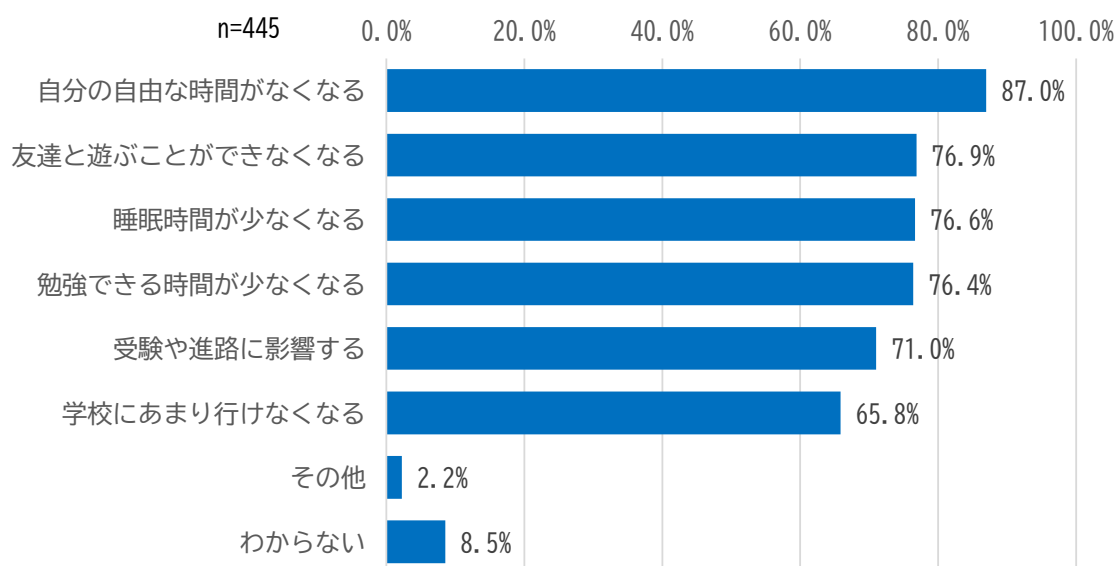
学校別にみると、大府中学校で「学校」が 26.5%と高くなっています。

問 25 あなたの身近にヤングケアラーにあてはまるような子どもはいますか。
(あてはまるもの一つ選択)



身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメートや友だちがいるかについては、「いないと思う」が89.4%、「いると思う」が10.8%となっています。

問 26 ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響が出るとお考えですか。
(あてはまるものすべて選択)



ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、「自分の自由な時間がなくなる」が87.0%で最も高く、次いで「友達と遊ぶことができない」(76.9%)、「睡眠時間が少なくなる」(76.6%)の順となっています。

【ヤングケアラーという言葉の認知別】

		n	なる 学校に あまり 行けな く	睡眠 時間が 少なくな る	く 自分の 自由な 時間が な	く 勉強で きる時 間が少 な	受験 や進路 に影響 する	なく 友達と 遊ぶこ とができ な	その他	わから ない
上段：実数 下段：(%)										
言葉の認知度 ヤングケアラーの認知度	聞いたことがある	205	140	170	188	171	158	163	4	10
		100.0	68.3	82.9	91.7	83.4	77.1	79.5	2.0	4.9
	聞いたことがない	240	153	171	199	169	158	179	6	28
		100.0	63.8	71.3	82.9	70.4	65.8	74.6	2.5	11.7

ヤングケアラーという言葉の認知別みると、言葉を聞いたことがある人は「勉強できる時間が少なくなる」(83.4%)、言葉を聞いたことがない人は「友達と遊ぶことができなくなる」(74.6%)で割合が高くなっています。

問 27 ヤングケアラーの子どもに対して大人がやるべきと思うこと、支援に必要なことなど自由に思うことを書いてください。(自由記述)

家族のお世話をしていると回答した人の意見およびその他の意見の一部を下記の通り分類しました。

【お世話をしている人の意見】

- ・助けてあげる。
- ・仕事などを頑張っているのはわかるけど、たまにはお皿などを洗ってほしい。
- ・声をかけたり、少しでも手伝ってあげると身体的にも楽になると思う。
- ・早めに気づいて相談に乗ってほしい。中学生はまだ反抗や自分の意見を述べるできない人が多い。友達に言っても聞かれないので、先生など大人の人に相談して解決策を言ってもらおうと思っても、相談に乗ってくれた先生などにその相談内容を親に話され、親が自分に何か言ってくるかもしれないと被害妄想をする人も少なくはないと思う。大人は子どもにとってきちんと信頼のできる何でも話せるような存在になってほしい。
- ・大人がやる。
- ・子どもには全て任せるのではなく、すぐに終わる家事をやらせる。

【その他の意見】 ※括弧内は同様の意見の件数

手助け・手伝い

- ・手伝いをする。(5)
- ・助けてあげる。(4)

- ・そのこどもが少しでも自分の時間を持てるように手伝ったりする。(3)
- ・少しでもできることがあったら手伝ってあげる。(3)

相談相手・機会の確保

- ・相談に乗ってあげる。(12)
- ・話を聞く。(3)

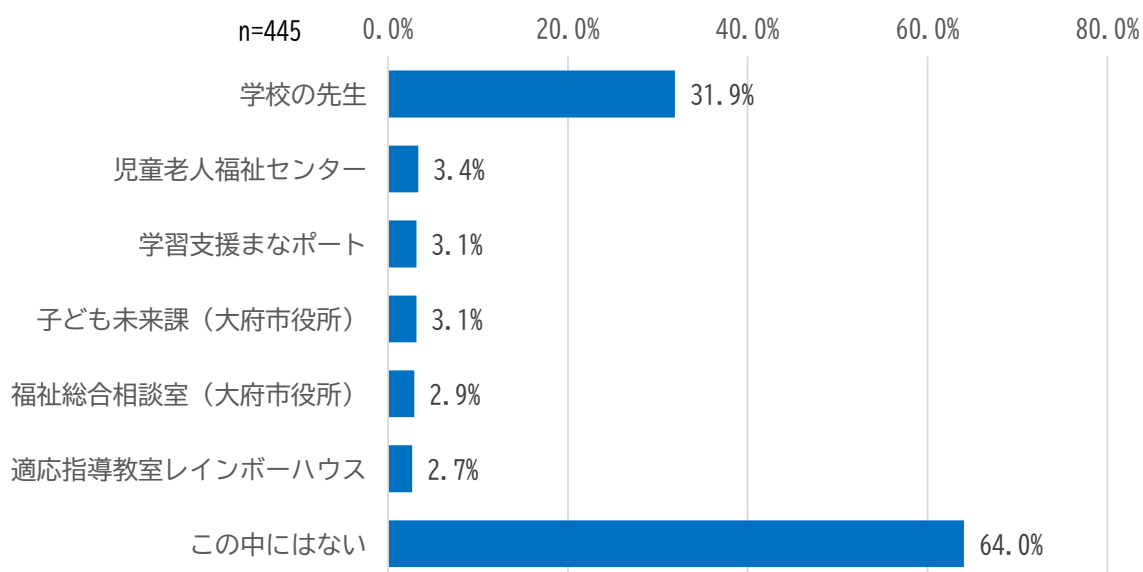
金銭的援助

- ・金銭的援助 (3)
- ・経済的な支援 (2)
- ・補助金を出す。(2)

子どもの負担を減らす

- ・子どもの負担を減らす。(2)

問 28 あなたは次の中から自分のことや家族のことについて相談をしてみたいと思う場所
 がありますか。(あてはまるものすべて選択)



自分のことや家族のことについて相談をしてみたいと思う場所は、「この中にはない」が 64.0%で最も高く、次いで「学校の先生」(31.9%)、「児童老人福祉センター」(3.4%) の順となっています。

【困りごとや悩みの有無別】

		n	学校の先生	児童老人福祉センター	学習支援まなポート	福祉総合相談室 (大府市役所)	子ども未来課 (大府市役所)	適応指導教室レインボーハウス	この中にはない
全体		445 100.0	142 31.9	15 3.4	14 3.1	13 2.9	14 3.1	12 2.7	283 63.6
ごこ悩 ととん のやで 有困い 無りる	ある	247 100.0	80 32.4	7 2.8	7 2.8	8 3.2	9 3.6	5 2.0	155 62.8
	特にない	198 100.0	62 31.3	8 4.0	7 3.5	5 2.5	5 2.5	7 3.5	128 64.6

悩んでいることや困りごとの有無別にみると、困りごとがある人は「福祉総合相談室 (大府市役所)」が 3.2%、「子ども未来課 (大府市役所)」が 3.6%となっています。

4 調査結果の考察、課題

(1) 子どもの権利に基づいたヤングケアラーの周知

教職員向けアンケート結果では、ヤングケアラーのイメージや子どもに与える影響について子どもの権利の認知別に異なる結果となっています。ヤングケアラーのイメージでは、「能力以上の介護や介助をしている」の回答割合に差があり、子どもの権利を知っている人で72.5%だったのに対し、知らない人では57.1%となっています。ヤングケアラー状態になることの影響では、上位1位の「精神的・情緒的な不安定さを抱える」は知っている人・知らない人とも約8割となっていますが、その他の「不登校状態に陥り、学力が低下する」「豊かな感性の発達が阻害される」では、知っている人と知らない人では回答割合に15ポイント以上の差があります。

子どもの権利の認知度によりヤングケアラーについての理解や認識が異なる可能性があるため、ヤングケアラー状態が子どもの権利に与える影響について理解を深める必要があると考えられます。

(2) ヤングケアラーと思われる子どもの把握

教職員向けアンケート調査の結果では、ヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無は学校種別に異なる結果となっています。小学校では「いる」が9.7%、中学校では「いる」が40.3%、高等学校では「いる」が35.8%となっており、中学校と高等学校でヤングケアラーと思われる子どもが多い傾向にあります。ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況では、欠席が多いことや学力が低下していることなどが上位項目となっており、これらに複数該当する子どもはヤングケアラーの疑いがあると考えられます。

表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況

順位	状況	割合
1位	欠席が多い、不登校傾向にある	41.4%
2位	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	39.7%
3位	学力が低下している	34.5%
4位	精神的な不安定さがある	34.5%
5位	遅刻や早退が多い	31.0%

n=58

ヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無については、クラス担任別と子どもと雑談するなどの心のゆとりの有無別に異なる結果となっています。クラス担任別では、担任または副担任を担当しているで「いる」「いない」の合計が51.5%、「わからない」が48.5%となっています。担任または副担任を担当していないでは「いる」「いない」の合計が28.8%、「わからない」が71.2%となっており、「わからない」の割合が担当しているより高いことから、担任または副担任の教職員がより子どもの様子や状況を把握していると考えられます。

子どもと雑談するなどの心のゆとりの有無別では、心のゆとりがあると思わないで「わからない」が62.5%と最も高くなっており、とてもそう思うでは「わからない」が40.7%で最も低くなっています。全体の傾向として、ややそう思うのみ「わからない」が57.7%と高くなっていますが、ゆとりがあると思わない教職員は「わからない」の割合が高くなっており、ゆとりがあると思う教職員は「わからない」が低くなっています。この結果から子どもたちと雑談するなど心のゆとりがないと思う教職員は、ヤングケアラーと判断するための根拠となる子どもの様子について把握ができていないと考えられます。

(3) 家族の世話による負担・影響

小学生向け・中学生向けアンケート結果を比較すると、ケアの対象や大変さやつらさについて異なっています。ケアの対象は、小学生では年下のきょうだい、母親、祖母となっていますが、中学生では母親などに加えて祖父や年上のきょうだい、父親など対象が広がっています。世話の内容も家事などに加えて薬の管理や金銭管理など多岐に渡っています。

世話の大変さやつらさは、小学生では「少しつらい」が体力面で11.1%、気持ちの面で33.3%となっていますが、中学生では体力面で「少しつらい」が16.7%、気持ちの面で「少しつらい」が16.7%、「かなりつらい」が16.7%となっています。小学生よりも中学生のほうが世話の対象や内容が変わることで負担が大きくなると考えられます。特に中学生向けアンケート結果では、世話を手伝う人がいないという回答があったことから、家族の世話を一人で担うことによって負担が集中している可能性があります。世話の日数は、小学生・中学生とも週の半分以上を占める回答が半数以上となっています。

家族の世話をしている小学生・中学生の学校生活で該当するものは、小学生では「提出物を出すのが遅れることが多い」「持ち物の忘れ物が多い」に回答があります。中学生では提出物の遅れや持ち物の忘れ物に加えて、「宿題や課題ができないことが多い」「授業中に居眠りすることが多い」などが回答されており、家族の世話が日常生活や学業に影響を与えていると考えられます。また提出物の遅れがあるという回答は、教職員がヤングケアラーではないかと感じる子どもの状況とも合致しています。

(4) ヤングケアラーが必要としている支援について

小学生・中学生向けアンケート結果では、学校や周りの大人にしてもらいたいことで「自由に使える時間がほしい」が小学生では44.4%、中学生が14.3%と小中学生両方で回答されているため、家族の世話により子どもの自由な時間が制限されている可能性があります。「自分の今の状況について話を聞いてほしい」も小学生が44.4%、中学生が7.1%とともに回答されていることから、家族の世話をしている子どもの状況を理解し、話に耳を傾けてあげることが必要ではないかと考えられます。

中学生では、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」「学校の勉強や受験勉強などの学習のサポート」（ともに21.4%）が回答されており、中学校卒業以降を見据えた進路や学習面での支援が求められています。また「家庭への経済的（金銭面）な支援」「その他

(自分の親のことについて相談したい)」が回答されていることから、家庭全体の困り事への支援が必要であると考えられます。

(5) ヤングケアラーの認知度とイメージについて

小学生・中学生向けアンケート結果では、ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについて小学生では「聞いたことがある」が 29.1%、「聞いたことがない」が 70.9%となっています。中学生では「聞いたことがある」が 46.1%、「聞いたことがない」が 53.9%となっており、中学生でより認知されています。ヤングケアラーという言葉はどこで知ったかは、テレビ・新聞、インターネットが上位にあがっていますが、それ以外では、学校が小学生では 10.8%、中学生では 21.5%となっているため、学校による周知の影響と考えられます。

ヤングケアラー状態の生活への影響について認知度別でみると、小学生の言葉を聞いたことがない人では「学校にあまり行けなくなる」で約 15 ポイントの差が出ています。また「寝る時間が少なくなる」「勉強できる時間が少なくなる」では約 10 ポイント低くなっています。聞いたことがある人では、いずれの選択肢においても割合が 60%以上と高くなっています。中学生では、言葉を聞いたことがある人・ない人ともいずれの選択肢においても 6 割以上の高い割合となっています。また聞いたことがない人では、「わからない」の回答割合が小学生では 11.7%、中学生では 15.6%となっています。

テレビやインターネット、学校によりヤングケアラーという言葉と概念は小中学生に広く認知されている状況にあると考えられますが、知らない人に対して今後周知を図っていく必要があると考えられます。

(6) ヤングケアラーへの対応や関係機関の連携について

教職員アンケート結果のヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合の学校での対応方法として適当と思われる手段では、「子ども本人に詳しい話を聞く」「職員会議に諮る」に次いで「SSW に相談する」「SC に相談する」がそれぞれ 56.6%と 56.1%と高くなっています。またヤングケアラーを支援するために必要なことの回答では、「SSW や SC などの専門職の配置が充実すること」が 64.5%で 3 番目に高くなっており、教職員のみで対処するのではなく、SSW・SC といった専門職との連携を重視していることがうかがえます。

ヤングケアラーの問題について相談できる窓口や外部機関で知っているものは、児童相談所が 84.2%で最も高くなっていますが、市役所の家庭児童相談室および福祉総合相談室はそれぞれ 38.2%、27.6%と低くなっています。ヤングケアラーの子どもを支援するために今後連携を強化していきたいと思う機関は、児童相談所の 71.5%に次いで福祉総合相談室が 57.5%となっているため、現状はあまり認知がされていませんが、今後は連携体制を構築していくことが重要であると考えられます。

今後市役所に期待することとしては、ヤングケアラーの基準や早期発見につながる助言や家庭環境が困難な児童生徒と保護者への関わり方への助言が上位となっており、教職員

への研修や出前講座の回答も多くなっていることから、市役所から学校に出向くことで必要としている支援を行い、連携を図ることが重要であると考えられます。

(7) 相談窓口の周知・相談環境について

小学生向けアンケート結果の自分のことや家族のことについて相談をしてみたいと思う場所は、「この中にはない」が58.3%で最も高く、次いで「学校の先生」が39.4%となっています。中学生向けアンケートにおいても同様の結果で「この中にはない」が64.0%、「学校の先生」が31.9%であり、学校以外での相談は子どもがしてみたいと思っていないため、相談しやすい環境を整備することが必要であると考えられます。教職員アンケート結果の必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項の回答において、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」が最も高くなっていることから、子ども向けの相談体制の整備は重視されていることがうかがえます。

中学生向けアンケート結果からは、学校以外で家族のことについて相談できる場所を知っているかについて、「どれも知らない」が78.6%で最も高くなっています。また世話の悩みについて誰かに相談したことの有無別にみると、相談したことがない人はどれも知らないが約7割を占めているため、相談できる場所が認知されていないことが課題であると考えられます。

また世話の大変さやつらさを誰かに相談したことの有無別にみると、気持ちの面でつらいと感じているが相談をしたことがない人がいるため、つらさを感じている子どもを相談につなげるための支援が必要であると考えられます。

大府市ヤングケアラー支援アンケート調査 調査結果報告書

発行年月：令和5年3月

発行：大府市役所 福祉部福祉総合相談室

TEL 0562-45-6219 FAX 0562-47-3150